

A工区地質記載シート

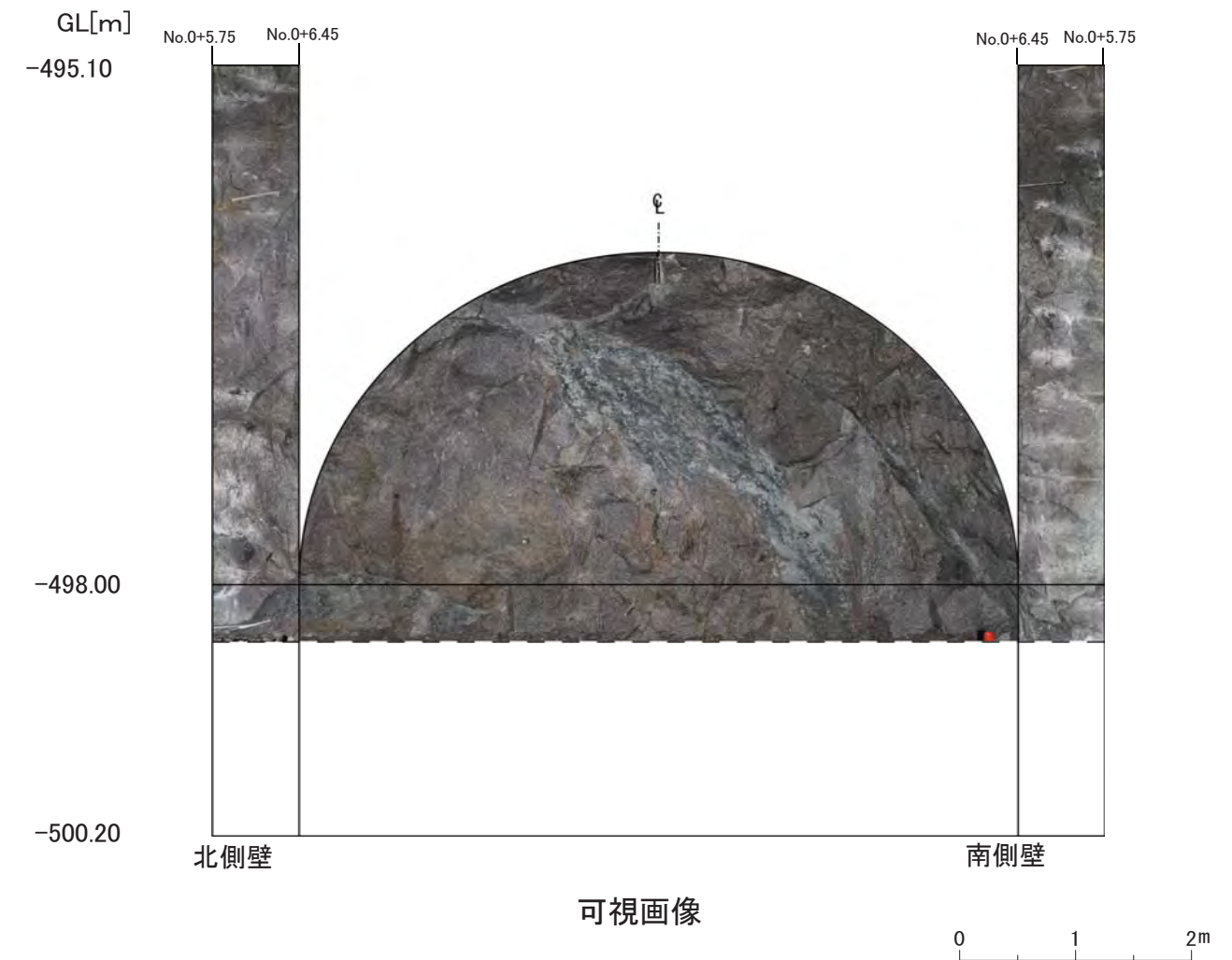
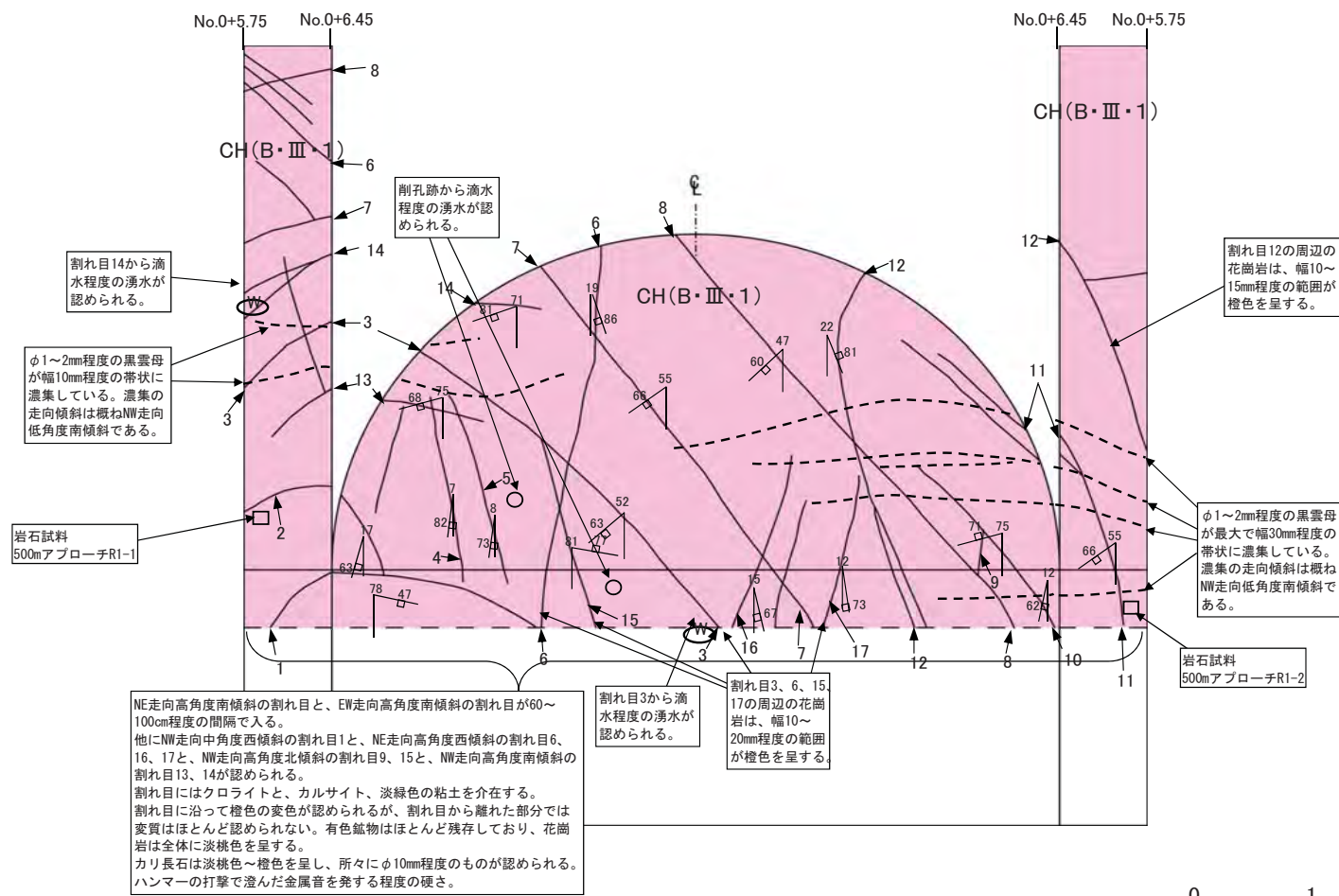
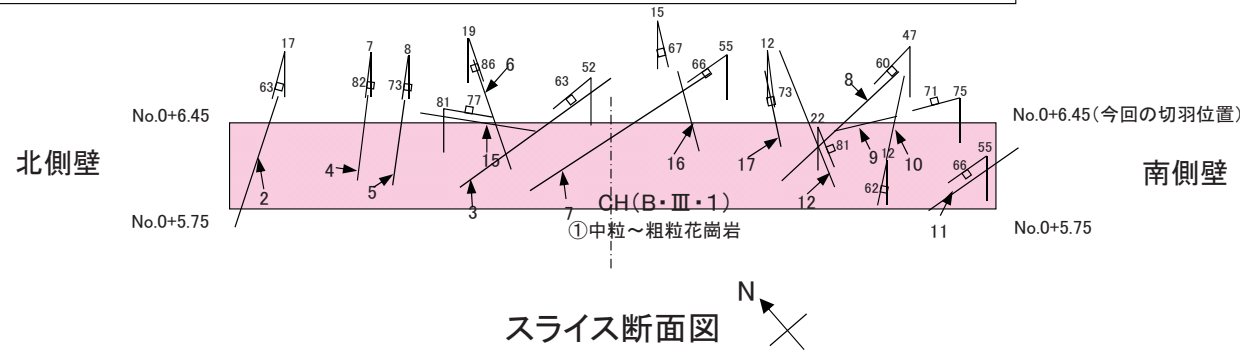
A4-請負-計測工(地質)-110902

シート番号	500mアクセス北1	日時	2011/9/2 14:30~16:00	位置・深度	500mアクセス北1 G.L. -495.1 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	------------	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	湧水	黒雲母の濃集
----	-----	-----	----------	----	--------



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.1m~-498m CH G.L. -498m~-500.2m CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡褐色、淡緑色、暗緑色)	RMR値	G.L. -495.1m~-498m 61 G.L. -498m~-500.2m 61
風化	α	岩石試料番号	500m予備ステージR5-1 (花崗岩)、500m予備ステージR5-2 (花崗岩)
変質	1~3	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアプローチ坑道の横坑であり、掘進方向はN41E方向である。横坑観察は切羽から0.7m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。所々、φ10mm程度のカリ長石が認められる。花崗岩は全体に変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目周辺の花崗岩は、幅10~20mm程度が橙色を呈する箇所が認められる。割れ目はNE走向高角度南傾斜と、EW走向高角度南傾斜のものが主体である。他に、NW走向中角度西傾斜の割れ目、NE走向高角度西傾斜の割れ目、NW走向高角度北傾斜と南傾斜の割れ目が認められた。

湧水は北側壁の割れ目14と、鏡面中央付近の割れ目3から、滴水程度で認められた。他に、鏡面左側の割れ目から滴水程度が認められた。岩級区分は、割れ目間隔が概ね60~100cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

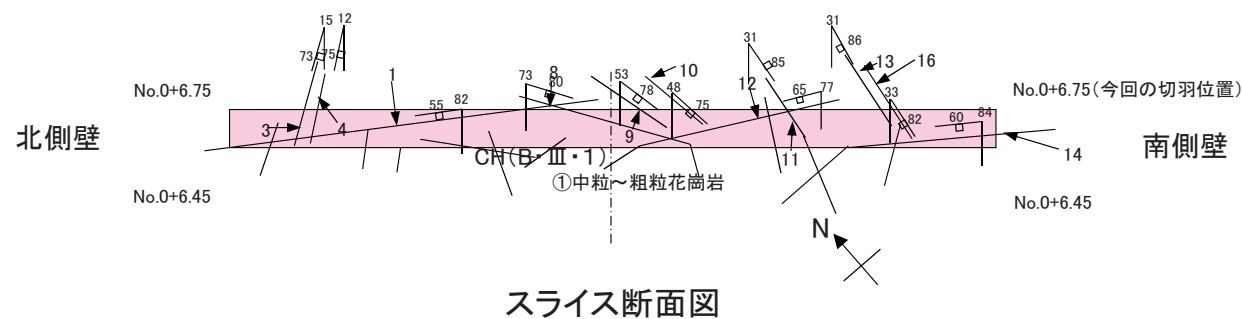
A4-請負-計測工(地質)-110903

シート番号	500mアクセス北2	日時	2011/9/3 14:30~16:00	位置・深度	500mアクセス北2 G.L. -495.1 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	------------	----	-------------------------	-------	---	--------	--

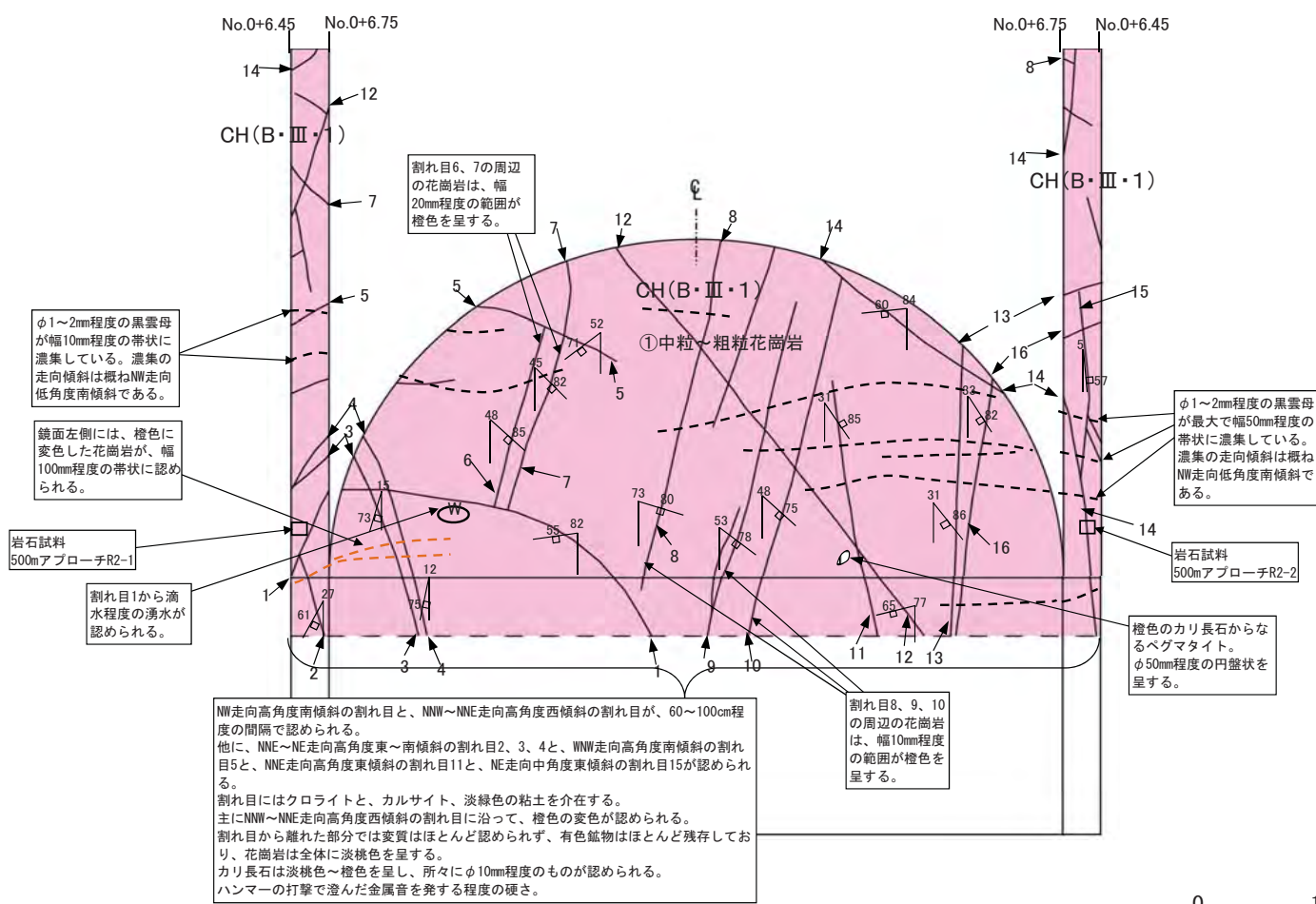
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

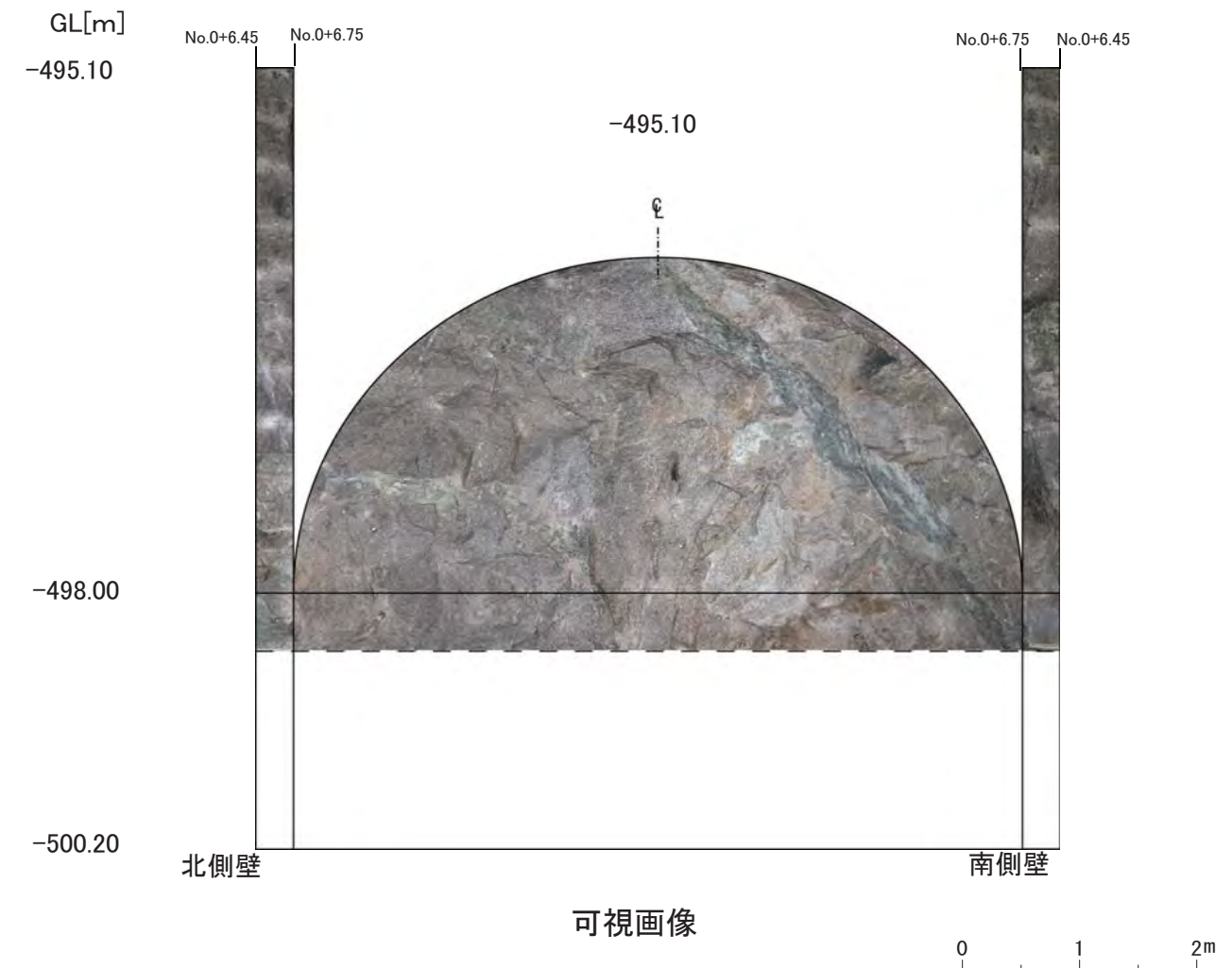
凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	湧水	黒雲母の濃集	ベグマタイト	花崗岩の変色
----	-----	-----	----------	----	--------	--------	--------



スライス断面図



スケッチ



可視画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.1m~-498m CH G.L. -498m~-500.2m CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色)	RMR値	G.L. -495.1m~-498m 61 G.L. -498m~-500.2m 61
風化	α	岩石試料番号	500mアプローチR2-1 (花崗岩)、500mアプローチR2-2 (花崗岩)
変質	1~3	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアプローチ坑道の横坑であり、掘進方向はN41E方向である。横坑観察は切羽から0.3m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。所々、φ10mm程度のカリ長石が認められる。花崗岩は全体に変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。主にNNW~NNE走向高角度西傾斜の割れ目に沿って、割れ目周辺の花崗岩は、幅10~20mm程度が橙色を呈する。割れ目はNNW~NNE走向高角度西傾斜と、NW走向高角度南傾斜のものが主体である。他に、NNE~NE走向高角度東~南傾斜の割れ目と、WNW走向高角度南傾斜の割れ目と、NNE走向高角度東傾斜の割れ目と、NE走向中角度東傾斜の割れ目が認められた。

湧水は鏡面中央付近の割れ目1から、滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目間隔が概ね60~100cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

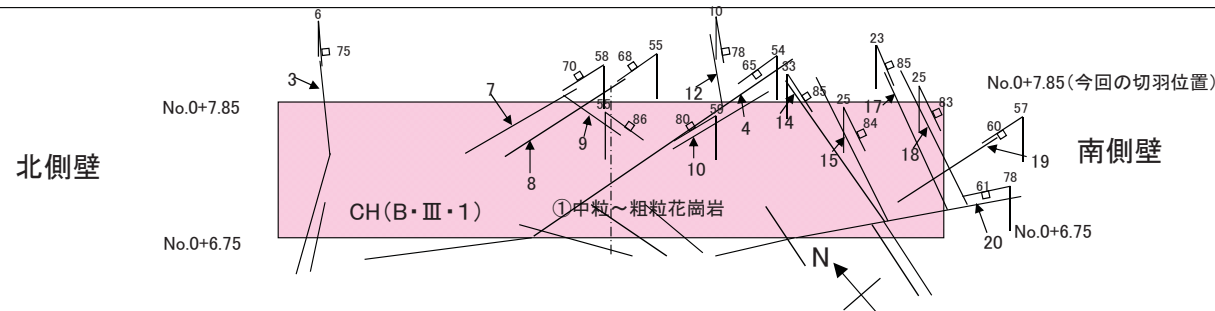
A4-請負-計測工(地質)-110907

シート番号	500mアクセス北3	日時	2011/9/7 15:00~16:30	位置・深度	500mアクセス北3 G.L. -495.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	------------	----	-------------------------	-------	---	--------	--

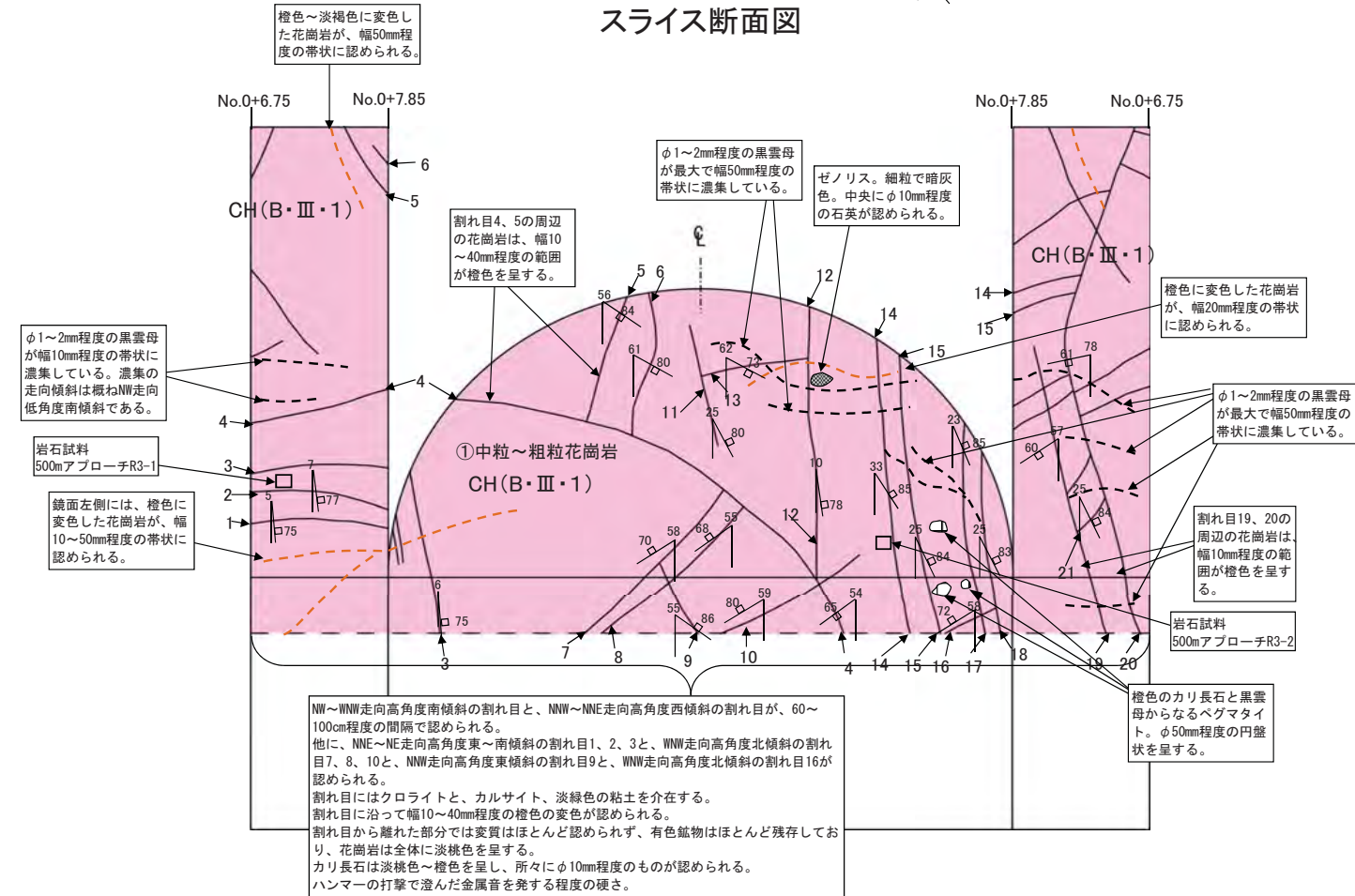
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

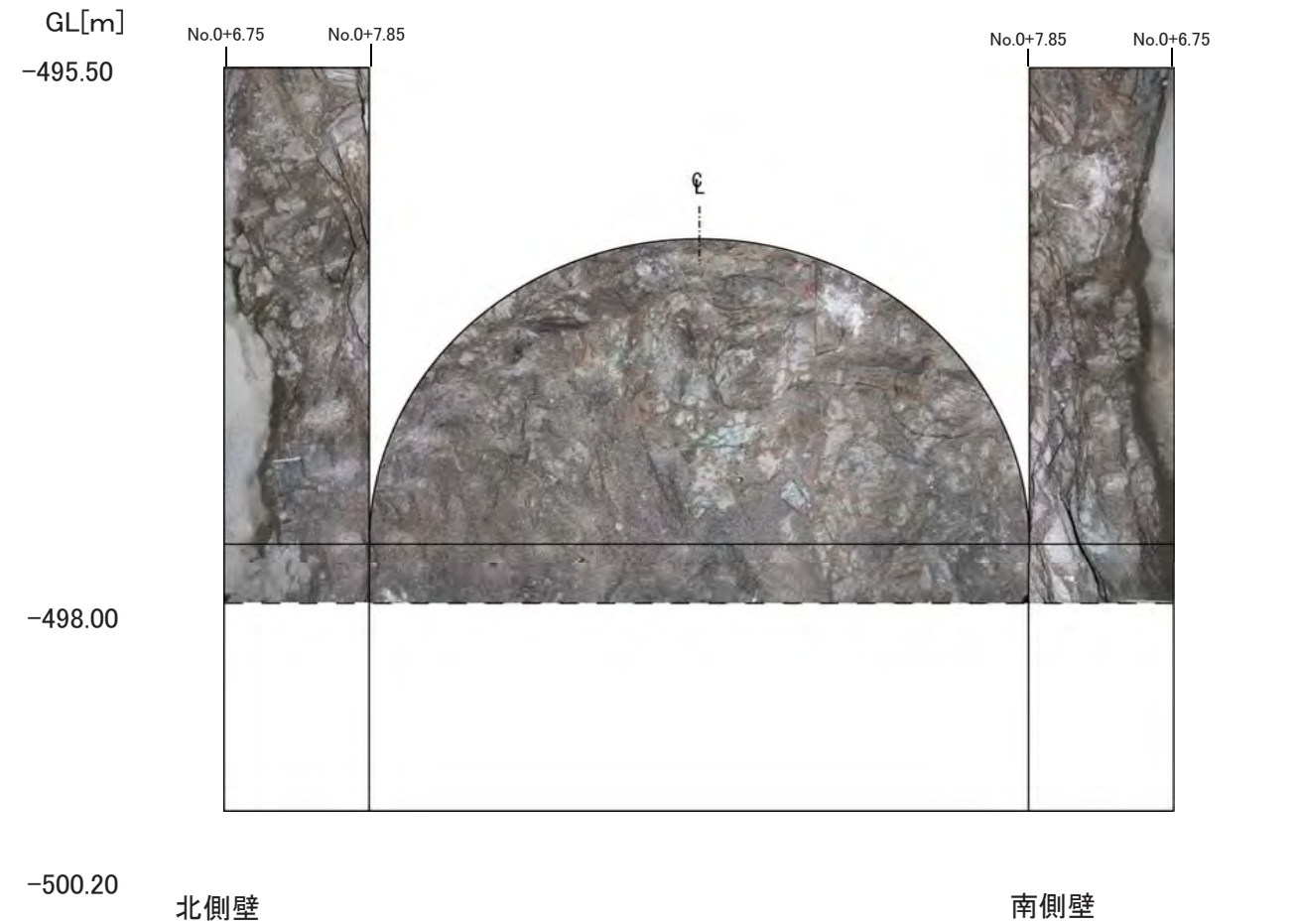
凡例	花崗岩	割れ目	79° 割れ目の走向傾斜	ゼノリス	黒雲母の濃集	ベグマタイト	花崗岩の変色
----	-----	-----	--------------	------	--------	--------	--------



スライス断面図



スケッチ



可視画像

0 1 2m

0 1 2m

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH G.L. -498m~-500.2m CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 67 G.L. -498m~-500.2m 67
風化	α	岩石試料番号	500mアプローチR3-1 (花崗岩)、500mアプローチR3-2 (花崗岩)
変質	1~3	採水試料番号	-
湧水	無し		

特記事項

当箇所はアプローチ坑道の横坑であり、掘進方向はN41E方向である。横坑観察は切羽から1.1m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。所々、φ10mm程度のカリ長石が認められる。花崗岩は全体に変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目周辺で幅10~40mm程度が橙色を呈する箇所が認められる。また、割れ目周辺以外でも幅10~50mm程度の帯状に橙色を呈する箇所が認められる。割れ目はNNW~NNE走向高角度西傾斜と、NW~WNW走向高角度南傾斜のものが主体である。他に、NNE~NE走向高角度東~南傾斜の割れ目と、WNW走向高角度北傾斜の割れ目と、NNW走向高角度東傾斜の割れ目と、WNW走向高角度北傾斜の割れ目が認められた。

湧水は認められなかった。岩級区分は、割れ目間隔が概ね60~100cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

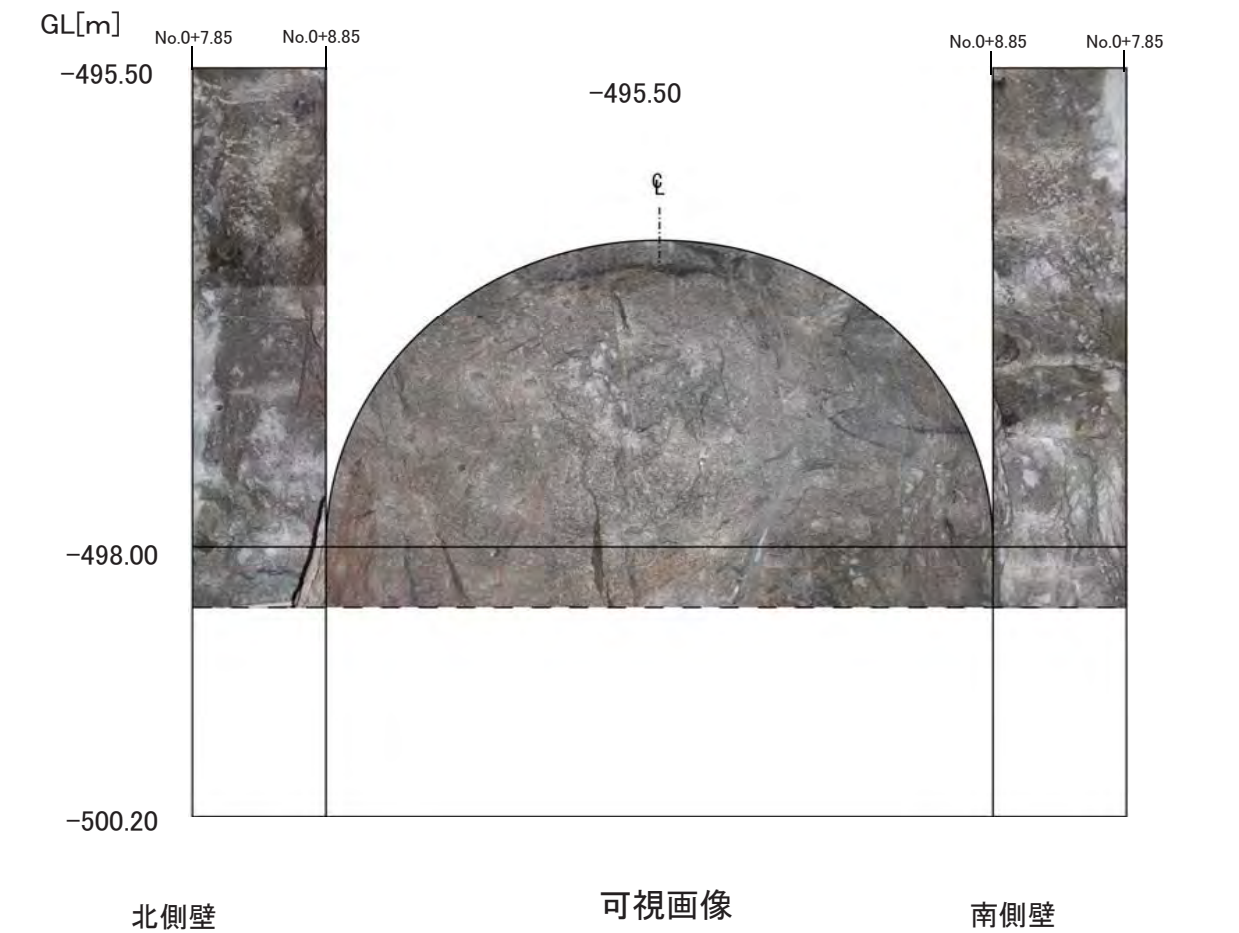
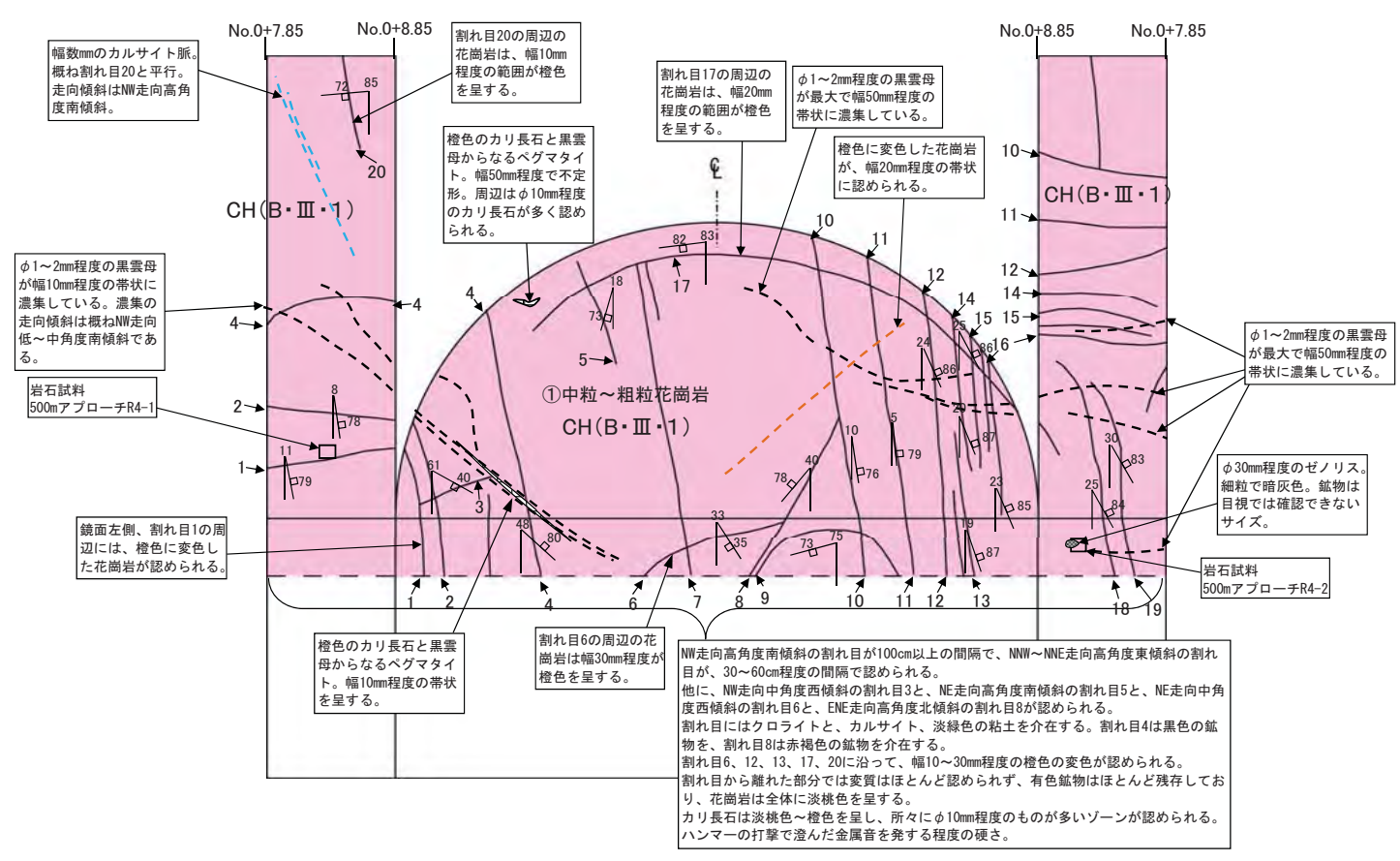
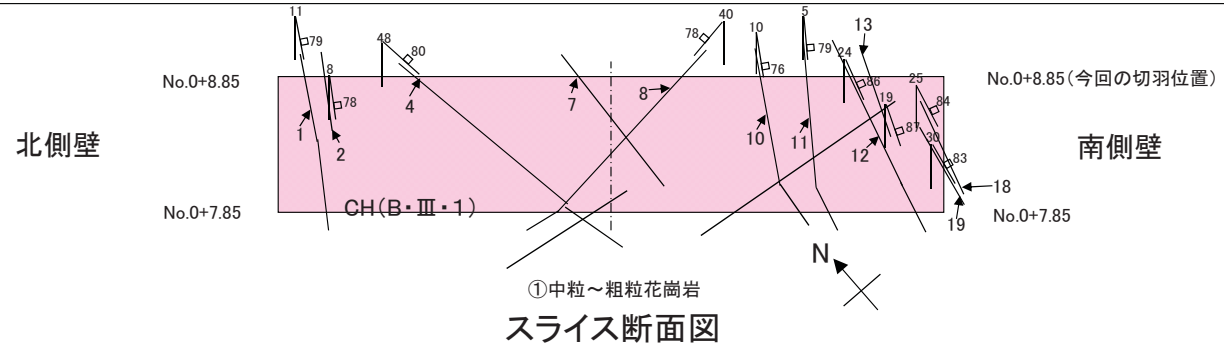
A4-請負-計測工(地質)-110909

シート番号	500mアクセス北4	日時	2011/9/9 15:00~16:30	位置・深度	500mアクセス北4 G.L. -495.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	------------	----	-------------------------	-------	---	--------	--

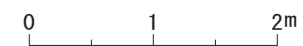
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	79° 割れ目の走向傾斜	ゼノリス	黒雲母の濃集	ペグマタイト	花崗岩の橙色変色	カルサイト脈
----	-----	-----	--------------	------	--------	--------	----------	--------



スケッチ



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH G.L. -498m~-500.2m CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 67 G.L. -498m~-500.2m 67
風化	α	岩石試料番号	500mアプローチR4-1 (花崗岩)、500mアプローチR4-2 (花崗岩)
変質	1~3	採水試料番号	-
湧水	無し		

特記事項	<p>当箇所はアプローチ坑道の横坑であり、掘進方向はN41E方向である。横坑観察は切羽から1.0m離れた場所より目視観察を実施した。</p> <p>岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。鏡面左側にはφ10mm程度のカリ長石が多いゾーンが認められる。</p> <p>花崗岩は全体に変質の程度は弱いほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物は残存している。</p> <p>割れ目周辺の花崗岩には幅10~30mm程度が橙色を呈する箇所が認められる。また、割れ目周辺以外でも幅20mm程度の帯状に橙色を呈する箇所が認められる。</p> <p>割れ目はNW走向高角度南傾斜と、NNW~NNE走向高角度東傾斜のものが主体である。他に、NW走向中角度西傾斜の割れ目と、NE走向高角度南傾斜の割れ目と、NE走向中角度西傾斜の割れ目と、ENE走向高角度北傾斜の割れ目が認められた。</p> <p>割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土が認められた。他に、割れ目4では黒色の鉱物が、割れ目8では赤褐色の鉱物が認められた。</p> <p>湧水は認められなかった。</p> <p>岩級区分は、割れ目間隔が概ね30~100cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。</p>
------	---

A工区地質記載シート

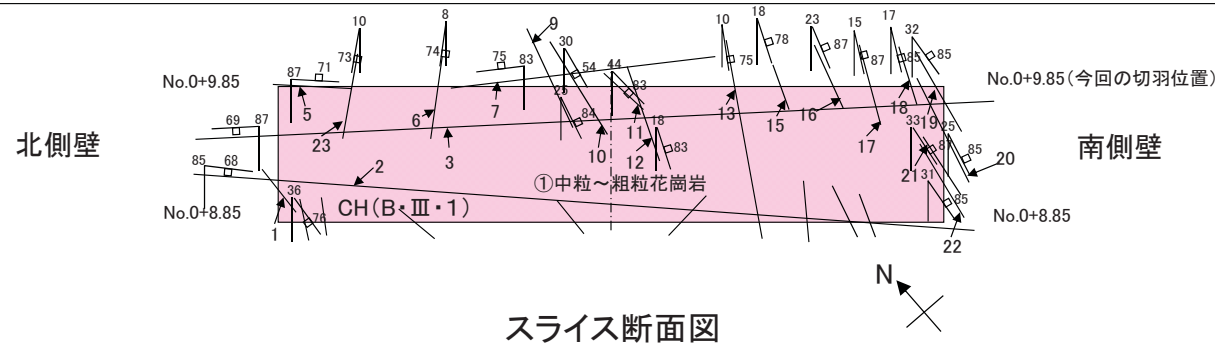
A4-請負-計測工(地質)-110913

シート番号	500mアクセス北5	日時	2011/9/13 16:00~17:30	位置・深度	500mアクセス北5 G.L. -495.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

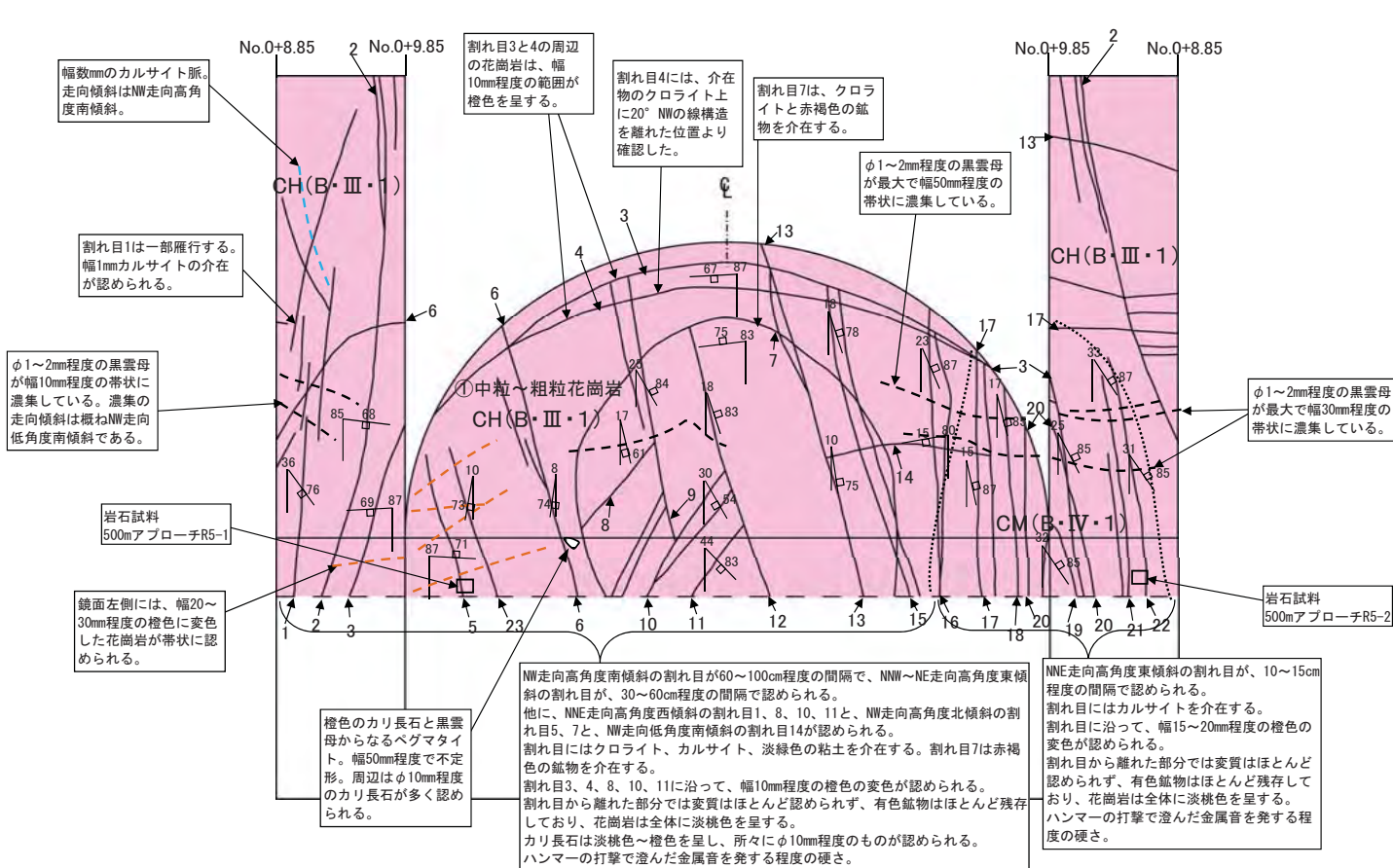
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

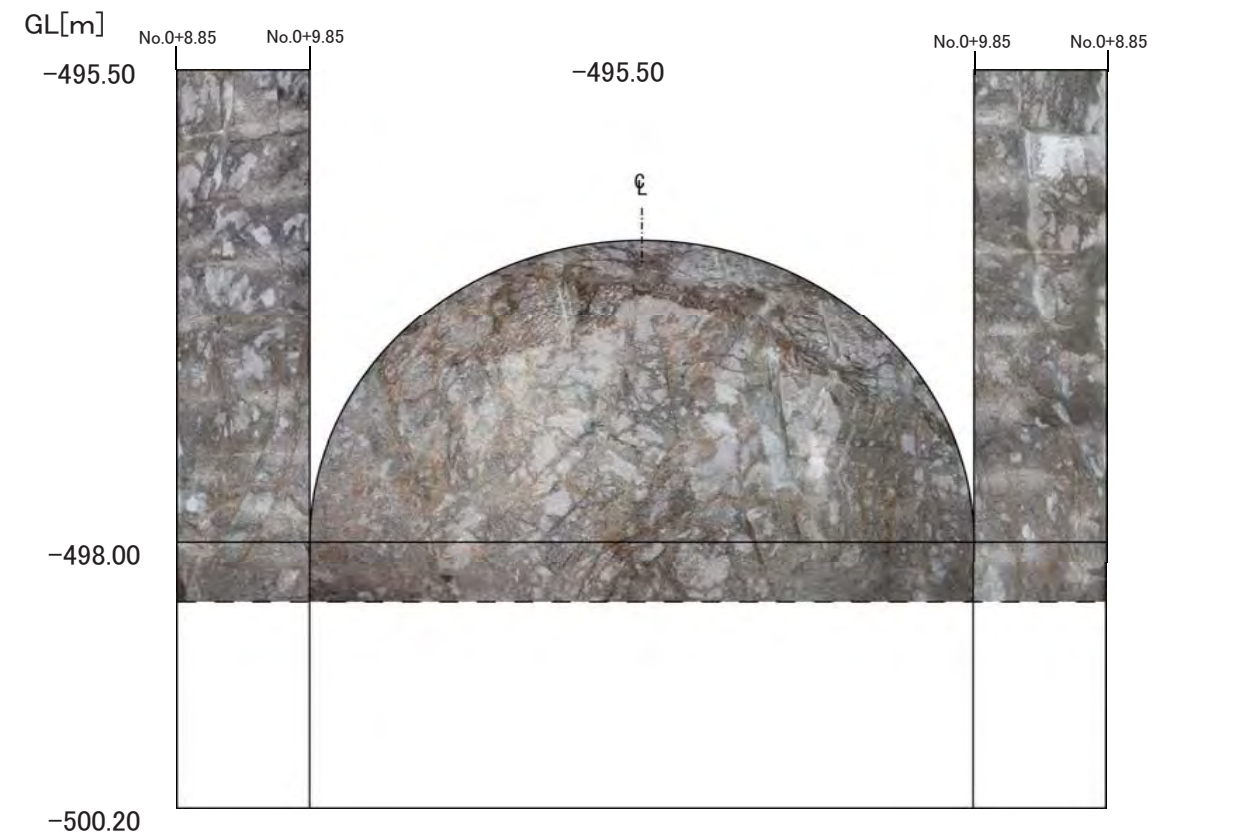
凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 ベグマタイト 黒雲母の濃集 花崗岩の橙色変色 カルサイト脈 岩級区分境界



スライス断面図



スケッチ



北側壁

可視画像

南側壁

0 1 2m

0 1 2m

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM G.L. -498m~-500.2m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 57 G.L. -498m~-500.2m 57
風化	α	岩石試料番号	500mアプローチR5-1 (花崗岩)、500mアプローチR5-2 (花崗岩)
変質	1~3	採水試料番号	-
湧水	無し		

特記事項

当箇所はアプローチ坑道の横坑であり、掘進方向はN41E方向である。横坑観察は切羽から1.0m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々φ10mm程度のカリ長石が認められる。花崗岩は全体に変質の程度は弱いからほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物は残存している。割れ目周辺の花崗岩には幅10~20mm程度が橙色を呈する箇所が認められる。また、割れ目周辺以外でも鏡面左側には幅20~30mm程度の帯状に橙色を呈する箇所が認められる。割れ目はNW走向高角度南傾斜と、NNW~NN走向高角度東傾斜のものが主体である。他に、NNE走向高角度西傾斜の割れ目と、NW走向高角度東傾斜の割れ目と、NW走向低角度南傾斜の割れ目が認められた。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土が認められた。他に、割れ目7では赤褐色の鉱物が認められた。湧水は認められなかった。岩級区分は、鏡面中央から左側は、割れ目間隔が概ね30~100cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。鏡面右側の一部は、割れ目間隔が10~15cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ・1)級と評価した。

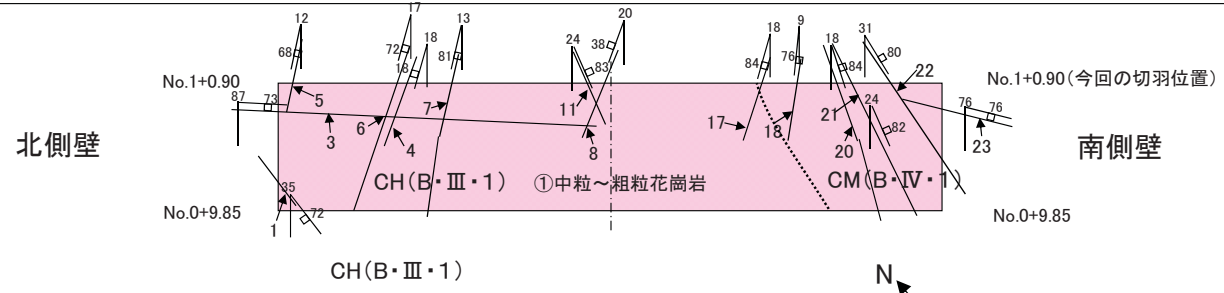
A工区地質記載シート

シート番号	500mアクセス北6	日時	2011/9/15 16:00~17:30	位置・深度	500mアクセス北6 G.L. -495.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

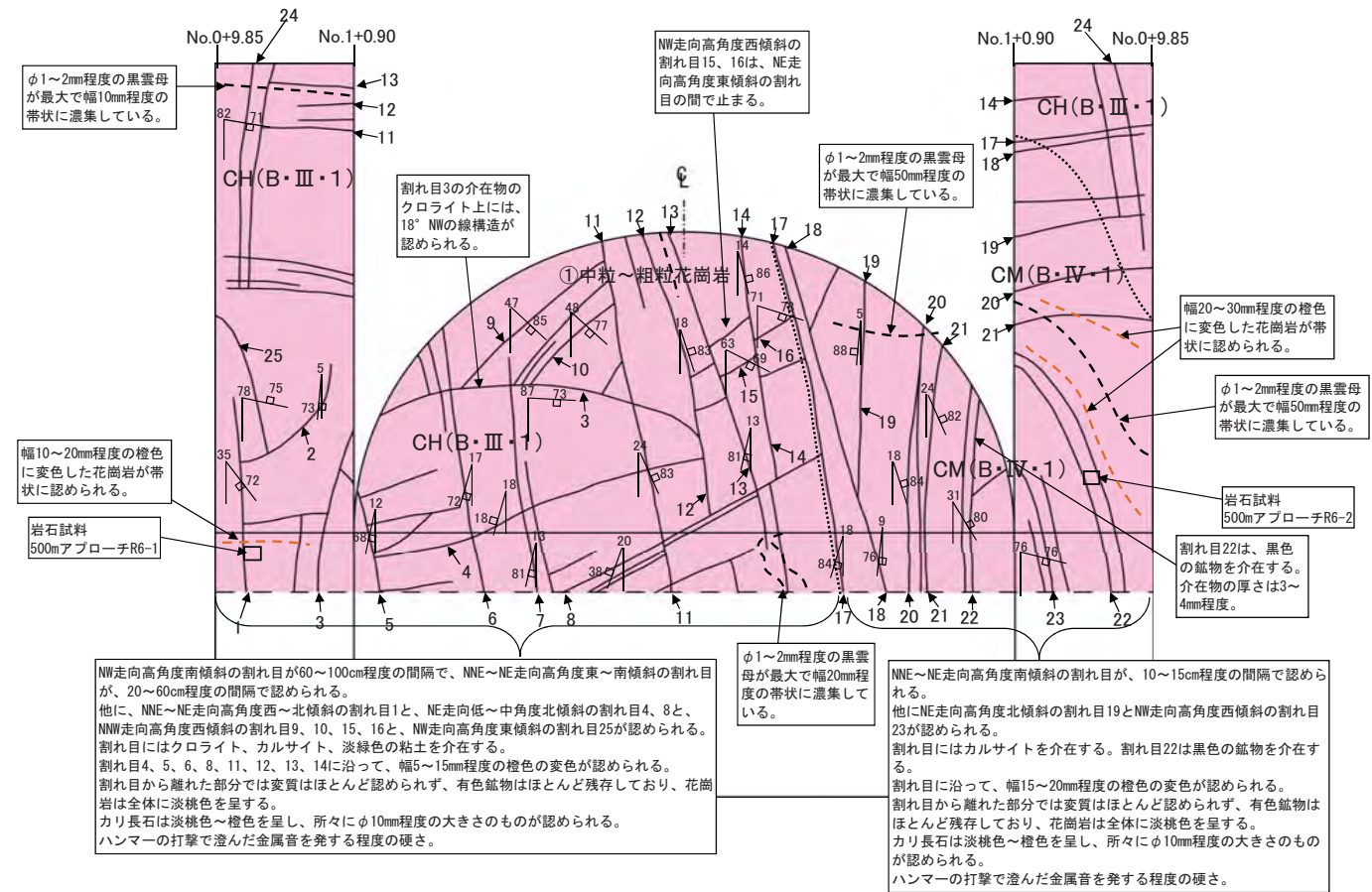
A4-請負-計測工(地質)-110915		
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

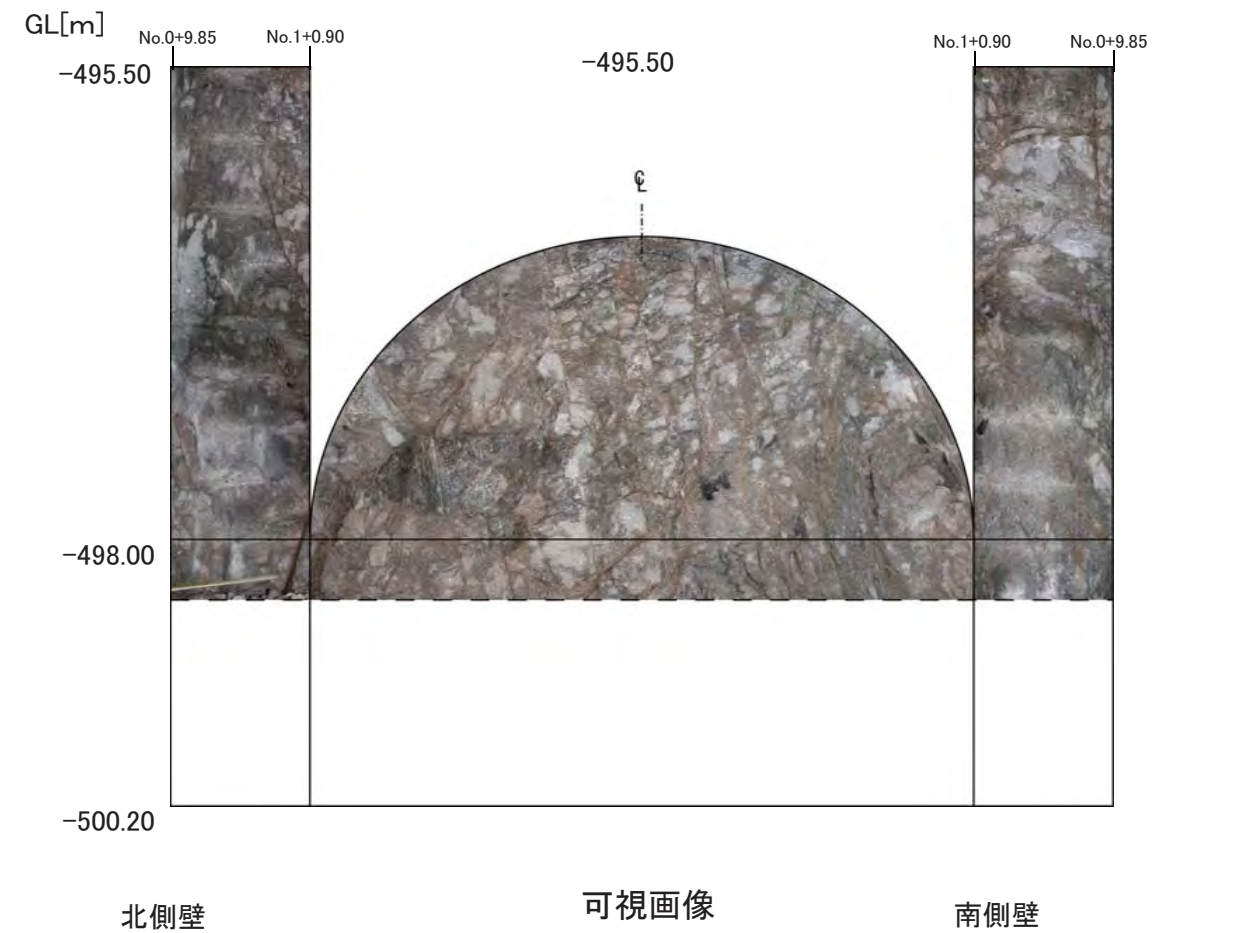
凡例	花崗岩	割れ目	79° 割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	黒雲母の濃集	花崗岩の橙色変色
----	-----	-----	--------------	--------	--------	----------



スライス断面図



スケッチ



北側壁

可視画像

南側壁

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM G.L. -498m~-500.2m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 57 G.L. -498m~-500.2m 57
風化	α	岩石試料番号	500mアプローチR6-1 (花崗岩)、500mアプローチR6-2 (花崗岩)
変質	1~3	採水試料番号	-
湧水	無し		

特記事項

当箇所はアプローチ坑道の横坑であり、掘進方向はN41E方向である。横坑観察は切羽から1.05m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。花崗岩は全体に変質の程度は弱いほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物は残存している。割れ目周辺の花崗岩には幅5~20mm程度が橙色を呈する箇所が認められる。また、割れ目周辺以外でも幅10~30mm程度の帯状に橙色を呈する箇所が認められる。割れ目はNW走向高角度南傾斜と、NNE~NE走向高角度東~南傾斜のものが主体である。他に、NNE~NE走向高角度西~北傾斜の割れ目と、NE走向低~中角度北傾斜の割れ目と、NNW走向高角度西傾斜の割れ目と、NW走向高角度東傾斜の割れ目が認められた。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土が認められた。他に、割れ目22では黒色の鉱物が認められた。割れ目3の介在物のクロライト上には、18° NWの線構造が認められた。湧水は認められなかった。岩級区分は、鏡面中央から左側は、割れ目間隔が概ね20~100cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。鏡面右側の一部は、割れ目間隔が10~15cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

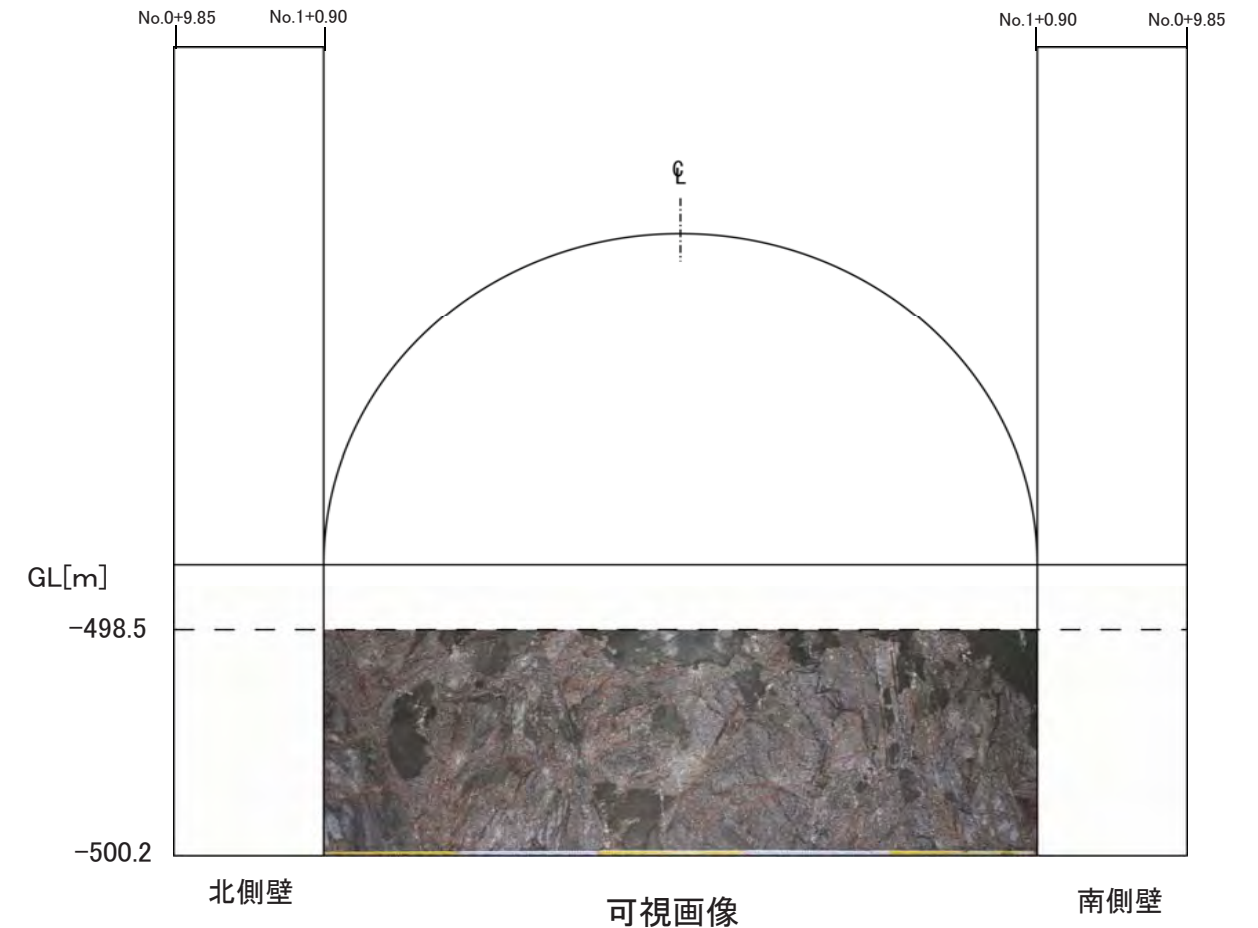
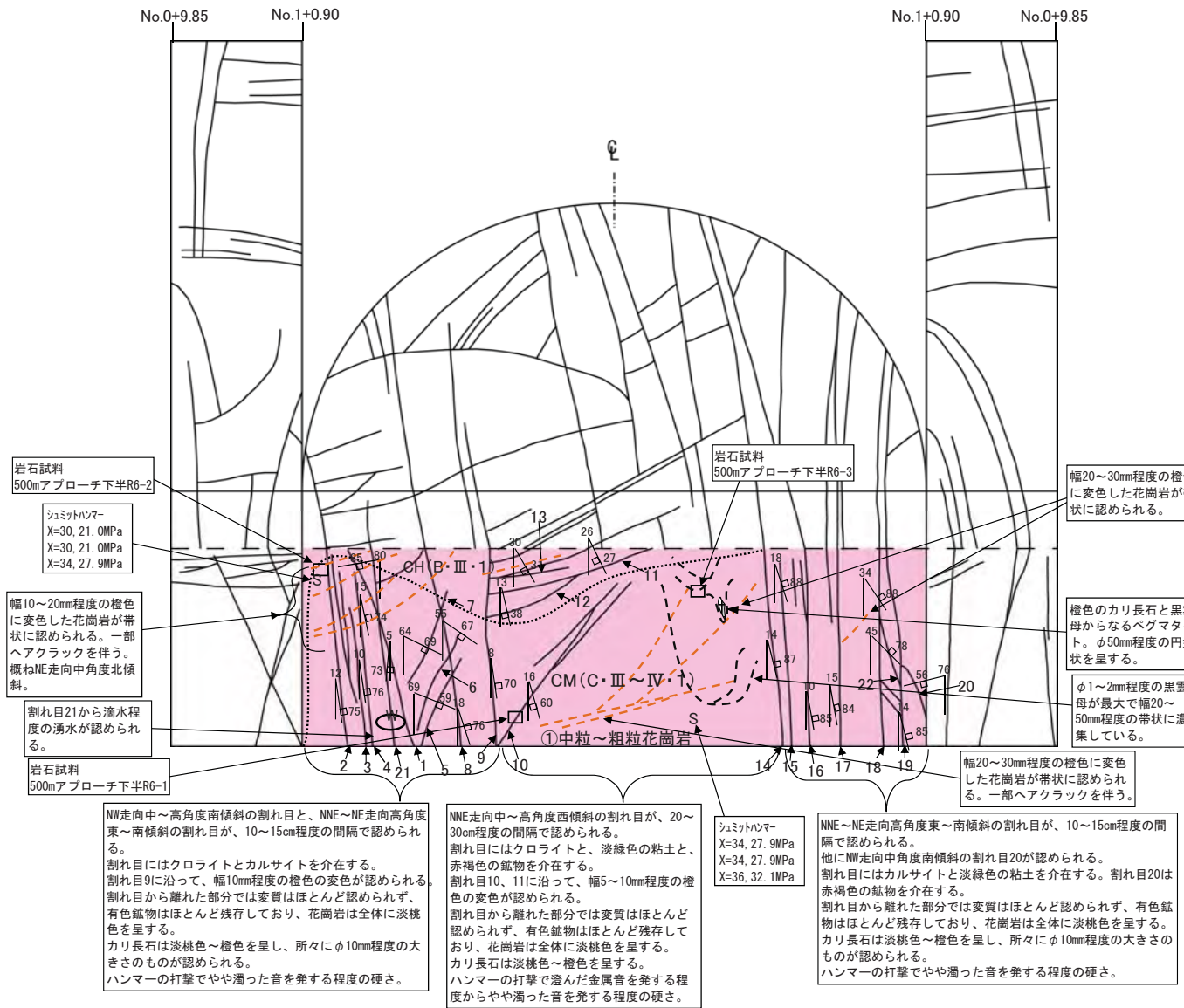
A4-請負-計測工(地質)-111003

シート番号	500mアクセス 北6下半	日時	2011/10/3 16:00~17:30	位置・深度	500mアクセス北6下半 G.L. -498.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	------------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	70° 割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	黒雲母の濃集	花崗岩の橙色変色	湧水
----	-----	-----	--------------	--------	--------	----------	----



スケッチ

*着色した範囲が今回の観察範囲

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -498.5m～-499.85m G.L. -499.85m～-500.2m	CM/CH CM/CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -498.5m～-499.85m G.L. -499.85m～-500.2m	54 50
風化	α	岩石試料番号	500mアプローチ下半R6-1 (花崗岩)、500mアプローチ下半R6-2 (花崗岩)、500mアプローチ下半R6-3 (花崗岩)	
変質	1～3	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

特記事項

当箇所はアプローチ坑道の横坑であり、掘進方向はN41E方向である。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2～7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。花崗岩は全体に変質の程度はほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物は残存している。割れ目周辺の花崗岩には幅5～10mm程度が橙色を呈する箇所が認められる。また、割れ目周辺以外でも幅10～30mm程度の帯状に橙色を呈する箇所が認められる。割れ目はNW走向中～高角度南傾斜と、NNE～NE走向高角度東～南傾斜のものが主体である。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土が認められた。他に、割れ目10、13、20では赤褐色の鉱物が認められた。湧水は割れ目21から滴水程度が認められた。岩級区分は、鏡面中央から左側の上半の一部は、割れ目間隔が概ね20～30cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。上記以外の鏡面の大半は、割れ目間隔が10～15cm程度で、ハンマーの打撃でやや濁った音を発する程度の硬さであることから、CM(C・IV・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

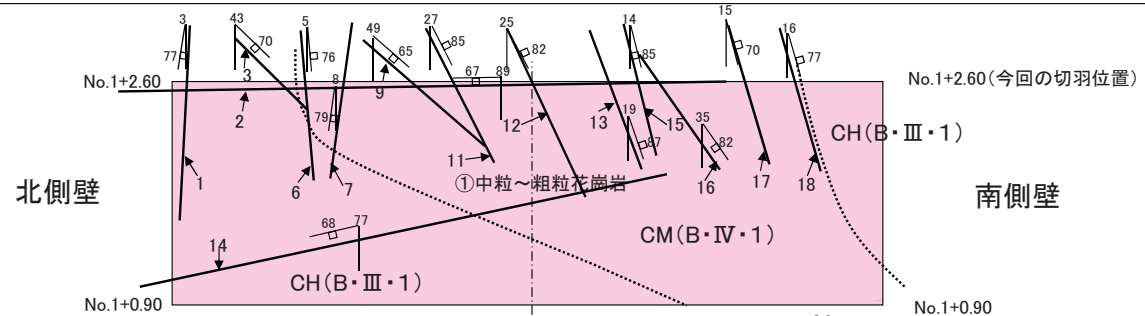
A5-請負-計測工(地質)-120802

シート番号	500mアクセス北坑道7	日時	2012/8/2 16:00~17:30	位置・深度	500mアクセス北坑道7 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	-------------------------	-------	---	--------	--

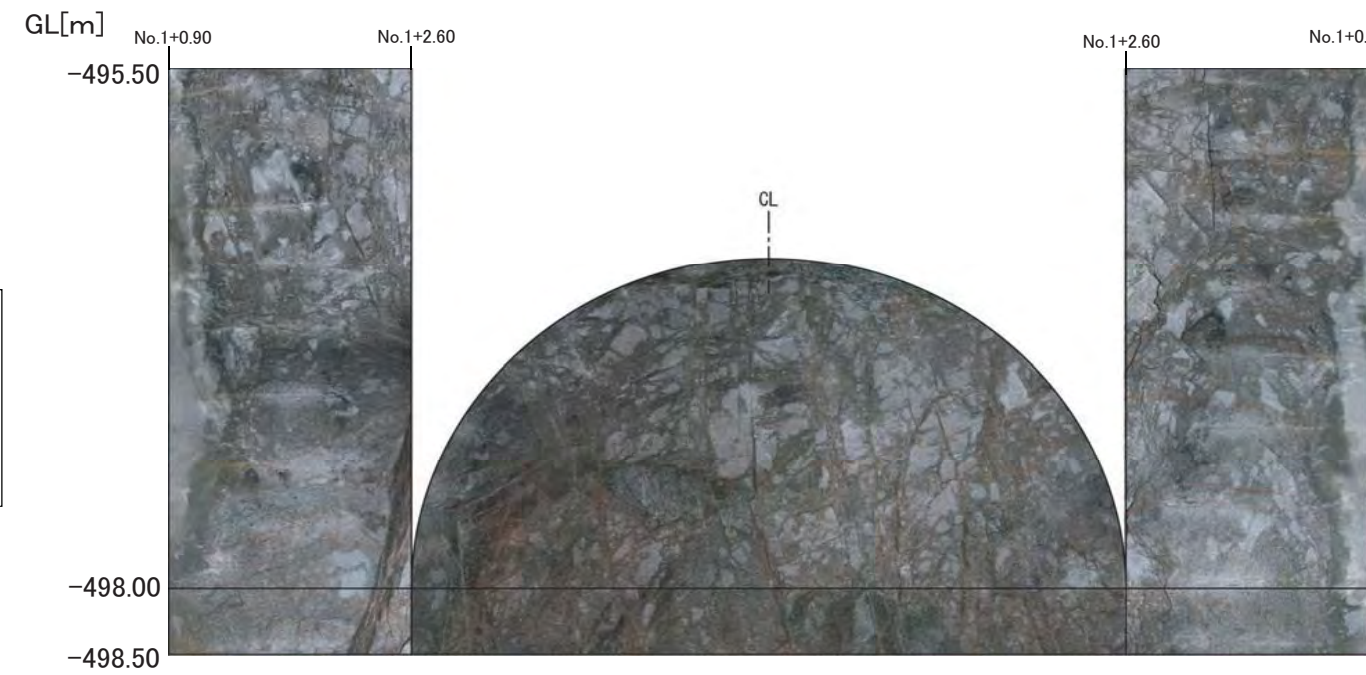
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

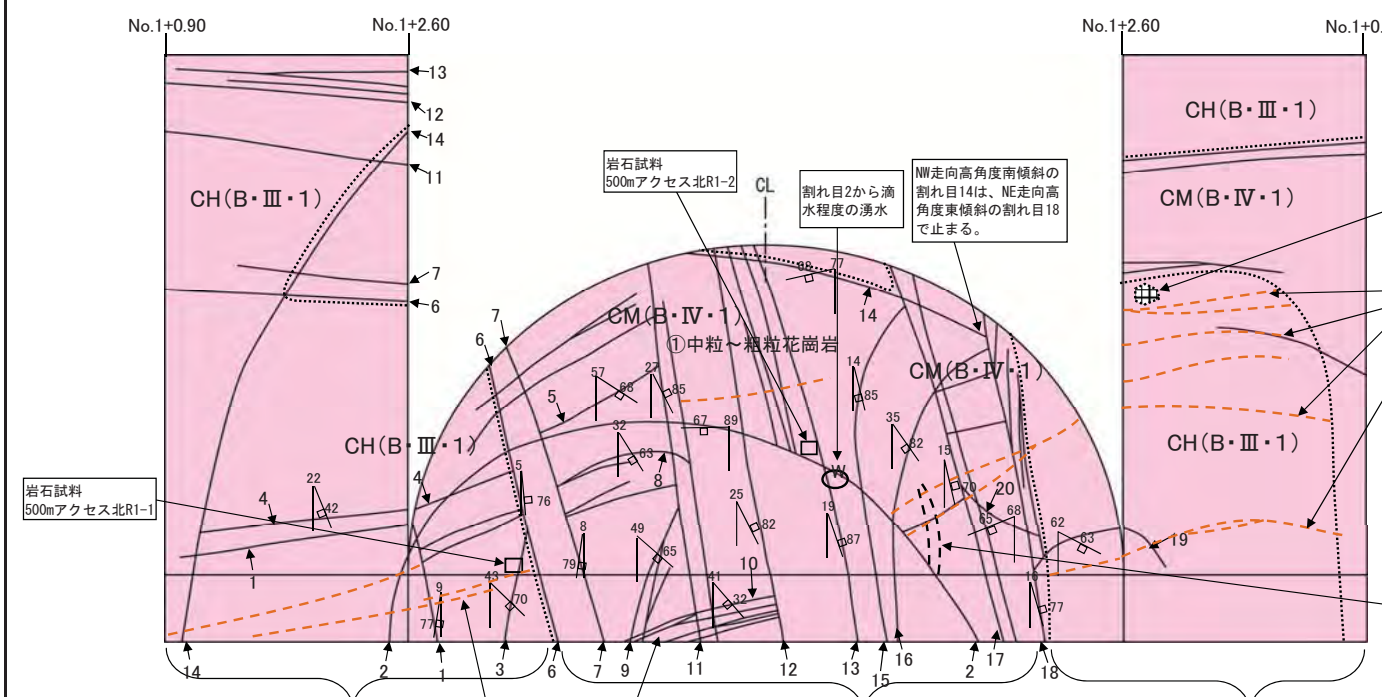
凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 黒雲母の濃集 花崗岩の橙色変色 湧水 捕獲岩



スライス断面図



北側壁 可視画像 南側壁



スケッチ

NW走向高角度南傾斜の割れ目が60~100cm程度の間隔で、NNE~NE走向高角度東~南傾斜の割れ目が、20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NNE~NE走向中~高角度西傾斜の割れ目4と、NNW走向高角度西傾斜の割れ目3が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土を介在する。割れ目3に沿って、幅10~15mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存しており、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。カリ長石は淡桃色~橙色を呈し、所々にφ10mm程度の大きさのものが認められる。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

幅10~20mm程度の橙色に変色した花崗岩が帯状に認められる。割れ目10と平行に1~3cm間隔で割れ目が密に入る。

NW走向高角度南傾斜の割れ目が60~100cm程度の間隔で、NNE走向高角度東傾斜の割れ目が10~15cm程度の間隔で認められる。他にNNE走向高角度西傾斜の割れ目8とNNW走向高角度西傾斜の割れ目5、9、NNW走向中角度西傾斜の割れ目10が認められる。割れ目にはカルサイトとクロライトを介在する。割れ目10、11、12、13、15、16に沿って、幅15~20mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存しており、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。カリ長石は淡桃色~橙色を呈し、特に下半で橙色を呈するカリ長石が多く認められる。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

割れ目はほとんど認められない。変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存しており、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

暗灰色で細粒の捕獲岩。肉眼では鉱物は認められない。

橙色に変色した花崗岩が幅20~30mm程度の帯状に認められる。変色しているのは主にカリ長石で一部淡褐色を呈する。また、橙色に変色した部分では有色鉱物の一部はクロライトに置き換わっている。

φ1~2mm程度の黒雲母が最大で幅50mm程度の帯状に濃集している。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 51 G.L. -498m~-498.5m 57
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R1-1 (花崗岩)、500mアクセス北R1-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN41E方向である。横坑観察は切羽から1.7m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。花崗岩は全体に変質の程度は弱いかほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目周辺の花崗岩には幅10~30mm程度が橙色を呈する箇所が認められる。また、割れ目周辺以外でも幅10~30mm程度の帯状に橙色を呈する箇所が認められる。割れ目はNW走向高角度南傾斜と、NNE~NE走向高角度東~南傾斜のものが主体である。他に、NNE~NE走向中~高角度西傾斜の割れ目と、NNW走向高角度西傾斜の割れ目、NNW走向中角度西傾斜の割れ目が認められた。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土が認められた。湧水は鏡面中央付近の割れ目2から滴水程度で認められた。岩級区分は、鏡面左側から北側壁と南側壁は、割れ目間隔が概ね20~100cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。鏡面中央付近と天端付近の一部は、割れ目間隔が10~15cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ・1)級と評価した。



A工区地質記載シート

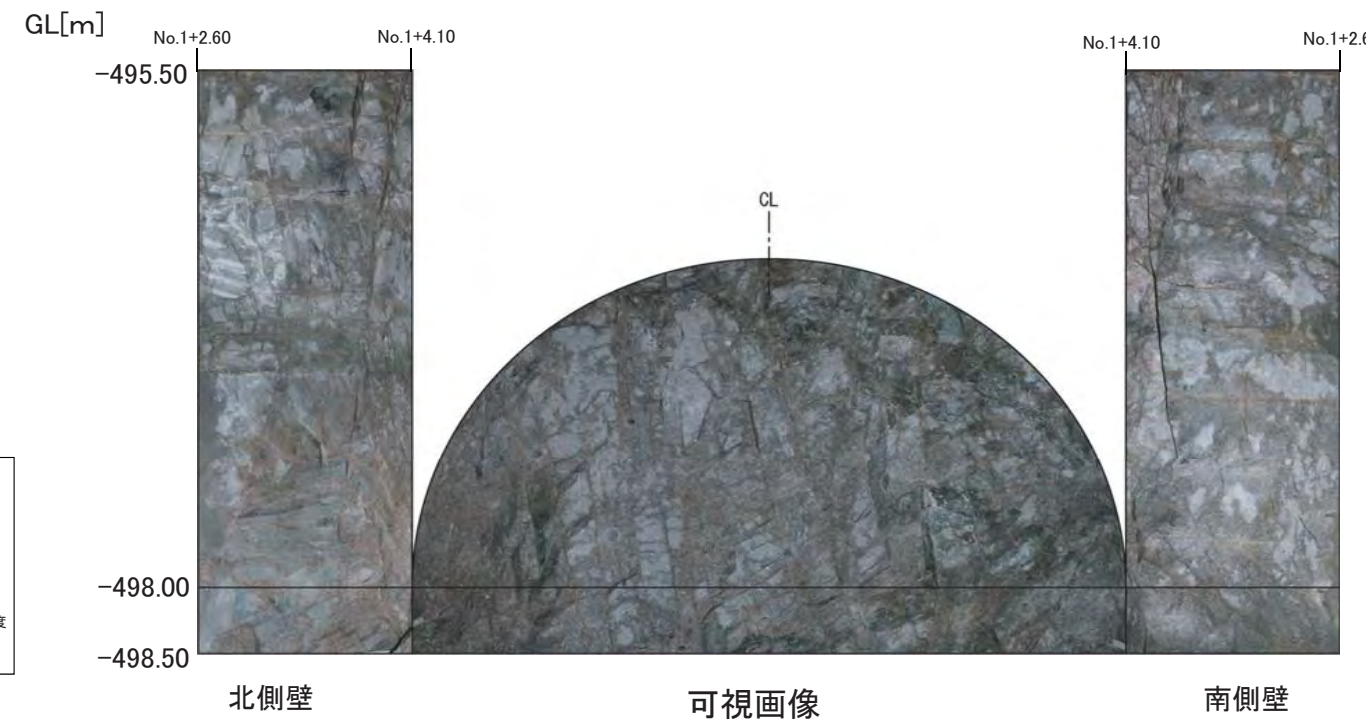
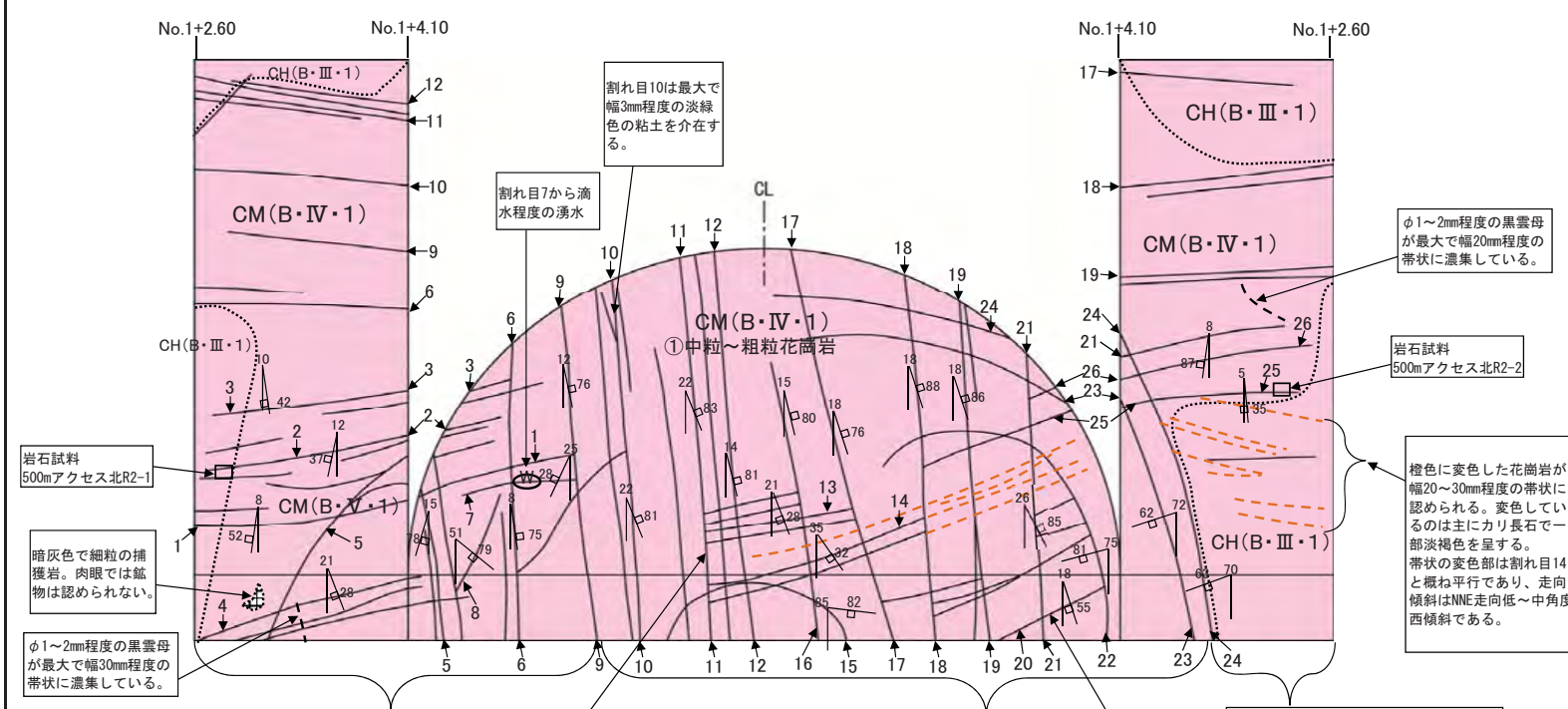
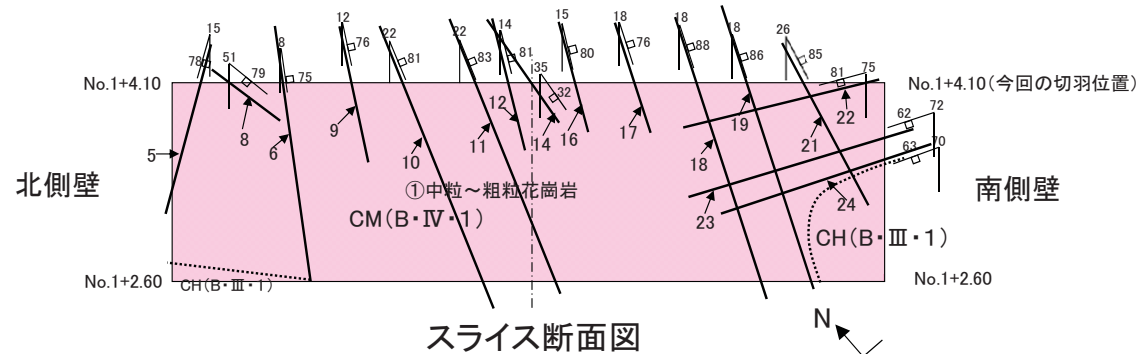
A5-請負-計測工(地質)-12087

シート番号	500mアクセス北坑道8	日時	2012/8/7 10:30~12:00	位置・深度	500mアクセス北坑道8 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	70° 割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	黒雲母の濃集	花崗岩の橙色変色	湧水	捕獲岩
----	-----	-----	--------------	--------	--------	----------	----	-----



スケッチ

NNE~NE走向高角度東~南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で、NNE~NE走向低~中角度西~北傾斜の割れ目が3~6cm程度の間隔で認められる。他に、NNW走向高角度西傾斜の割れ目3が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイトを介在する。また、割れ目2は赤褐色の鉱物を介在し、割れ目5はパイライトを介在する。割れ目2, 3, 6, 9に沿って、幅5~10mm程度の橙色の変色が認められ、一部の黒雲母はクロライトに置き換わっている。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。カリ長石は淡桃色~橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NNE走向低~中角度西傾斜の割れ目13と14はNNE走向高角度東傾斜の割れ目11で止まる

NW走向高角度南傾斜の割れ目が20~60cm程度の間隔で、NNE走向高角度東傾斜の割れ目が10~15cm程度の間隔で認められる。他にNNE走向低~中角度西傾斜の割れ目13, 14, 20が認められる。割れ目にはカルサイトとクロライトを介在する。割れ目10, 11, 12, 13, 14, 16, 17, 21, 25, 26に沿って、幅5~30mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存しており、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。カリ長石は淡桃色~橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

割れ目20周辺の花崗岩は有色鉱物がクロライトに置き換わり、暗緑色を呈する。変質の幅は20~30mm程度

割れ目はほとんど認められない。変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存しており、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 51 G.L. -498m~-498.5m 57
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R2-1 (花崗岩)、500mアクセス北R2-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN41E方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10~15mm程度の大きさのカリ長石が認められる。花崗岩は全体に変質の程度は弱いかほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目周辺の花崗岩には幅10~30mm程度が橙色を呈する箇所が認められる。また、割れ目周辺以外でも幅20~30mm程度の帯状に橙色を呈する箇所が認められる。割れ目はNNE~NE走向高角度東~南傾斜のものが主体である。他に、NW走向高角度南傾斜の割れ目と、NNE~NE走向低~中角度西傾斜の割れ目と、NNW走向高角度西傾斜の割れ目が認められた。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)、パイライトが認められた。湧水は鏡面左側の割れ目7から滴水程度で認められた。岩級区分は、北側壁と南側壁の一部は、割れ目間隔が概ね20~100cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。鏡面と北側壁と南側壁の大部分は、割れ目間隔が3~15cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ~Ⅴ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

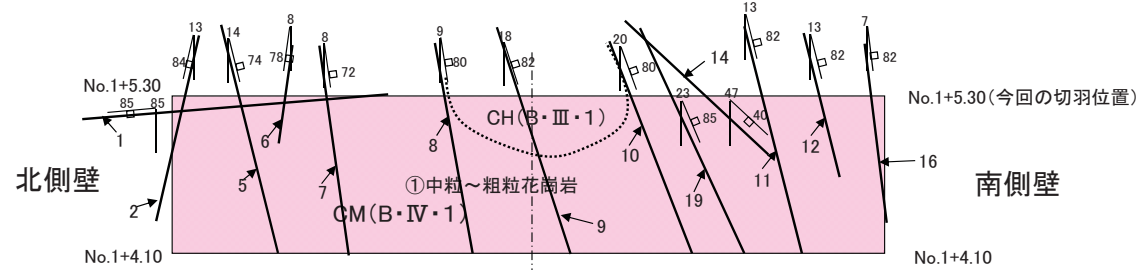
A5-請負-計測工(地質)-120823

シート番号	500mアクセス北坑道9	日時	2012/8/23 15:30~17:00	位置・深度	500mアクセス北坑道9 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

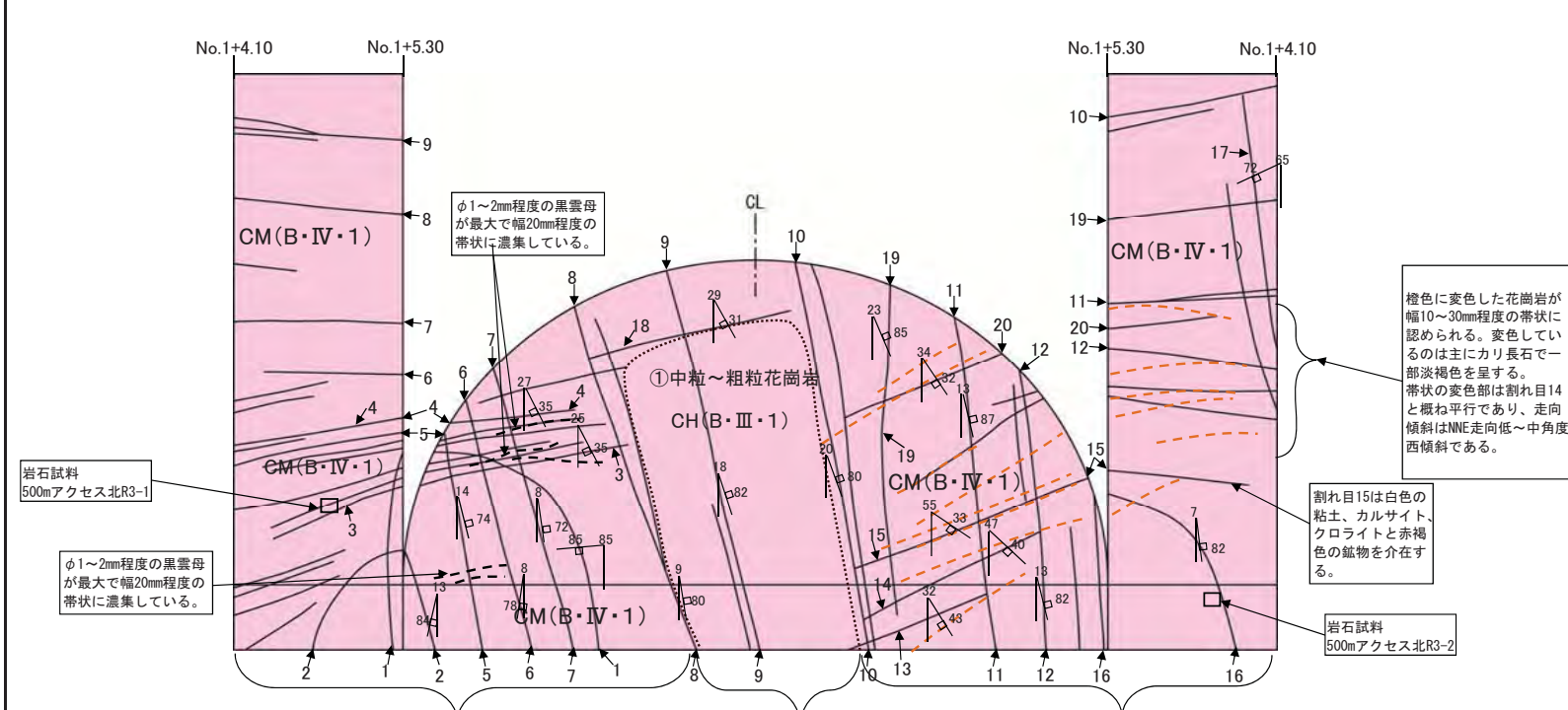
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

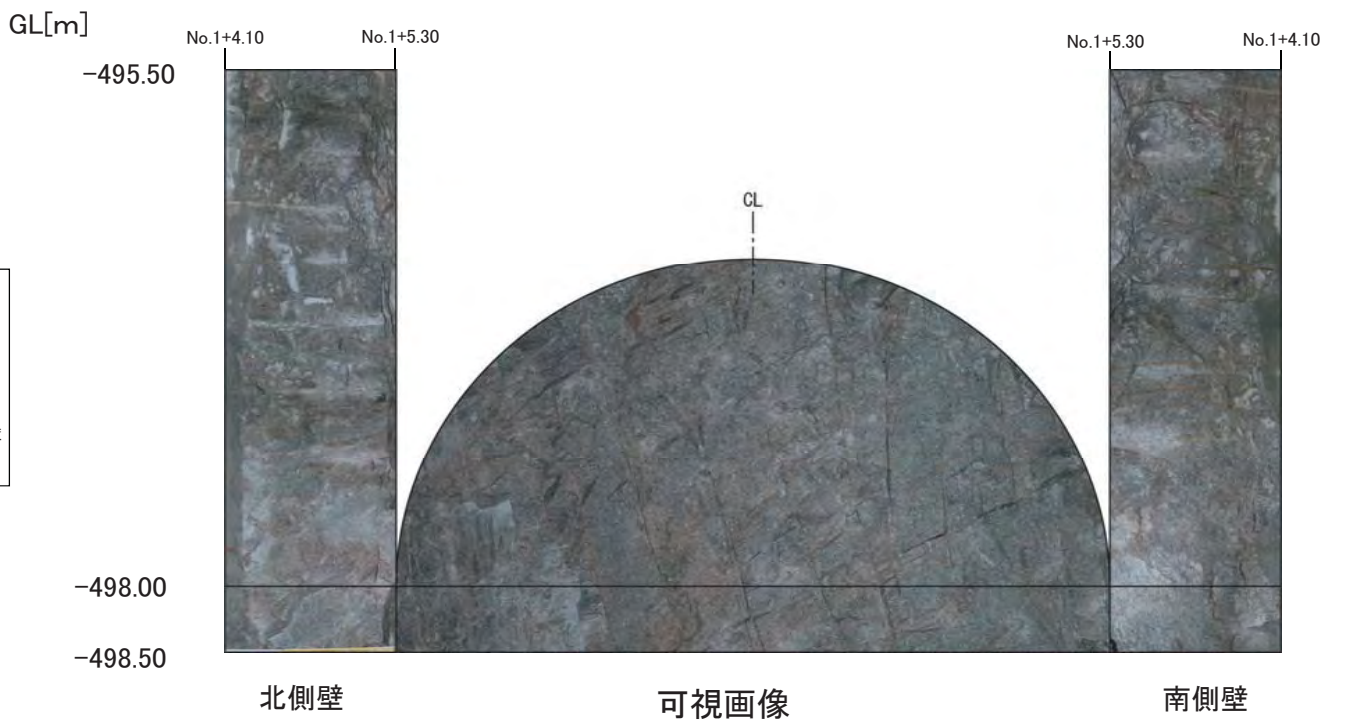
凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 黒雲母の濃集 花崗岩の橙色変色



スライス断面図



スケッチ



NNE~NE走向高角度東~南傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で、NNE~NE走向中角度西傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。割れ目にはカルサイトと白色の粘土を介在する。割れ目3, 4, 5, 6, 7に沿って、幅5~10mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向高角度東傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。割れ目にはカルサイトと白色の粘土を介在する。割れ目9, 10に沿って、幅10mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存しており、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NNE~NE走向高角度東~南傾斜の割れ目が15~20cm程度の間隔で、NNW走向中角度西傾斜の割れ目が6~15cm程度の間隔で認められる。他に、NNE走向中角度西傾斜の割れ目13, 20、NNW走向高角度南傾斜の割れ目17が認められる。割れ目には白色の粘土、クロライト、カルサイト、赤褐色の鉱物を介在する。割れ目に沿って、幅5~10mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 62 G.L. -498m~-498.5m 62
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R3-1 (花崗岩)、500mアクセス北R3-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	なし		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN41E方向である。横坑観察は切羽から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。花崗岩は全体に変質の程度は弱いかほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目周辺の花崗岩には幅5~10mm程度が橙色を呈する箇所が認められる。また、割れ目周辺以外でも幅10~30mm程度の帯状に橙色を呈する箇所が認められる。割れ目はNNE~NE走向高角度東~南傾斜のものが主体である。他に、NNE~NE走向中角度西傾斜の割れ目と、NNW走向中角度西傾斜の割れ目、NW~NNW走向高角度南傾斜の割れ目が認められた。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、白色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)が認められた。湧水は認められなかった。岩級区分は、鏡面中央の一部は、割れ目間隔が概ね20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。それ以外の鏡面および北側壁、南側壁は、割れ目間隔が6~20cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

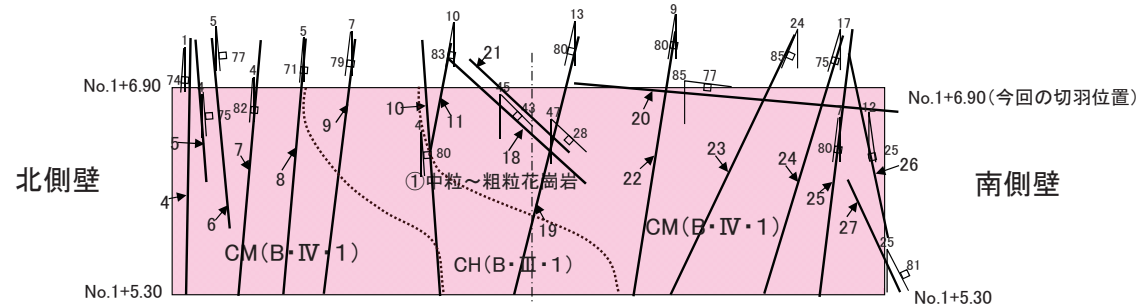
A5-請負-計測工(地質)-120827

シート番号	500mアクセス北坑道10	日時	2012/8/27 11:00~12:30	位置・深度	500mアクセス北坑道10 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

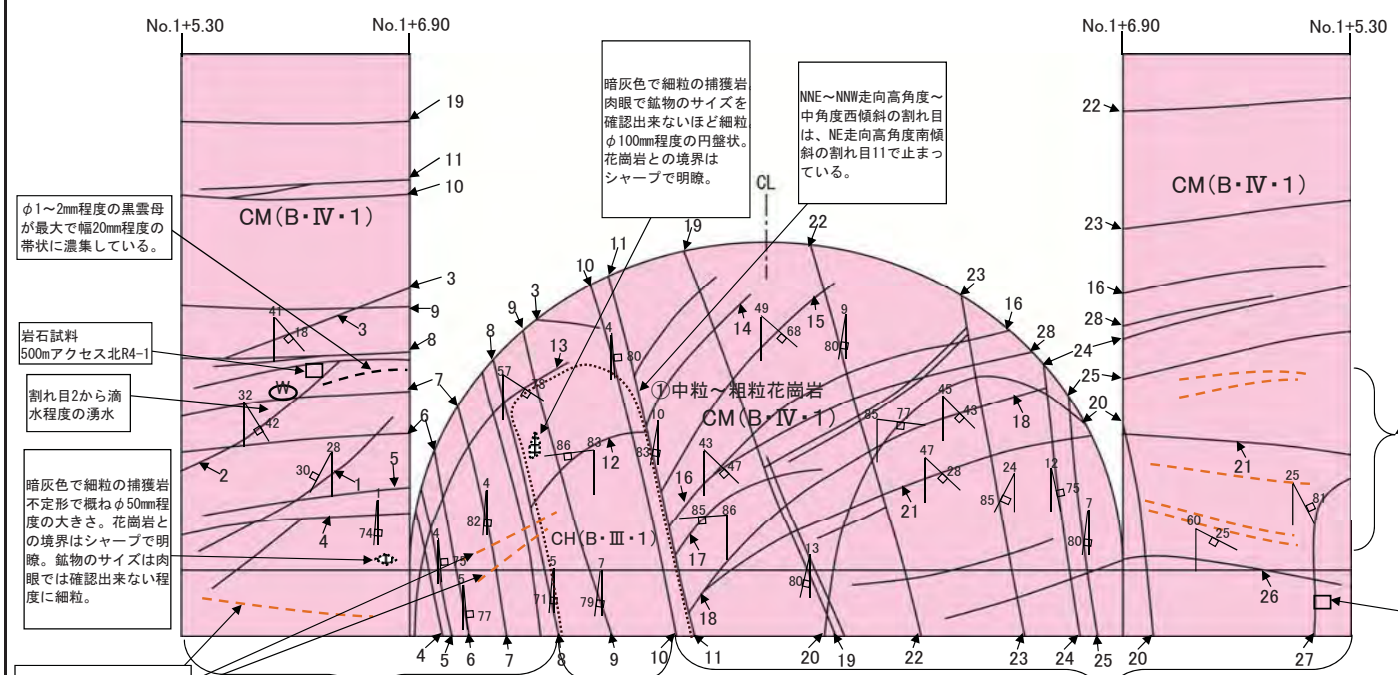
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 黒雲母の濃集 花崗岩の橙色変色



スライス断面図



A工区地質記載シート

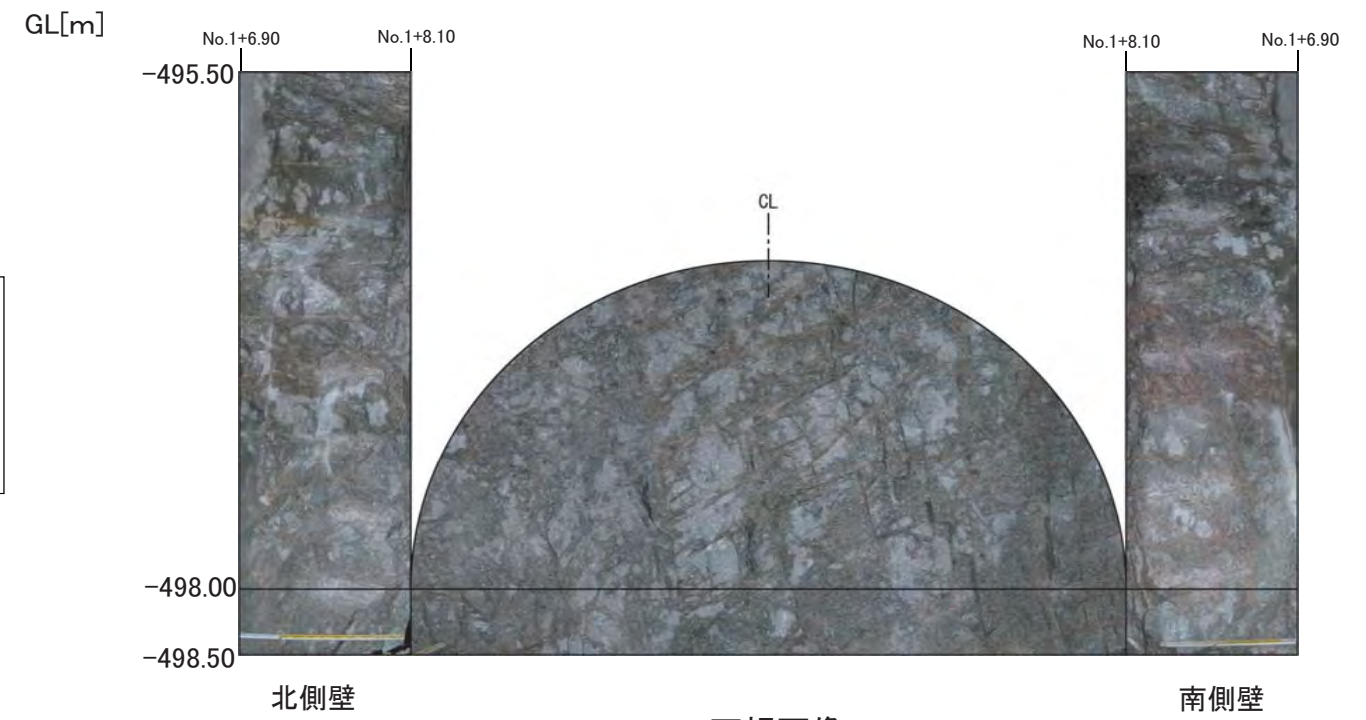
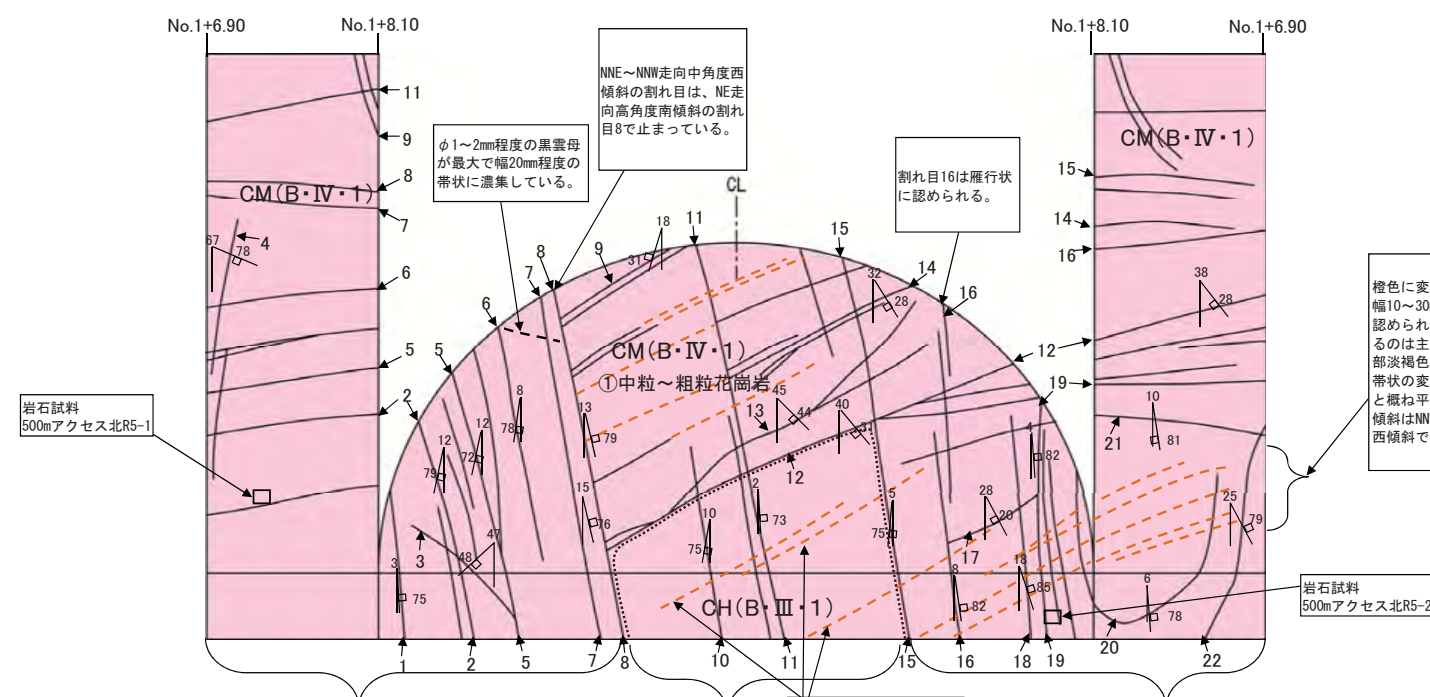
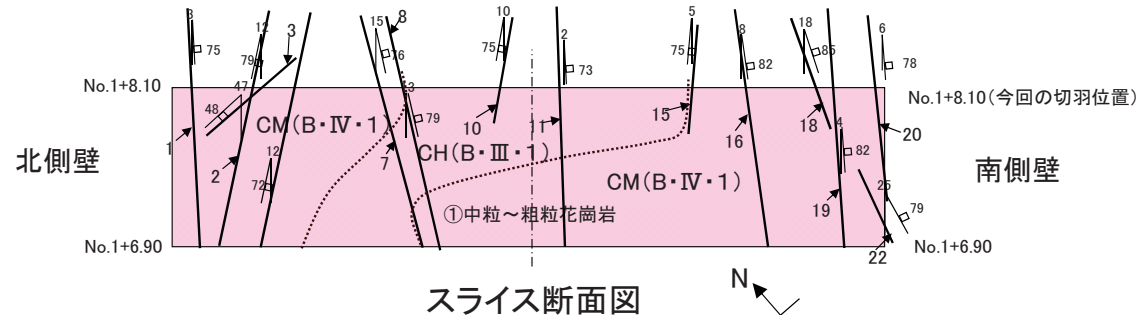
A5-請負-計測工(地質)-120828

シート番号	500mアクセス北坑道11	日時	2012/8/28 14:30~16:00	位置・深度	500mアクセス北坑道11 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 70° 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 黒雲母の濃集 花崗岩の橙色変色



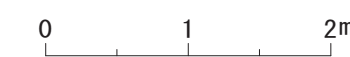
NE走向高角度南~東傾斜の割れ目が6~15cm程度の間隔で認められる。他にENE走向中角度南傾斜の割れ目3が認められる。割れ目にはクォーライト、カルサイト、白色の粘土を介在する。割れ目2, 5, 6, 7, 8に沿って、幅5~20mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向高角度南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。割れ目にはカルサイトと白色の粘土を介在する。割れ目11に沿って、幅5mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存しており、花崗岩は全体に淡褐色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

橙色に変色した花崗岩が幅10~30mm程度の帯状に認められる。変色しているのは主にカリ長石で一部淡褐色を呈する。帯状の変色部は割れ目21と概ね平行であり、走向傾斜はNNW走向低~中角度西傾斜である。

NNE~NE走向高角度東~南傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で認められる。また、NNW~NNE走向中角度西傾斜の割れ目が6~20cm程度の間隔で認められる。割れ目には白色の粘土、クォーライト、カルサイトを介在する。割れ目9, 11, 12, 13, 14, 16, 17, 19に沿って、幅5~30mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

スケッチ



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 62 G.L. -498m~-498.5m 65
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R5-1 (花崗岩)、500mアクセス北R5-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	なし		

特記事項
当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN41E方向である。横坑観察は切羽から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ15mm程度の大きさのカリ長石が認められる。花崗岩は全体に変質の程度は弱いほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目周辺の花崗岩には幅5~30mm程度が橙色を呈する箇所が認められる。また、割れ目周辺以外でも幅10~30mm程度の帯状に橙色を呈する箇所が認められる。橙色の変色は主にカリ長石に認められ、一部には淡褐色を呈するものも認められる。割れ目はNNE~NE走向高角度東~南傾斜と、NNW~NNE走向中角度西傾斜の割れ目が主体である。他に、ENE走向中角度南傾斜の割れ目が認められた。割れ目の介在物としては、カルサイト、クォーライト、白色の粘土が認められた。湧水は認められなかった。岩級区分は、鏡面中央の割れ目8と割れ目15の間付近は、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。それ以外の鏡面および北側壁、南側壁は、割れ目間隔が6~20cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・IV・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

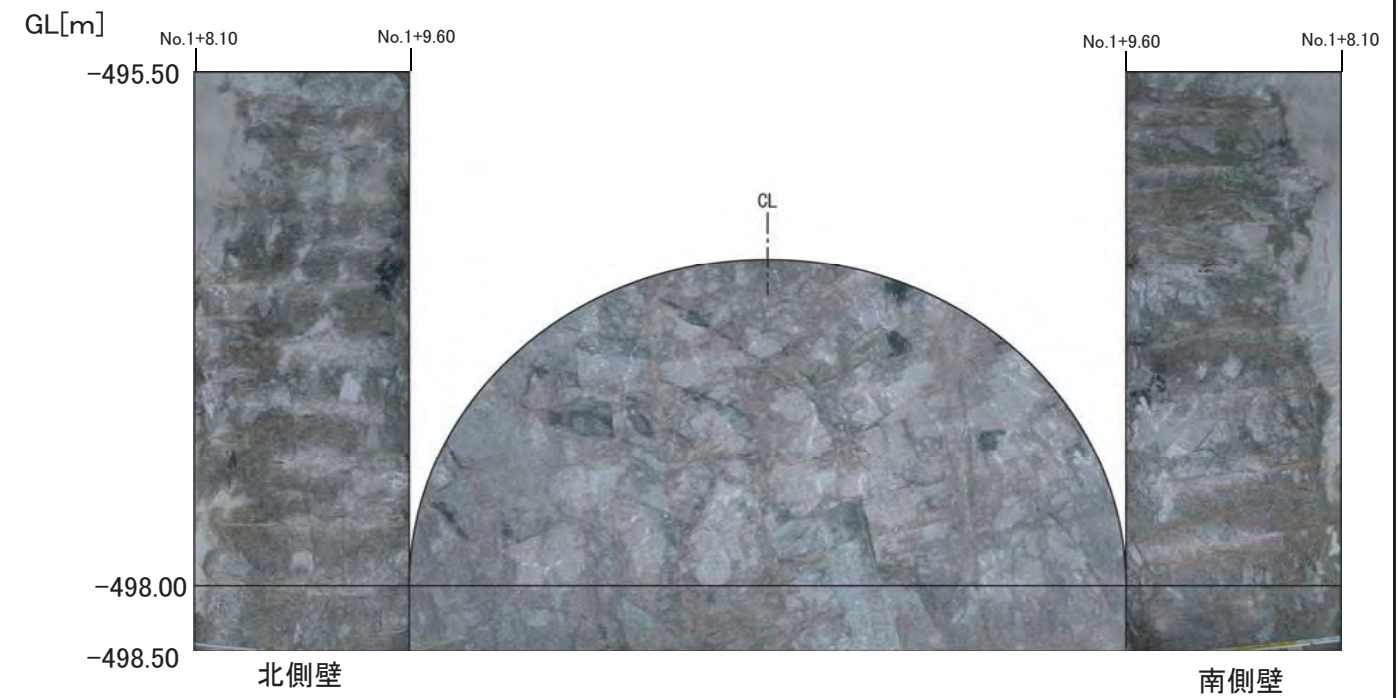
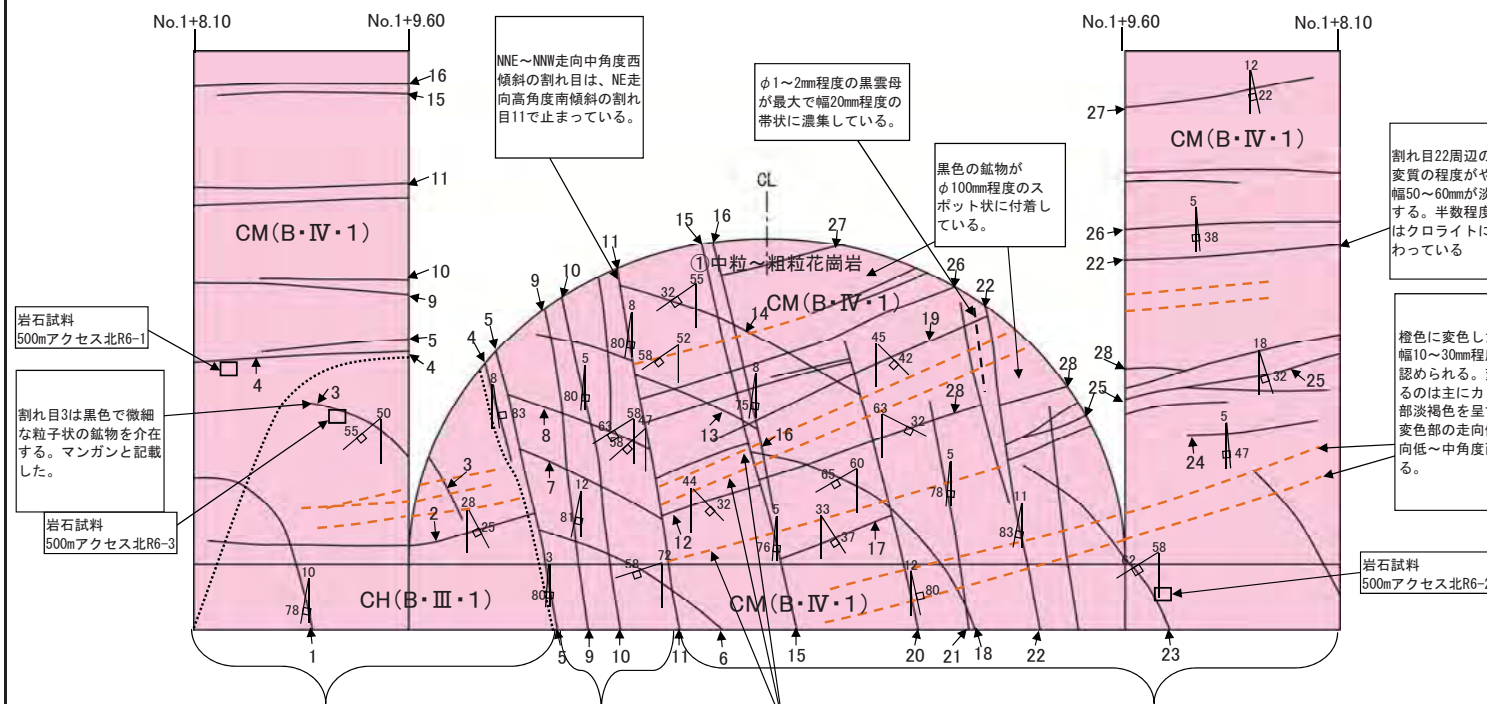
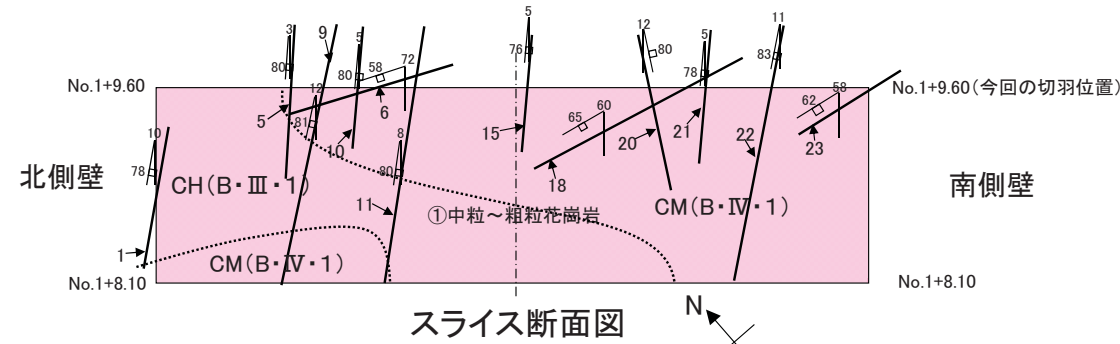
A5-請負-計測工(地質)-120829

シート番号	500mアクセス北坑道12	日時	2012/8/29 16:30~18:00	位置・深度	500mアクセス北坑道12 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 黒雲母の濃集 花崗岩の橙色変色



全体に割れ目が少なく、NE走向高角度南傾斜の割れ目1とNNE走向低角度西傾斜の割れ目2、WNW走向中角度南傾斜の割れ目3が認められる程度。割れ目にはカルサイト、黒色の鉱物(マンガンを記載)を介在する。変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向高角度南傾斜の割れ目が10~20cmの間隔で、WNW~ENE走向中~高角度南傾斜の割れ目が20~30cmの間隔で認められる。NE走向の割れ目はカルサイトと白色の粘土を介在し、WNW~ENE走向の割れ目はクロライトを介在する。割れ目4、5、9、10、11に沿って、幅5~60mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存しており、花崗岩は全体に淡褐色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

橙色に変色した花崗岩が幅10~30mm程度の帯状に認められる。変色しているのは主にカリ長石で一部淡褐色を呈する。変色部の走向傾斜はNNW走向低~中角度西傾斜である。

NNE~NE走向高角度東~南傾斜の割れ目が20~30cmの間隔で認められる。また、NNW~NNE走向中角度西傾斜の割れ目が6~20cmの間隔で認められる。他に、WNW走向中~高角度南傾斜の割れ目13、14、18、23が認められる。割れ目には白色の粘土、クロライト、カルサイトを介在する。WNW走向中~高角度南傾斜の割れ目はクロライトを介在する。割れ目に沿って、幅10~60mm程度の橙色の変色が認められる。割れ目から離れた部分では変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

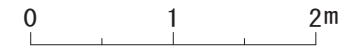
岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 62 G.L. -498m~-498.5m 62
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R6-1 (花崗岩)、500mアクセス北R6-2 (花崗岩)、500mアクセス北R6-3 (花崗岩)
変質	1~3	採水試料番号	-
湧水	なし		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN41E方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ20mm程度の大きさのカリ長石が認められる。花崗岩は全体に変質の程度が弱いかほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目周辺の花崗岩には幅5~30mm程度が橙色を呈する箇所が認められる。また、割れ目周辺以外でも幅10~30mm程度の帯状に橙色を呈する箇所が認められる。橙色の変色は主にカリ長石に認められ、一部には淡褐色を呈するものも認められる。割れ目22の周辺では変質の程度がやや強く、有色鉱物の半数程度がクロライトに置き換わっており、カリ長石は淡褐色を呈している。

割れ目はNNE~NE走向高角度東~南傾斜と、NNW~NNE走向中角度西傾斜、WNW~ENE走向中~高角度南傾斜の割れ目が主体である。割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、白色の粘土が認められ、WNW~ENE走向中~高角度南傾斜の割れ目はクロライトを主に介在している。また、割れ目3には黒色の鉱物(マンガンを記載)が認められた。湧水は認められなかった。

岩級区分は、鏡面左側の割れ目5から北側壁脚部の間は、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。それ以外の鏡面および北側壁上部と南側壁は、割れ目間隔が6~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・IV・1)級と評価した。



A工区地質記載シート

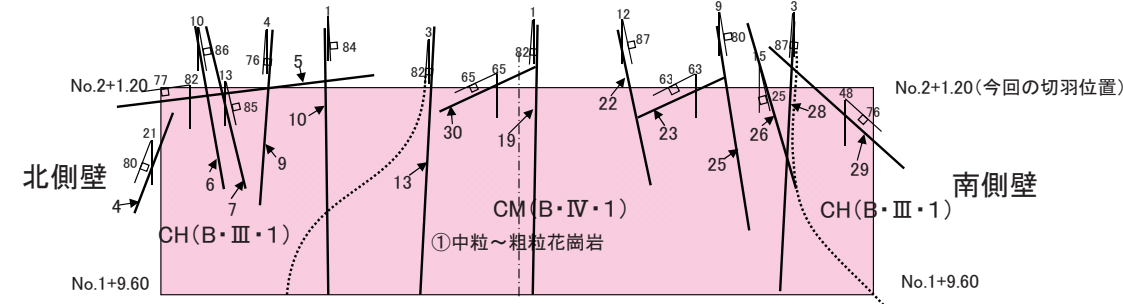
A5-請負-計測工(地質)-120831

シート番号	500mアクセス北坑道13	日時	2012/8/31 9:30~11:00	位置・深度	500mアクセス北坑道13 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

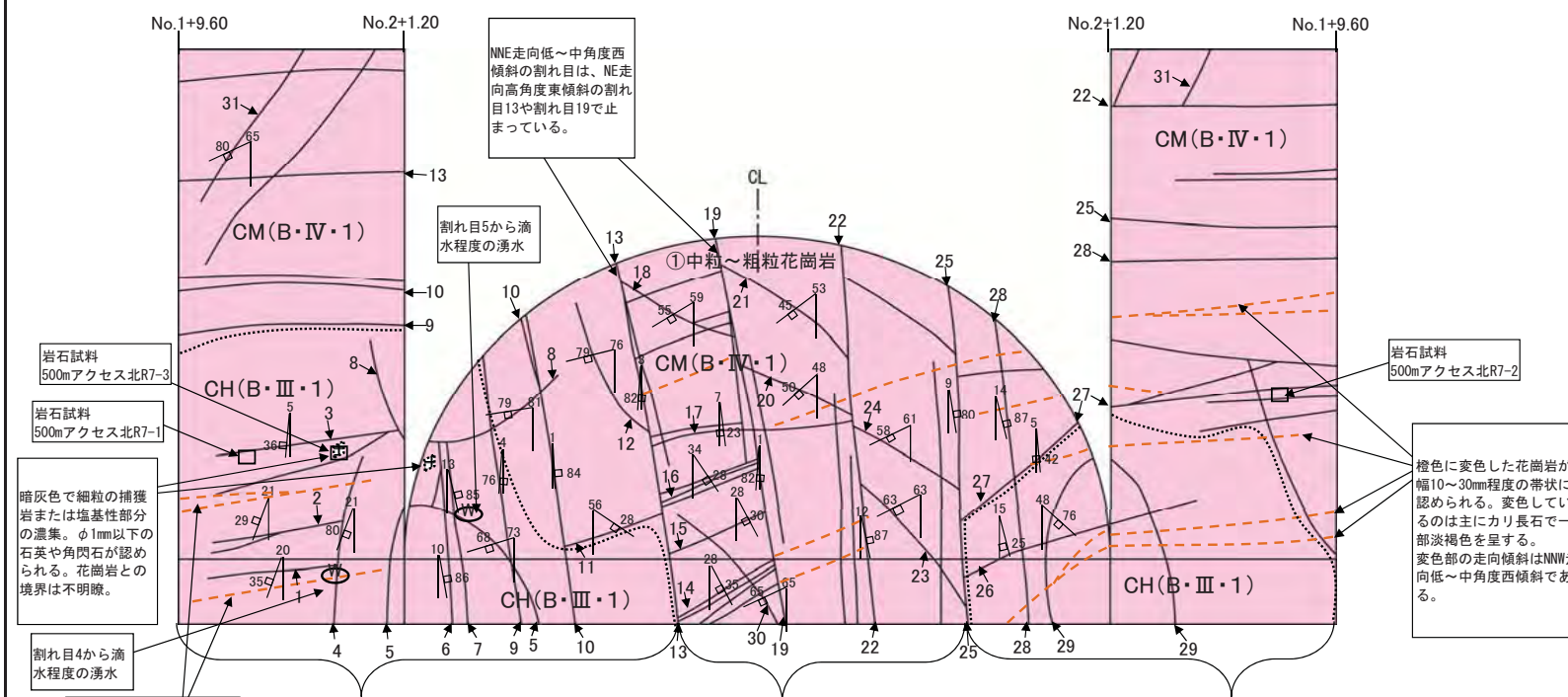
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

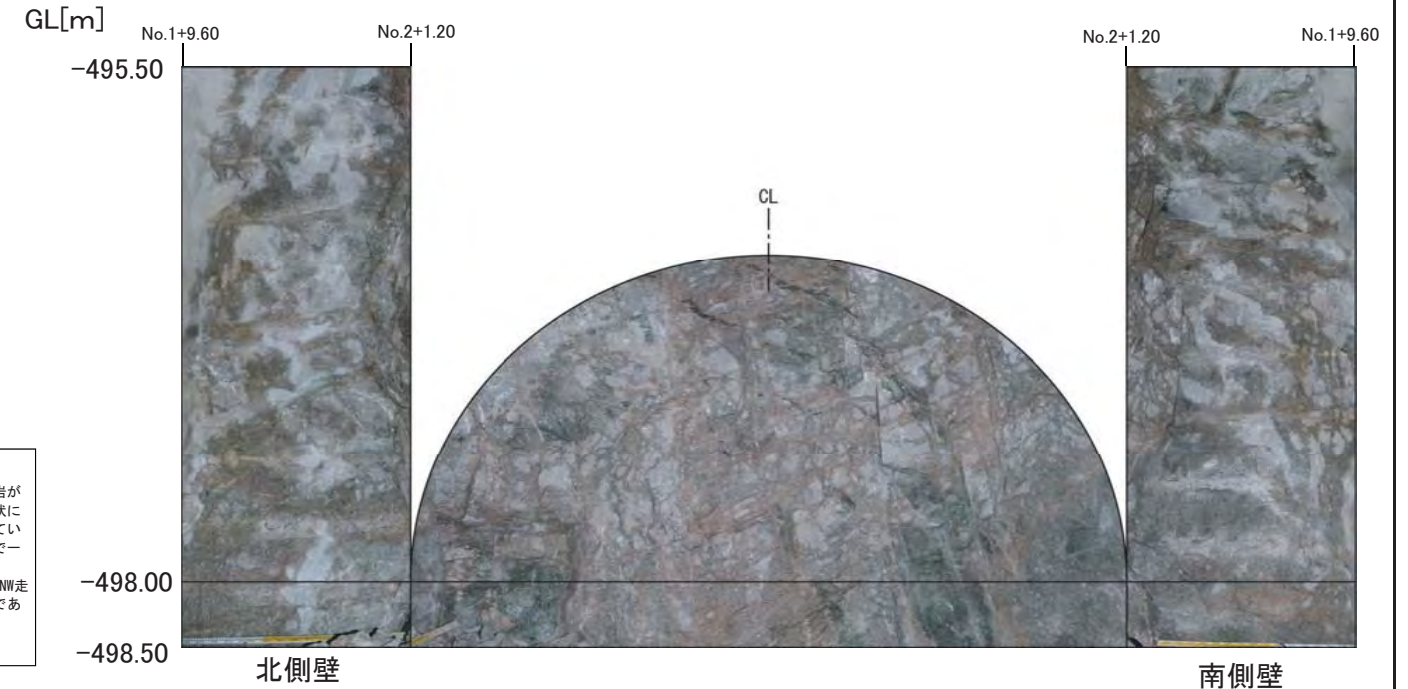
凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	黒雲母の濃集	花崗岩の橙色変色	湧水	捕獲岩
----	-----	-----	----------	--------	--------	----------	----	-----



スライス断面図



スケッチ



可視画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM	特記事項 当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN41E方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。 花崗岩は全体に変質の程度は弱いかほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。 割れ目周辺の花崗岩には幅5~30mm程度が橙色を呈する箇所が認められる。また、割れ目周辺以外でも幅10~30mm程度の帯状に橙色を呈する箇所が認められる。橙色の変色は主にカリ長石に認められ、一部には淡褐色を呈するものも認められる。 北側壁と鏡面の左側において、主に石英と角閃石からなる暗灰色の捕獲岩が認められた。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色、白色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 56 G.L. -498m~-498.5m 59	
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R7-1(花崗岩), 500mアクセス北R7-2(花崗岩), 500mアクセス北R7-3(捕獲岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

割れ目はNE走向高角度東~南傾斜と、NNE走向低~中角度西傾斜が主体である。他に、NE走向低~中角度北傾斜の割れ目とNW走向高角度南傾斜、WNW~ENE走向中~高角度南傾斜、NNW走向高角度西傾斜の割れ目が認められる。
 割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、白色の粘土が認められ、WNW~ENE走向中~高角度南傾斜の割れ目はクロライトを主に介在している。
 湧水は割れ目4と割れ目5に滴水程度で認められた。
 岩級区分は、割れ目13付近から北側と割れ目25付近から南側では、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。それ以外の鏡面および北側壁上部と南側壁上部は、割れ目間隔が10~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

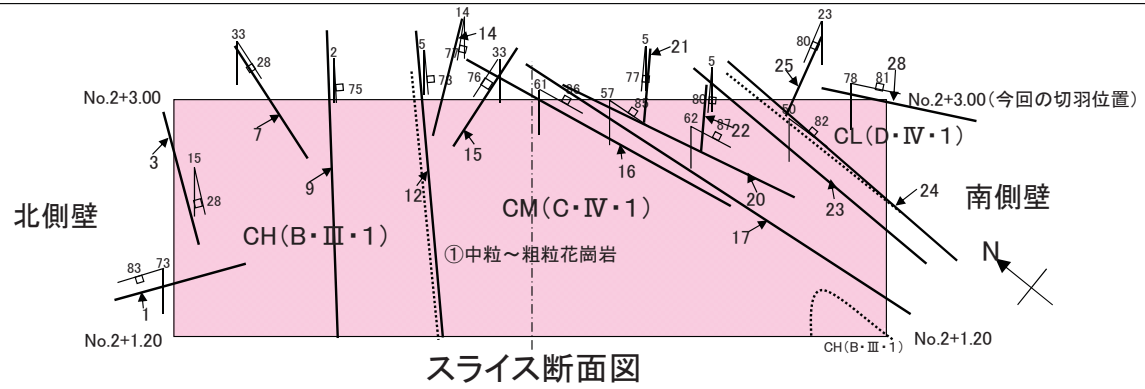
A5-請負-計測工(地質)-120901

シート番号	500mアクセス北坑道14	日時	2012/9/1 11:00~12:30	位置・深度	500mアクセス北坑道14 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

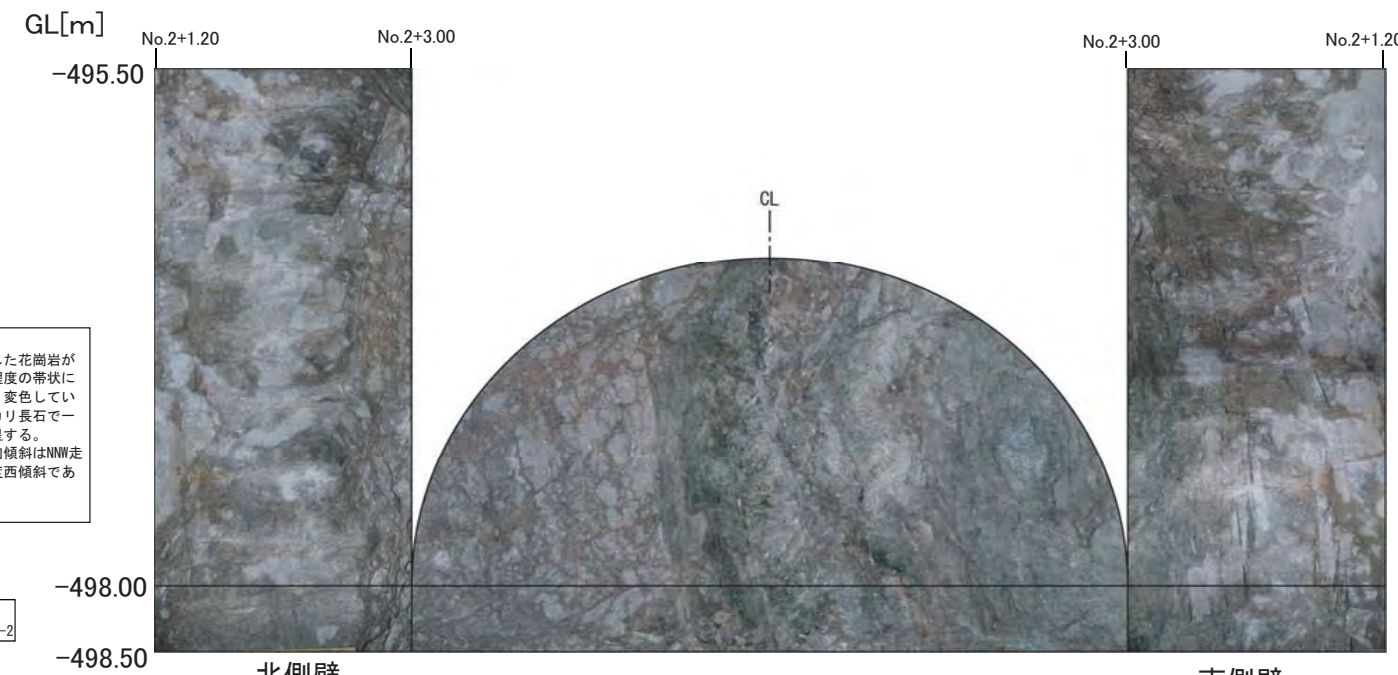
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

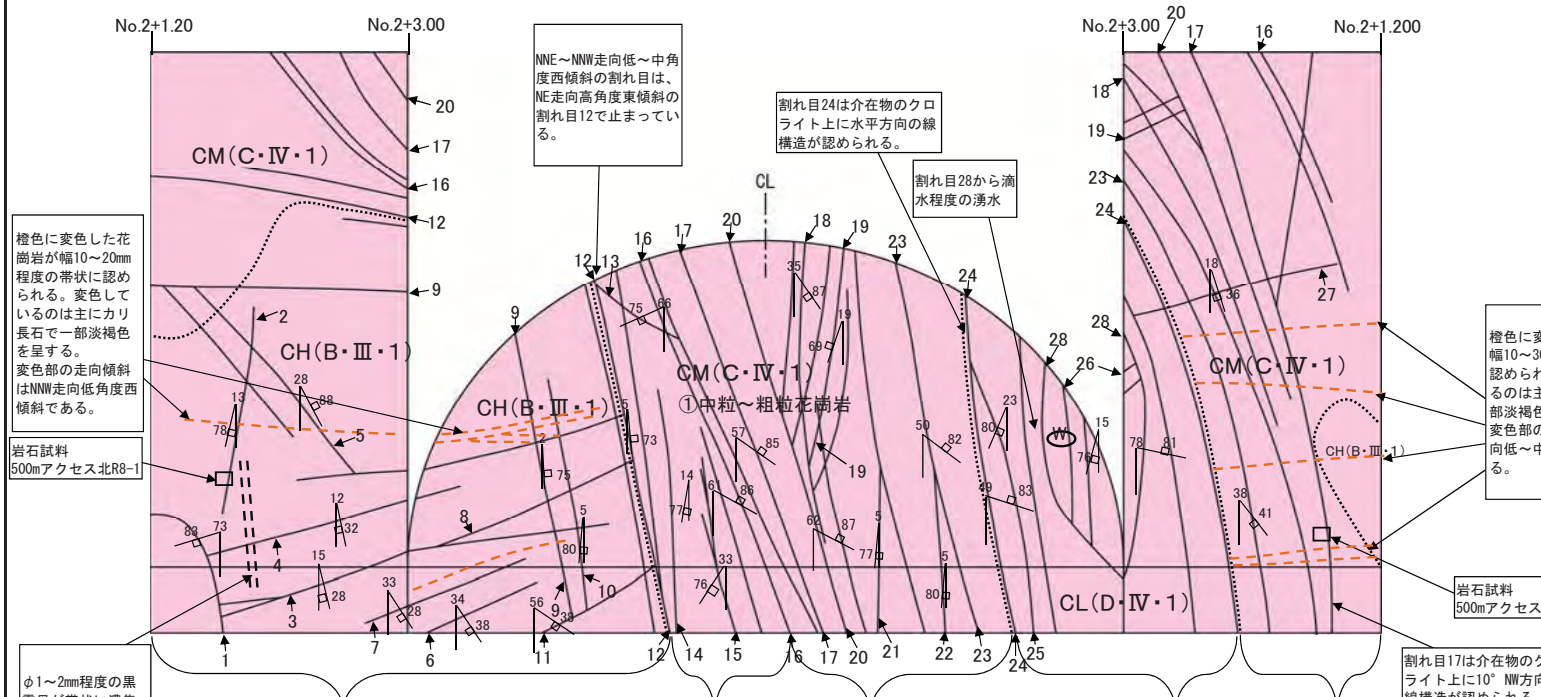
凡例	花崗岩	割れ目	70° 割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	黒雲母の濃集	花崗岩の橙色変色	湧水
----	-----	-----	--------------	--------	--------	----------	----



スライス断面図



可視画像



スケッチ

橙色に変色した花崗岩が幅10~20mm程度の帯状に認められる。変色しているのは主にカリ長石で一部淡褐色を呈する。変色部の走向傾斜はNNW走向低角度西傾斜である。

岩石試料 500mアクセス北R8-1

割れ目17は介在物のクロライト上に10° NW方向の線構造が認められる。

割れ目24は介在物のクロライト上に水平方向の線構造が認められる。

割れ目28から滴水程度の湧水

割れ目12はNNE~NNW走向低~中角度西傾斜の割れ目は、NE走向高角度東傾斜の割れ目12で止まっている。

割れ目24は介在物のクロライト上に水平方向の線構造が認められる。

割れ目28から滴水程度の湧水

割れ目17は介在物のクロライト上に10° NW方向の線構造が認められる。

割れ目12はNNE~NNW走向低~中角度西傾斜の割れ目は、NE走向高角度東傾斜の割れ目12で止まっている。

割れ目13はNE走向高角度南傾斜の割れ目13が認められる。他にNW走向高角度南傾斜の割れ目1が認められる。割れ目にはカルサイトとクロライト、淡緑色の粘土を介在している。ほとんどの割れ目に沿って、幅5~10mm程度の橙色の変色が認められるが、割れ目から離れた部分では花崗岩の変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

割れ目13はNE走向高角度南傾斜の割れ目13が認められる。他にNW走向高角度南傾斜の割れ目1が認められる。割れ目にはカルサイトとクロライト、淡緑色の粘土を介在している。ほとんどの割れ目に沿って、幅5~10mm程度の橙色の変色が認められるが、割れ目から離れた部分では花崗岩の変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

割れ目18はNE走向高角度南傾斜の割れ目18、NE走向高角度北傾斜の割れ目19が認められる。割れ目はクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩は全体に橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

割れ目19はNW走向高角度東傾斜の割れ目19が認められる。他にNE走向高角度南傾斜の割れ目21、22やNNE走向高角度西傾斜の割れ目18、NE走向高角度北傾斜の割れ目19が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩は全体に橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

割れ目21、22はNW走向高角度東傾斜の割れ目21、22が認められる。他に、NE走向高角度南傾斜の割れ目25、26が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩は程度の強い変質により淡緑色~暗緑色を呈する。ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さ。

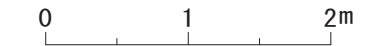
割れ目27はNW走向高角度東傾斜の割れ目27が認められる。他にNE走向高角度南傾斜の割れ目27が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質により橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM/CL G.L. -498m~-498.5m CH/CM/CL
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色、淡緑色、暗緑色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 47 G.L. -498m~-498.5m 53
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R8-1 (花崗岩), 500mアクセス北R8-2 (花崗岩)
変質	1~4	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN39E方向である。横坑観察は切羽から1.8m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。花崗岩は割れ目12よりNW側では変質の程度は弱いからほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目12と割れ目24の間では花崗岩は橙色を呈する。一部の黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わっている。また割れ目24からE側では変質の程度が強く、花崗岩は淡緑色~暗緑色を呈し、黒雲母などの有色鉱物はほとんどクロライトに置き換わっている。割れ目16から西側ではNNE~NE走向高角度南傾斜の割れ目が主体で、割れ目16から東側ではNW走向高角度東傾斜の割れ目が主体である。他に、NNE~NNW走向低~中角度西傾斜の割れ目とNW走向高角度南傾斜、NNE走向高角度西傾斜、NE走向高角度北傾斜、NE走向高角度西傾斜の割れ目が認められる。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は割れ目28から滴水程度で認められた。割れ目17には10° NW方向の線構造が、割れ目24には水平方向の線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。岩級区分は、割れ目12付近からW側と南側壁の一部では、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH (B・Ⅲ・1) 級と評価した。割れ目12と割れ目24の間は、割れ目間隔が10~30cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM (C・Ⅳ・1) 級と評価した。割れ目24からE側では割れ目間隔は10~20cm程度でハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さであることからCL (D・Ⅳ・1) 級と評価した。



A工区地質記載シート

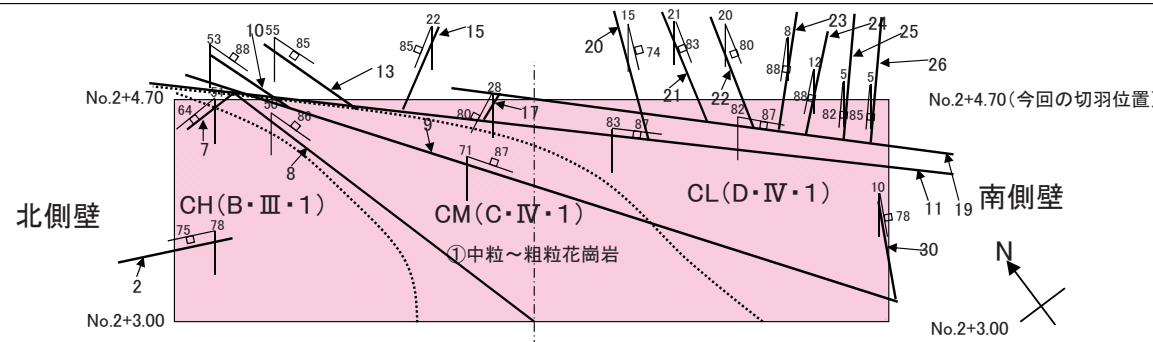
A5-請負-計測工(地質)-120912

シート番号	500mアクセス北坑道15	日時	2012/9/12 11:00~12:30	位置・深度	500mアクセス北坑道15 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

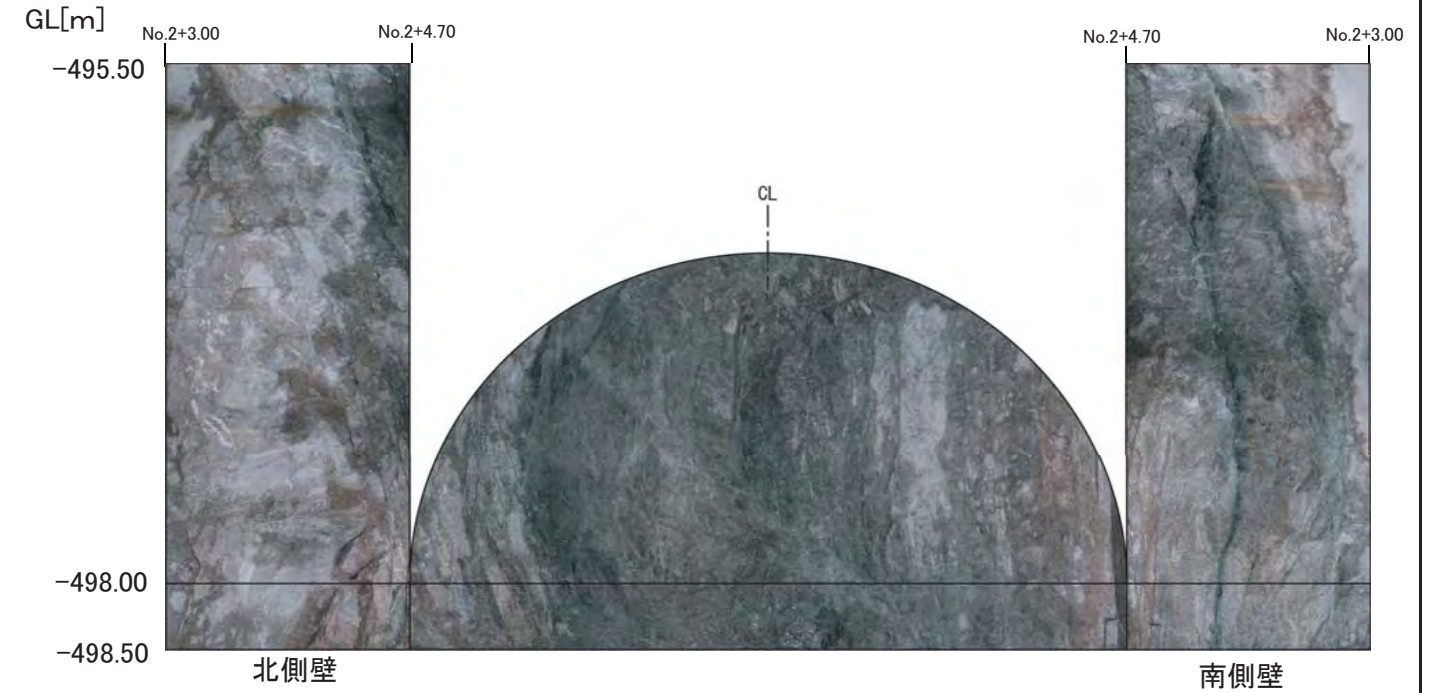
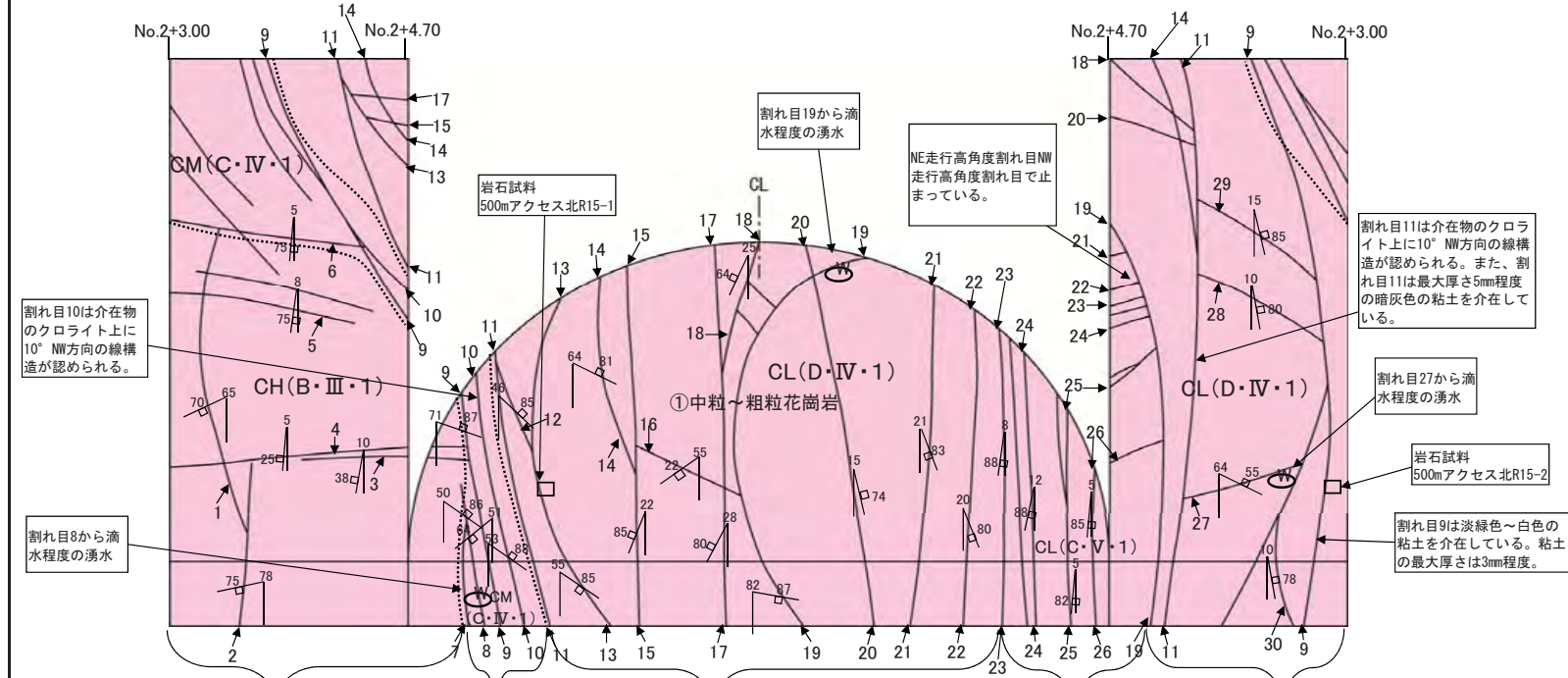
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	70° 割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	黒雲母の濃集	花崗岩の橙色変色	湧水
----	-----	-----	--------------	--------	--------	----------	----



スライス断面図



可視画像

NE走向低～中角度西傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度南傾斜の割れ目1やNW走向高角度南傾斜の割れ目2が認められる。割れ目にはカルサイトとクロライト、淡緑色の粘土を介在している。花崗岩には変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。カリ長石は淡桃色～橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。	NNW~NW走向高角度東傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。他にENE走向高角度南傾斜の割れ目7、NW走向高角度西傾斜の割れ目11が認められる。割れ目にはカルサイト、クロライト、淡緑色～白色の粘土、暗灰色の粘土を介在している。花崗岩は中程度の変質により、有色鉱物の半数程度はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡緑色～橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。	NW走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で認められる。また、NE走向高角度北傾斜と南傾斜の割れ目が6~20cm程度の間隔で認められる。他に、WNW走向低角度南傾斜の割れ目16が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩は程度の強い変質により淡緑色～暗緑色を呈する。ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さ。	NE走向高角度南傾斜の割れ目が3~10cm程度の間隔で認められる。割れ目はクロライト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩は程度の弱い変質により、一部の有色鉱物はクロライトに置き換わるもの、ほとんど残存している。カリ長石は全体に橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。	NW走向高角度東傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で認められる。他にNW走向中角度東傾斜の割れ目27、NE走向高角度東傾斜の割れ目28、29、30が認められる。割れ目はクロライト、カルサイト、淡緑色～白色の粘土、暗灰色の粘土を介在する。花崗岩は変質により半数程度の有色鉱物がクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡緑色～暗緑色を呈する。ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さ。
--	---	--	---	--

スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM/CL
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色、淡緑色、暗緑色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 29 G.L. -498m~-498.5m 29
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R15-1 (花崗岩), 500mアクセス北R15-2 (花崗岩)
変質	1~4	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN37E方向である。横坑観察は切羽から1.7m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。花崗岩は割れ目7付近よりW側では変質の程度は弱いかほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目7付近から割れ目11付近の間と割れ目23付近から割れ目19付近の間では、半数程度の黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わっている。また割れ目11付近と割れ目23付近の間は変質の程度が強く、花崗岩は淡緑色～暗緑色を呈し、黒雲母などの有色鉱物はほとんどクロライトに置き換わっている。割れ目はNW走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が主体で、割れ目19から東側ではNE走向高角度南傾斜の割れ目が主体である。他に、NE走向低～中角度西傾斜の割れ目とNW走向高角度南傾斜、ENE走向高角度南傾斜、NW走向高角度西傾斜、NE走向高角度北傾斜の割れ目が認められる。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色～白色の粘土、暗灰色の粘土が認められる。湧水は割れ目8、19、27から滴水程度で認められた。割れ目10と割れ目11には10° NW方向の線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。岩級区分は、割れ目7付近よりW側では、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目7付近から割れ目11付近の間は割れ目間隔が6~10cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級と評価した。割れ目11付近からE側では割れ目間隔は3~20cm程度でハンマーの打撃で金属音または濁った音を発する程度の硬さであることからCL(C~D・Ⅴ~Ⅳ・1)級と評価した。

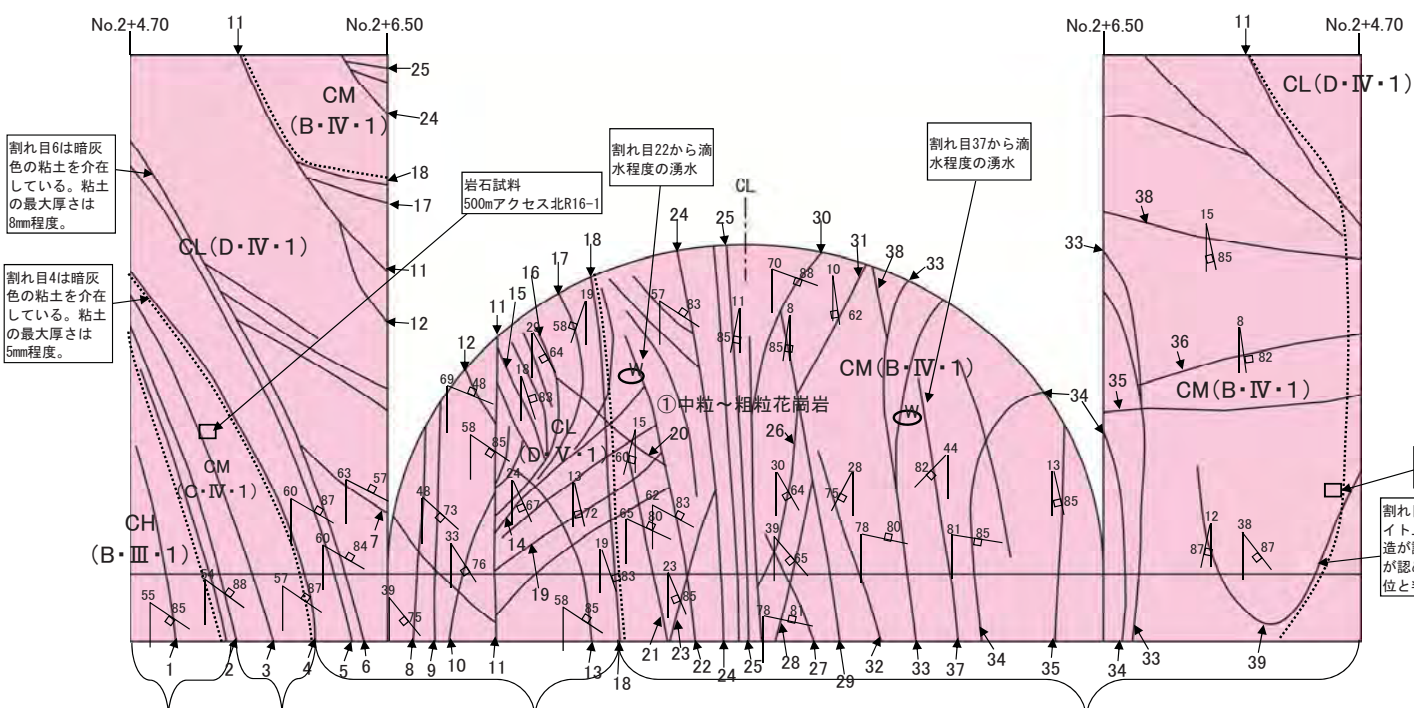
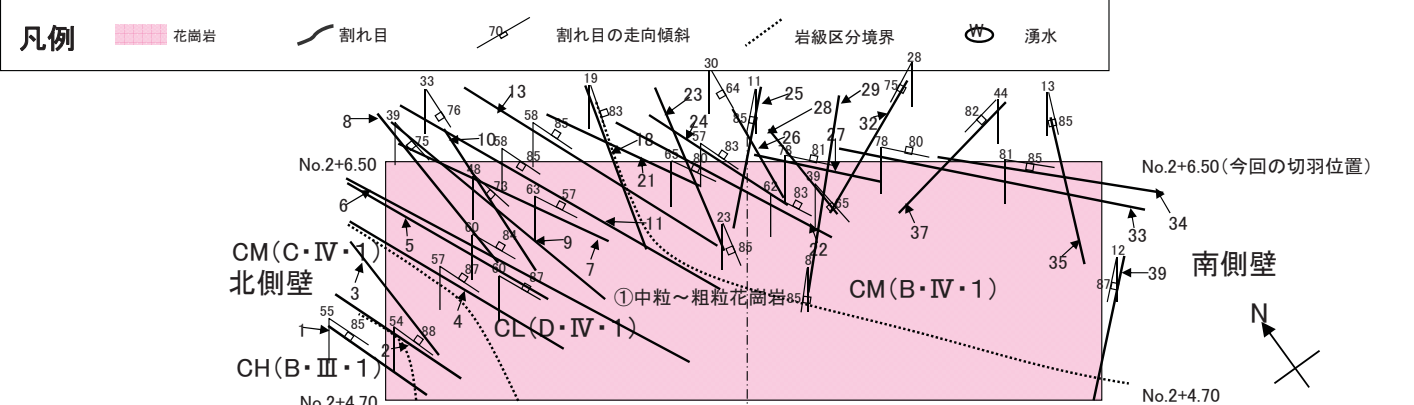
A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-120913

シート番号	500mアクセス北坑道16	日時	2012/9/13 16:30~18:00	位置・深度	500mアクセス北坑道16 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



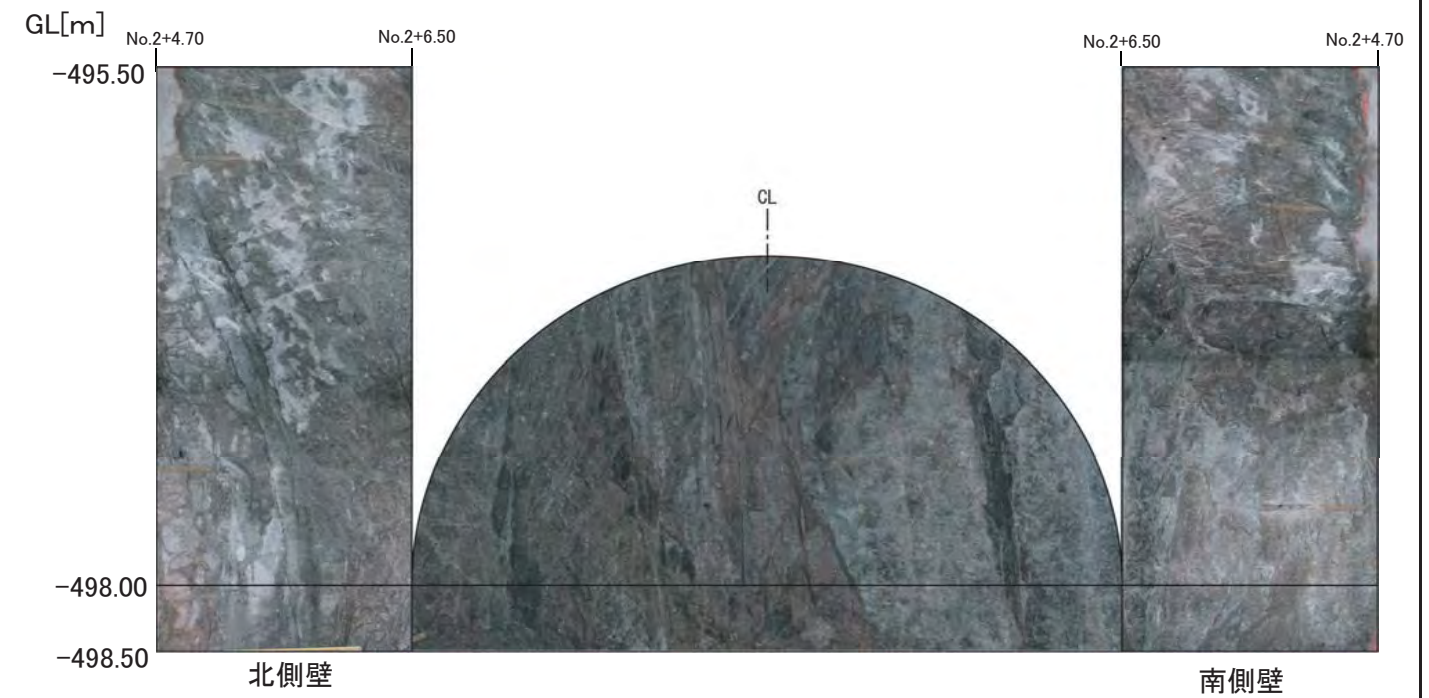
スケッチ

NW走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。また、NE走向高角度北傾斜と東傾斜の割れ目が3~10cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向中角度北傾斜の割れ目17が認められる。割れ目にはカルサイト、淡緑色や白色の粘土を介在する。花崗岩は変質の強い変質により淡緑色~暗緑色を呈する。ハンマーの打撃で濁った金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。割れ目には淡緑色の粘土と暗灰色の粘土を介在する。花崗岩は中程度の変質により、半数以上の有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に暗緑色~淡緑色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で認められる。また、NE走向高角度北傾斜と東傾斜の割れ目が3~10cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向中角度北傾斜の割れ目17が認められる。割れ目にはカルサイト、淡緑色や白色の粘土を介在する。花崗岩は変質の強い変質により淡緑色~暗緑色を呈する。ハンマーの打撃で濁った金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度西傾斜と東傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。また、NE走向高角度西傾斜の割れ目が認められる。他に、NNE~NNW走向高角度西傾斜の割れ目26、28が認められる。割れ目にはカルサイトとクロライト、淡緑色の粘土を介在している。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度である。カリ長石は橙色を呈し、花崗岩は全体に橙色。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM/CL
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色、淡緑色、暗緑色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 34 G.L. -498m~-498.5m 34
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R16-1 (花崗岩), 500mアクセス北R16-2 (花崗岩)
変質	1~4	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN36° E方向である。横坑観察は切羽から1.8m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。花崗岩は割れ目2付近よりW側と割れ目18付近からE側では変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度である。割れ目2付近から割れ目4付近の間では、半数程度の黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わっており、花崗岩は淡緑色~暗緑色を呈する。また、割れ目4付近と割れ目18付近の間の花崗岩は変質の程度が強く、黒雲母などの有色鉱物はほとんどクロライトに置き換わり、花崗岩は暗緑色~淡緑色を呈する。割れ目はNNW~NW走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目と、NE走向高角度北傾斜と東傾斜の割れ目が主体である。他に、NE走向中角度北傾斜の割れ目やNNE~NNW走向高角度西傾斜の割れ目が認められる。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色~白色の粘土、暗灰色の粘土が認められる。湧水は割れ目22、37から滴水程度で認められた。割れ目39には11° SW方向の線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。岩級区分は、割れ目2付近からW側では、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH (B・III・1) 級と評価した。割れ目2付近から割れ目4付近の間と、割れ目18付近からE側は割れ目間隔が6~30cm程度で、ハンマーの打撃で金属音または澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM (B・C・IV・1) 級と評価した。割れ目4付近から割れ目18付近までは、割れ目間隔は3~20cm程度でハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さであることからCL (D・V・1) 級と評価した。

A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-120915

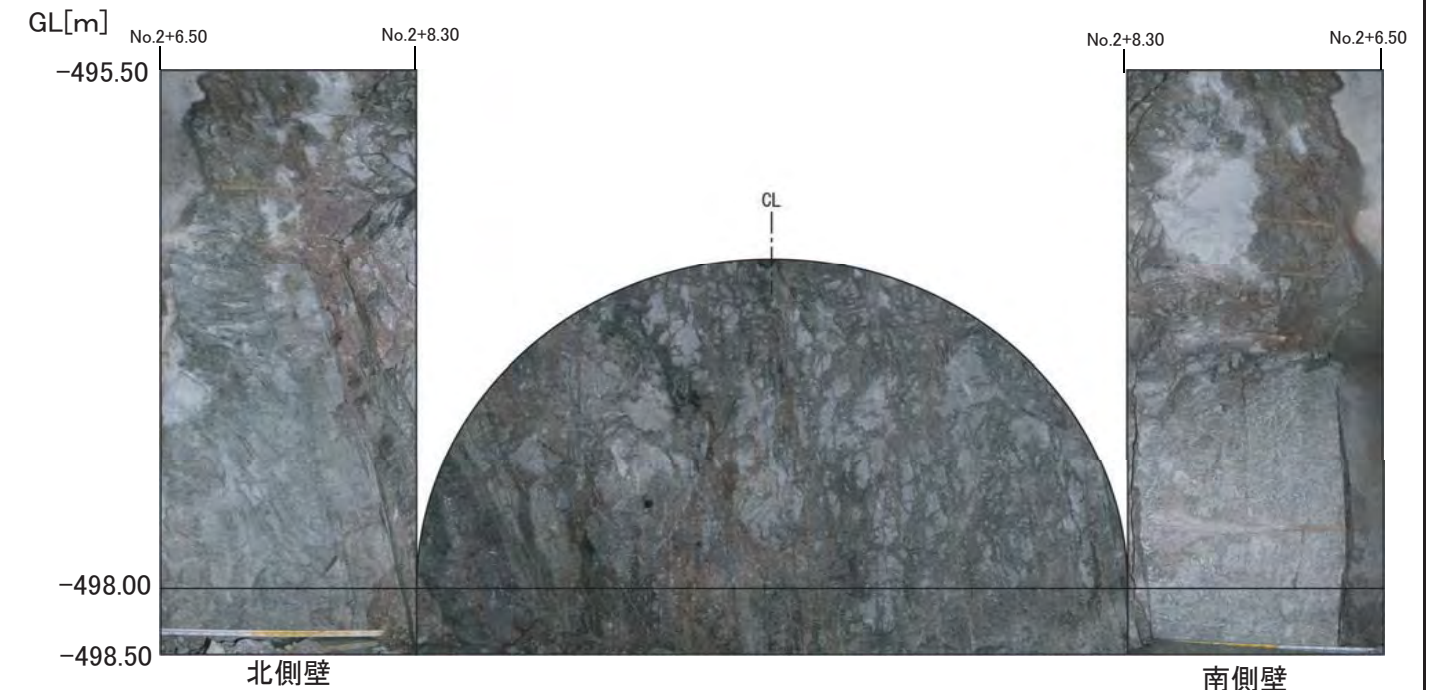
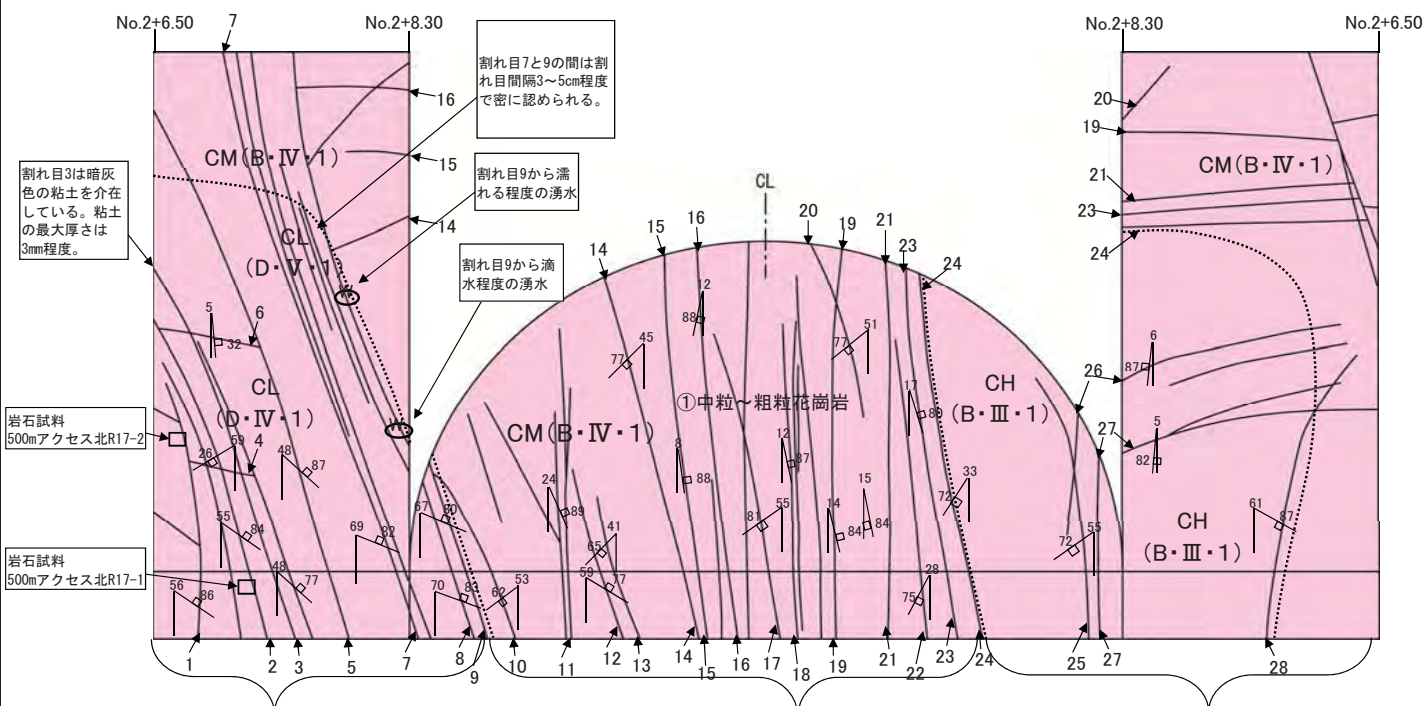
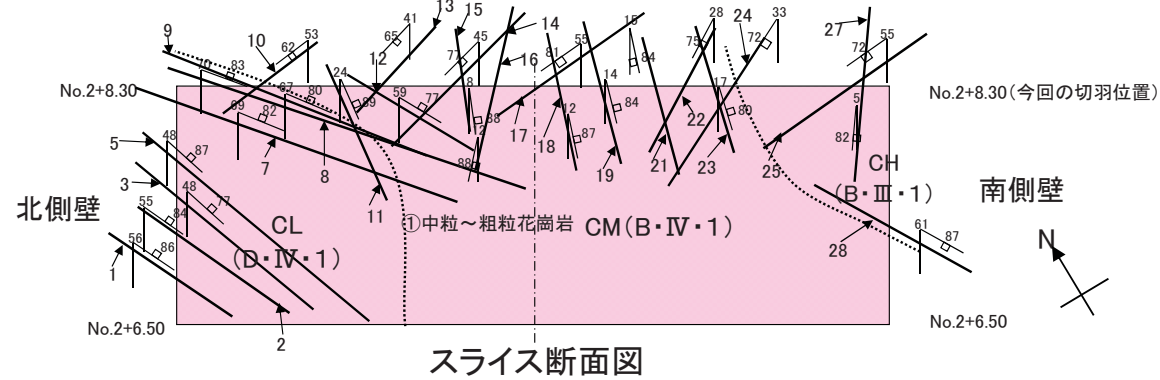
シート番号	500mアクセス北坑道17	日時	2012/9/15 9:30~11:00	位置・深度	500mアクセス北坑道17 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

	花崗岩		割れ目		割れ目の走向傾斜		岩級区分境界		湧水
--	-----	--	-----	--	----------	--	--------	--	----



割れ目3は暗灰色の粘土を介在している。粘土の最大厚さは3mm程度。

岩石試料 500mアクセス北R17-2

岩石試料 500mアクセス北R17-1

割れ目7と9の間は割れ目間隔3~5cm程度で密に認められる。

割れ目9から滴れる程度の湧水

割れ目9から滴水程度の湧水

NNW~NW走向高角度東傾斜の割れ目が10~15cm程度の間隔で認められる。他に、ENE走向低角度南傾斜の割れ目4やNE走向中角度東傾斜の割れ目6が認められる。

割れ目にはクロライト、白色~淡緑色の粘土、暗灰色の粘土を介在している。花崗岩は程度の強い変質により、有色鉱物のほとんどはクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡緑色~暗緑色を呈する。ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さ。

NNW~NW走向高角度東傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められ、ENE走向高角度南傾斜の割れ目も20~30cm程度の間隔で認められる。他にNNE~NE走向高角度東傾斜の割れ目が10~30cm程度の間隔で認められる。

割れ目にはカルサイトとクロライトを介在し、ENE走向高角度南傾斜の割れ目には主にクロライトを介在している。花崗岩は中程度の變質により、半数程度の有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

ENE走向高角度南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で、NE走向高角度西傾斜と東傾斜の割れ目が20cm程度の間隔で認められる。他にNW走向高角度西傾斜の割れ目28が認められる。

割れ目にはクロライトと淡緑色の粘土を介在している。花崗岩の變質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度である。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM/CL
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色、淡緑色、暗緑色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 41 G.L. -498m~-498.5m 47
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R17-1 (花崗岩), 500mアクセス北R17-2 (花崗岩)
変質	1~4	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN31°E方向である。横観観察は切羽から1.8m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。

花崗岩は割れ目24付近から割れ目28付近の間では變質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度である。割れ目9付近から割れ目24付近の間では、半数程度の黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わっており、花崗岩は橙色を呈する。また、割れ目9付近からW側の間の花崗岩は變質の程度が強く、黒雲母などの有色鉱物はほとんどクロライトに置き換わり、花崗岩は暗緑色~淡緑色を呈する。

割れ目はNNW~NW走向高角度東傾斜とENE走向高角度南傾斜が主体である。他に、ENE走向低角度南傾斜の割れ目やNE走向中角度東傾斜の割れ目、NNE~NE走向高角度東傾斜の割れ目が認められる。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色~白色の粘土、暗灰色の粘土が認められる。

湧水は割れ目9から滴水程度で認められた。

岩級区分は、割れ目24付近から割れ目28付近の間では、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。割れ目9付近から割れ目24付近の間は割れ目間隔が10~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・IV・1)級と評価した。割れ目9付近からW側では、割れ目間隔は3~15cm程度でハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さであることからCL(D・V・IV・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

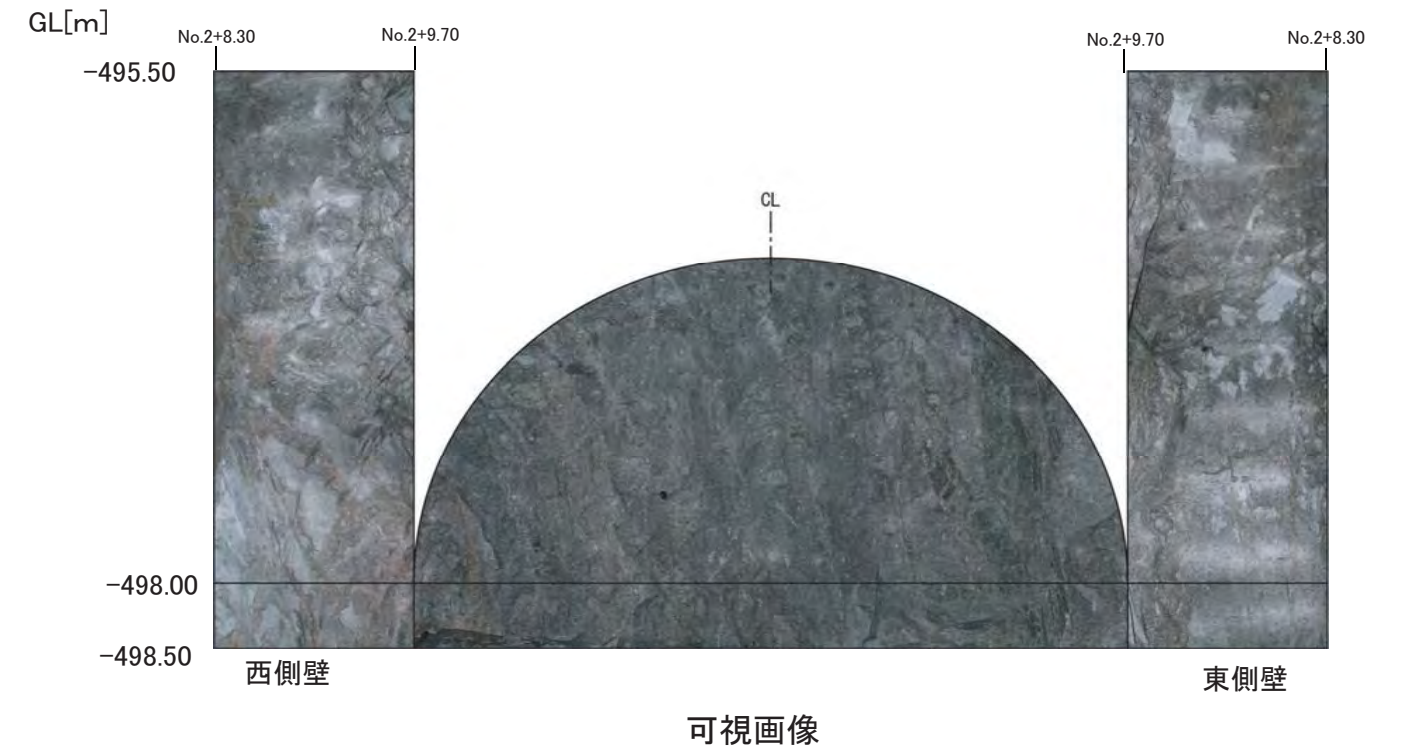
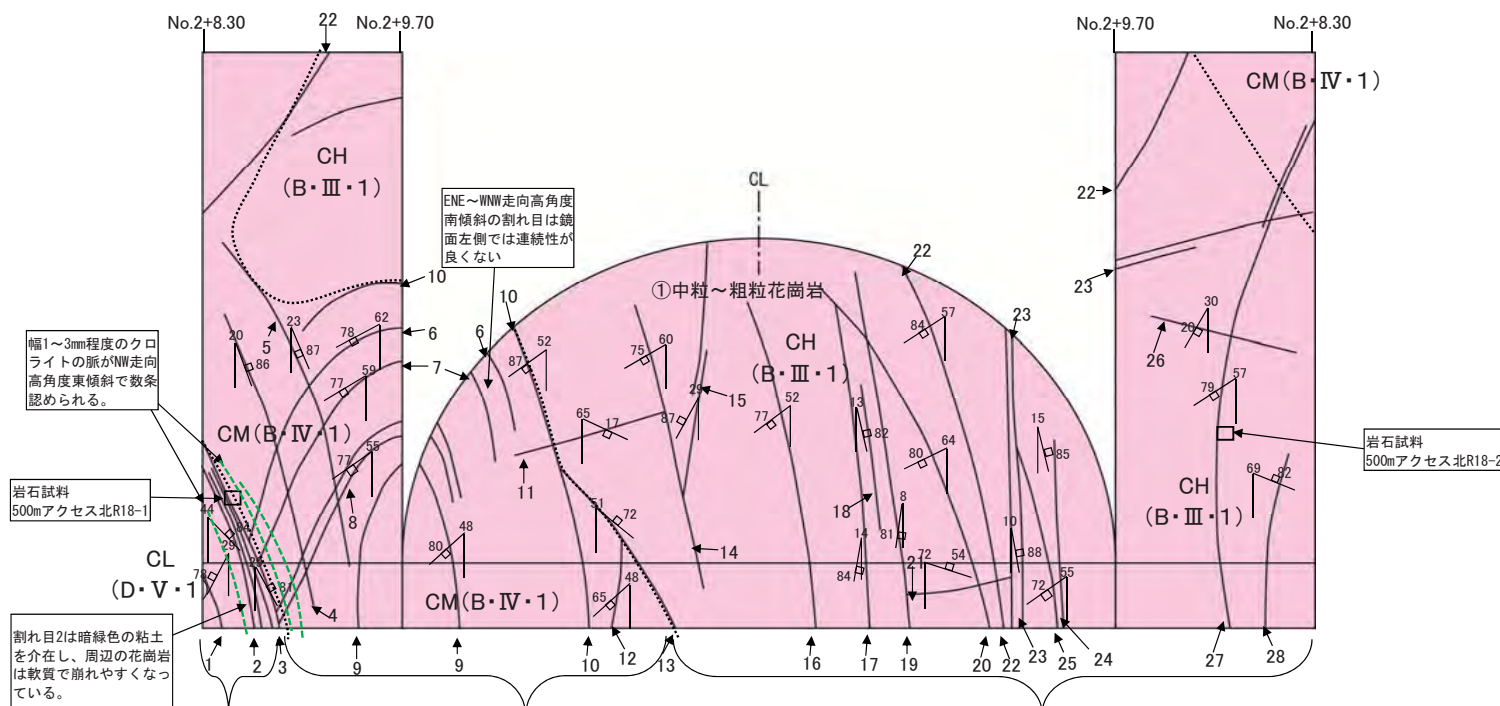
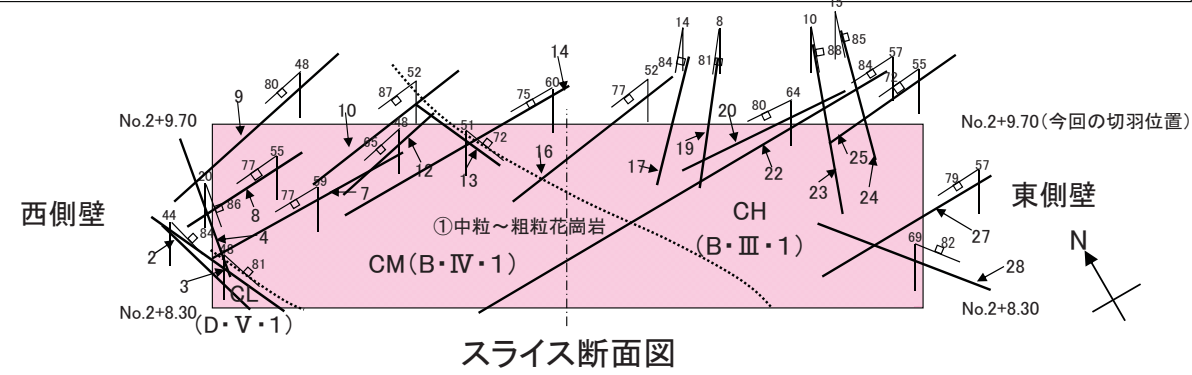
A5-請負-計測工(地質)-120917

シート番号	500mアクセス北坑道18	日時	2012/9/17 9:30~11:00	位置・深度	500mアクセス北坑道18 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	クロライト脈
----	-----	-----	----------	--------	----	--------



幅1~3mm程度のクロライトの脈がNW走向高角度東傾斜で数条認められる。

岩石試料 500mアクセス北R18-1

割れ目2は暗緑色の粘土を介在し、周辺の花崗岩は軟質で崩れやすくなっている。

NNW走向高角度東傾斜の割れ目が3~5cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度北傾斜の割れ目1が認められる。割れ目はクロライト、淡緑色の粘土、暗緑色の粘土を介在している。花崗岩は中程度の変質により、有色鉱物の半数程度はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡褐色~橙色を呈する。ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さ。

ENE~WNW走向高角度南傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で認められる。他にNNW走向低角度西傾斜の割れ目11やNNW走向高角度東傾斜の割れ目13が認められる。割れ目はカルサイトとクロライトを介在し、ENE~WNW走向高角度南傾斜の割れ目は主にクロライトを介在している。花崗岩は程度の弱い変質により、一部の有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡褐色~橙色を呈する。割れ目周辺のカリ長石は変質により淡褐色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

ENE~WNW走向高角度南傾斜と北傾斜の割れ目が20~50cm程度の間隔で、NE~NNE走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が20~60cm程度の間隔で認められる。他にNNW走向低角度西傾斜の割れ目11やNW走向中角度東傾斜の割れ目、NW走向高角度東傾斜の割れ目28が認められる。割れ目にはクロライトとカルサイトと淡緑色の粘土を介在している。ENE~WNW走向高角度南傾斜の割れ目は主にクロライトを介在している。割れ目17や割れ目22の周辺でカリ長石が橙色~淡褐色を呈するが、割れ目から離れた花崗岩は、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、ほとんど変質は認められない。花崗岩は全体に淡褐色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM/CL
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色、淡褐色、淡緑色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 60 G.L. -498m~-498.5m 60
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R18-1 (花崗岩), 500mアクセス北R18-2 (花崗岩)
変質	2~3	採水試料番号	-
湧水	なし		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN30°E方向である。横観観察は切羽から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。花崗岩は割れ目13付近から東側では変質がほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目3付近から割れ目13付近の間では程度の弱い変質をうけ、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わり、花崗岩は淡褐色~橙色を呈する。割れ目3付近から西側では、半数程度の黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は淡褐色~淡緑色を呈する。一部の割れ目の周辺ではカリ長石が淡褐色~橙色を呈する。割れ目はNNW走向高角度東傾斜とENE~WNW走向高角度南傾斜が主体である。割れ目13から東側ではNE~NNE走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目も認められる。他に、NE走向高角度北傾斜の割れ目やNW走向低角度西傾斜の割れ目、NW走向中角度東傾斜、NW走向高角度東傾斜の割れ目が一部に認められる。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、暗緑色の粘土が認められる。湧水は認められなかった。岩級区分は、割れ目13付近から東側では、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH (B・Ⅲ・1) 級と評価した。割れ目3付近から割れ目13付近の間は、割れ目間隔が10~20cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM (B・Ⅳ・1) 級と評価した。割れ目3付近から西側では、割れ目間隔は3~5cm程度でハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さであることからCL (D・V・1) 級と評価した。

A工区地質記載シート

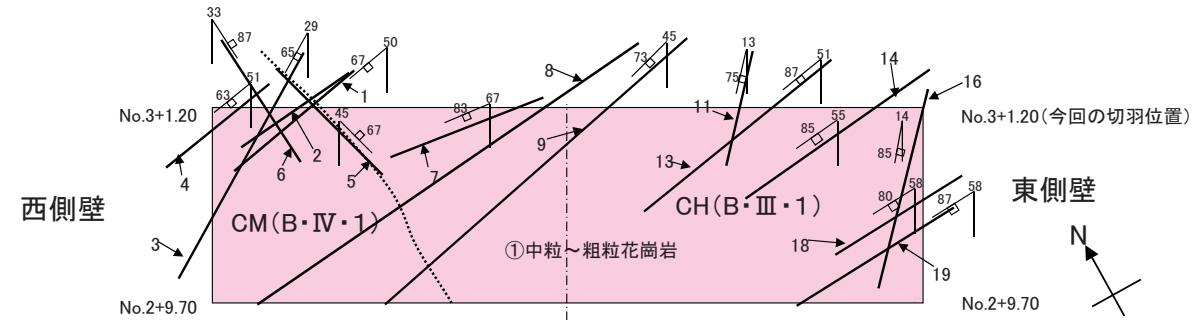
A5-請負-計測工(地質)-120918

シート番号	500mアクセス北坑道19	日時	2012/9/18 15:00~16:30	位置・深度	500mアクセス北坑道19 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

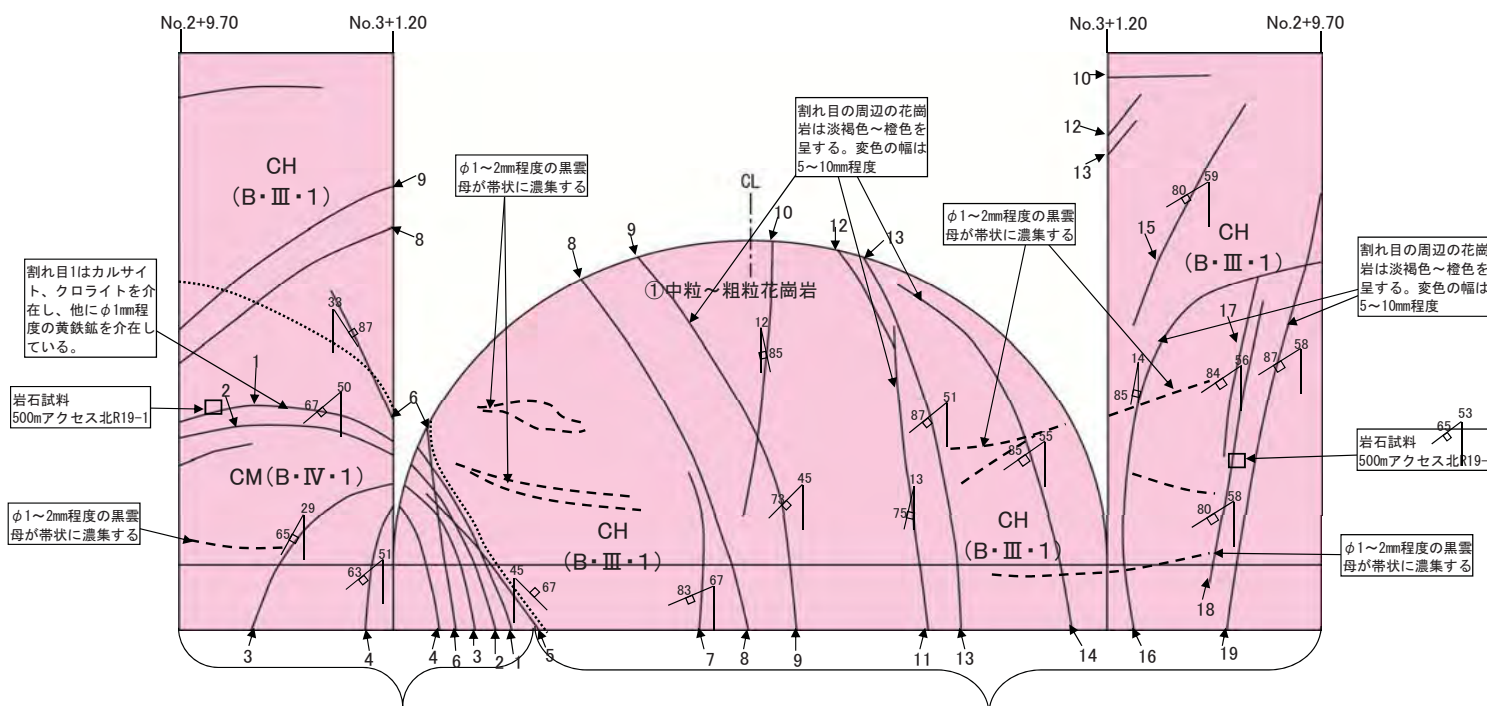
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

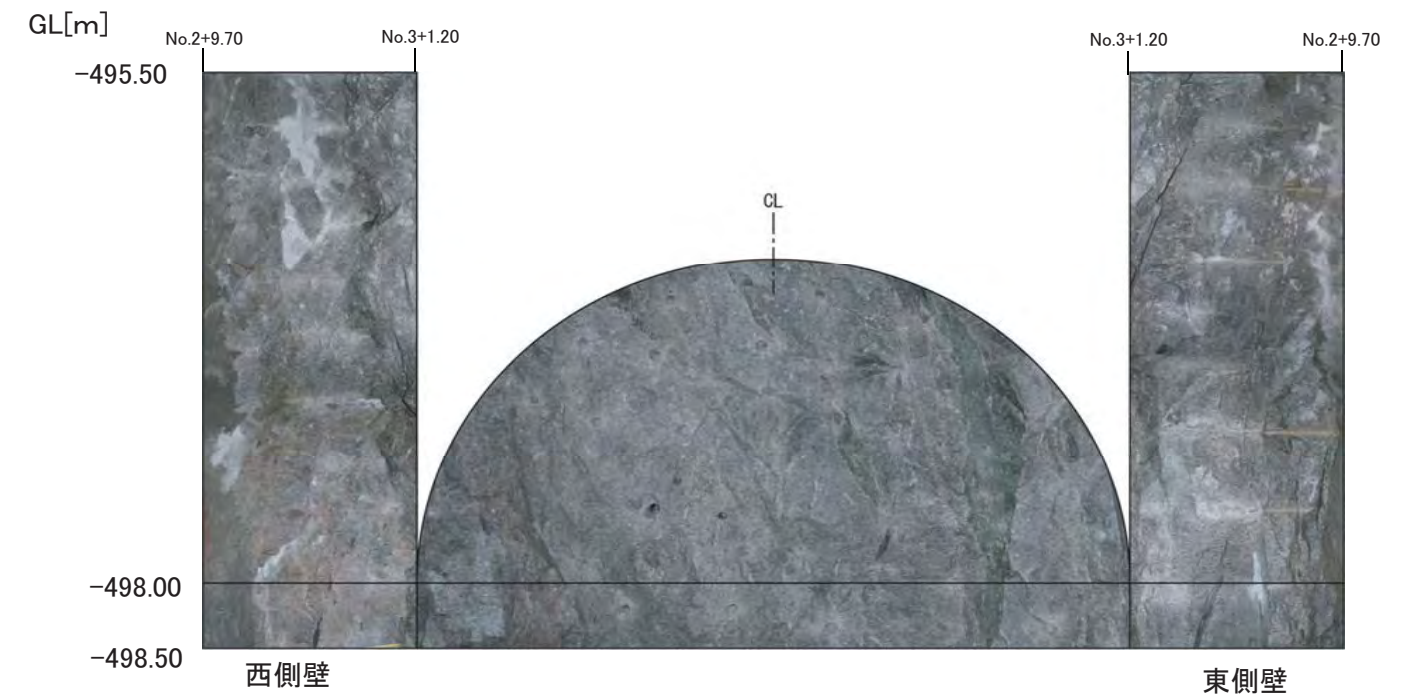
凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集
----	-----	-----	----------	--------	----	--------



スライス断面図



スケッチ



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 65 G.L. -498m~-498.5m 65
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R19-1 (花崗岩), 500mアクセス北R19-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	なし		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN29°E方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。

花崗岩は割れ目5付近から東側では変質がほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目5付近から西側では程度の弱い変質をうけ、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わり、カリ長石は橙色を呈し、花崗岩は全体に橙色である。

割れ目はENE~WNW走向高角度南傾斜とNE~NNE走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が主体である。他に、NNW走向高角度東傾斜の割れ目が認められる。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、黄鉄鉱が認められる。湧水は認められなかった。

岩級区分は、割れ目5付近から東側では、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH (B・Ⅲ・1) 級と評価した。割れ目5付近から西側は、割れ目間隔が6~10cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM (B・Ⅳ・1) 級と評価した。

A工区地質記載シート

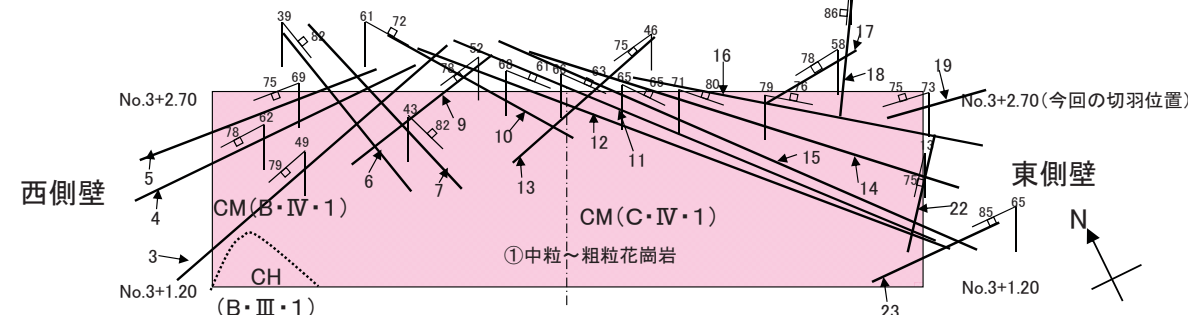
A5-請負-計測工(地質)-120919

シート番号	500mアクセス北坑道20	日時	2012/9/19 17:30~19:00	位置・深度	500mアクセス北坑道20 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

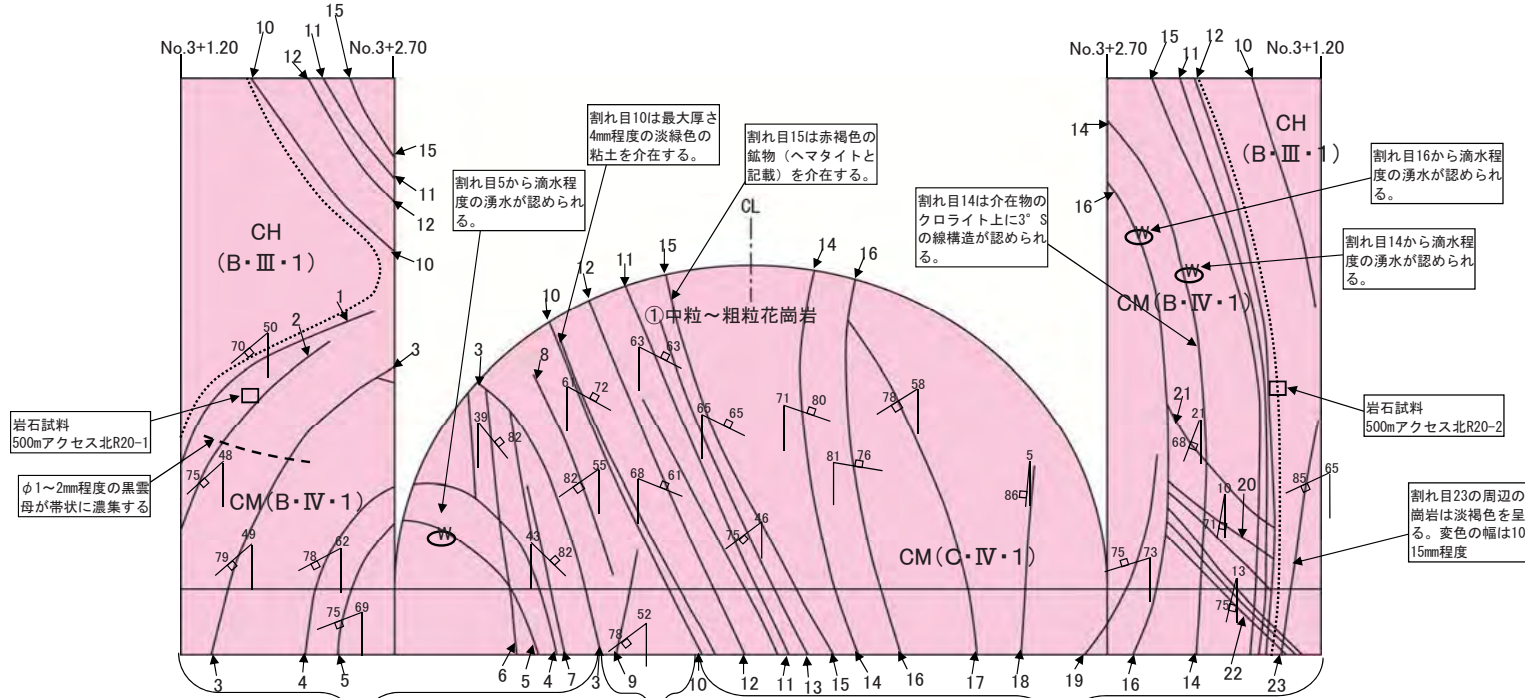
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

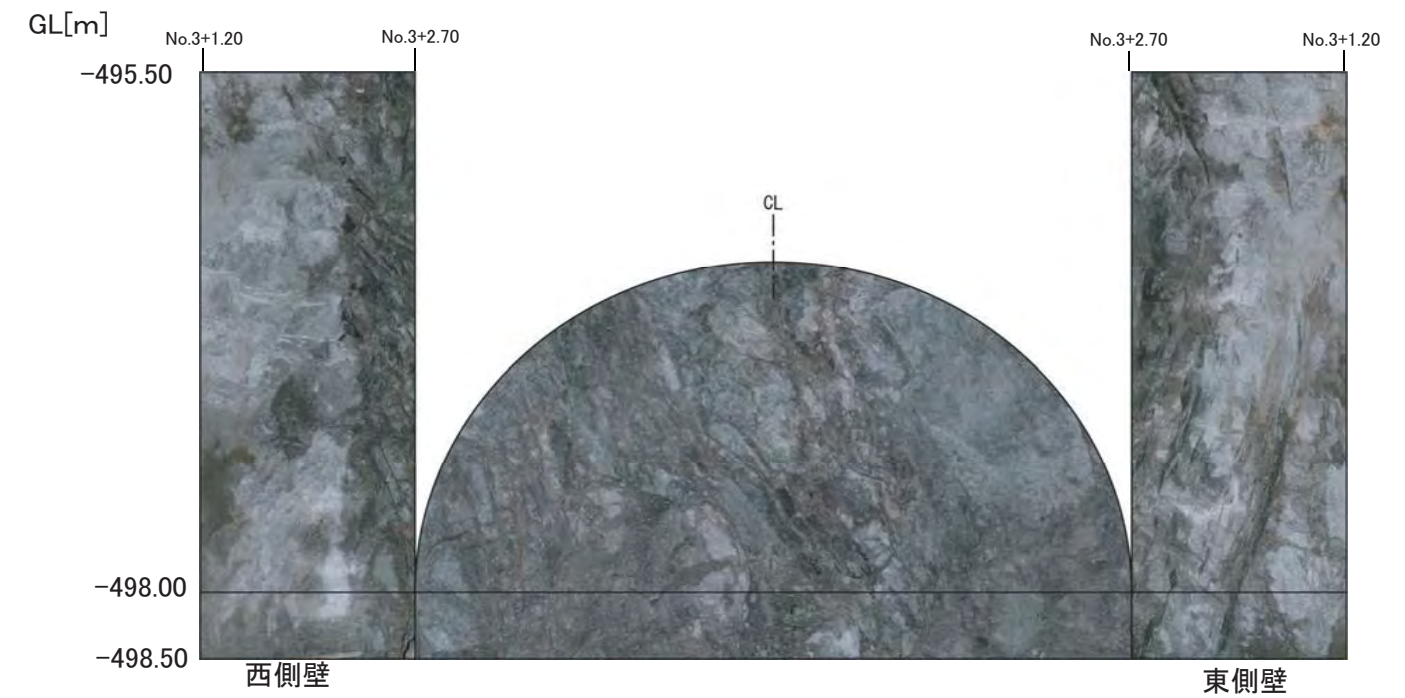
凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集
----	-----	-----	----------	--------	----	--------



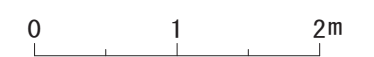
スライス断面図



スケッチ



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色、淡褐色、淡緑色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 51 G.L. -498m~-498.5m 57
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R20-1 (花崗岩), 500mアクセス北R20-2 (花崗岩)
変質	2~3	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN26°E方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。
割れ目1付近からSW側と割れ目3付近から割れ目10付近の花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はほとんど残存している。割れ目3付近からNW側の花崗岩は中程度の変質により、有色鉱物の半数程度がクォーライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡褐色~橙色を呈する。また、割れ目10付近からE側の花崗岩は中~強い程度の変質により、黒雲母などの有色鉱物の半数以上がクォーライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡緑色を呈する。
割れ目は鏡面左側から西側壁にかけてはENE走向高角度南傾斜の割れ目が主体で、割れ目10付近から東側にかけてはNW走向高角度東傾斜の割れ目が主体である。他に、NNW走向高角度東傾斜の割れ目や、NE走向高角度東~南傾斜と西傾斜の割れ目が認められる。
割れ目の介在物としては、カルサイト、クォーライト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)が認められた。
湧水は割れ目5、14、16から滴水程度で認められた。
岩級区分は、割れ目1付近からSW側では、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH (B・III・1) 級と評価した。割れ目1付近からE側の切羽の大部分は、割れ目間隔が10~20cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音~金属音を発する程度の硬さであることから、CM (B~C・IV・1) 級と評価した。

A工区地質記載シート

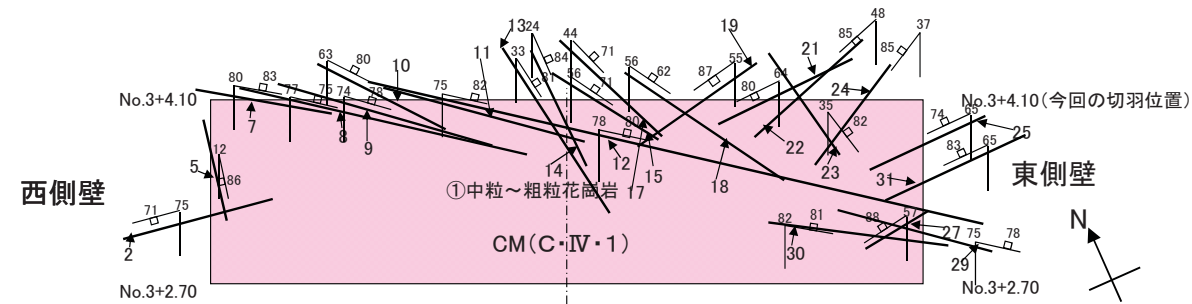
A5-請負-計測工(地質)-120921

シート番号	500mアクセス北坑道21	日時	2012/9/21 10:00~11:30	位置・深度	500mアクセス北坑道21 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

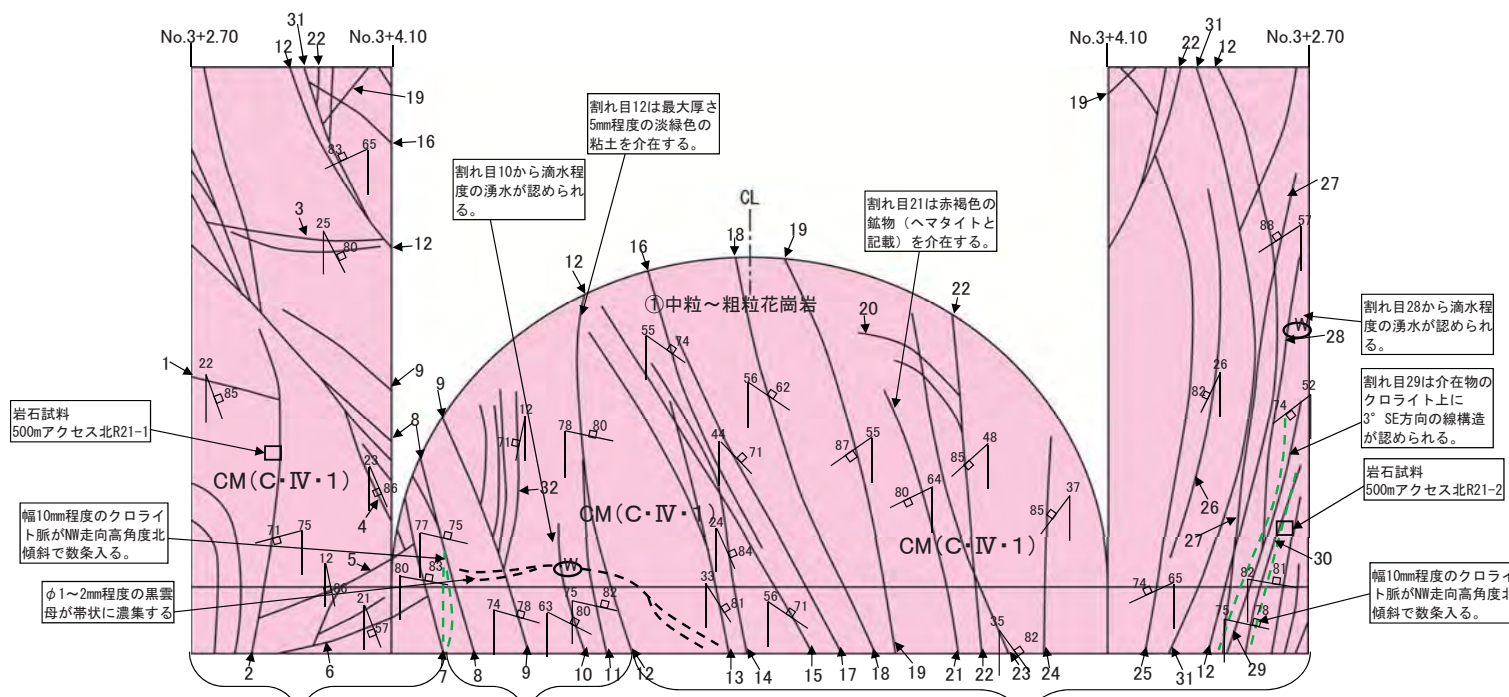
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	クロライト脈
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------



スライス断面図

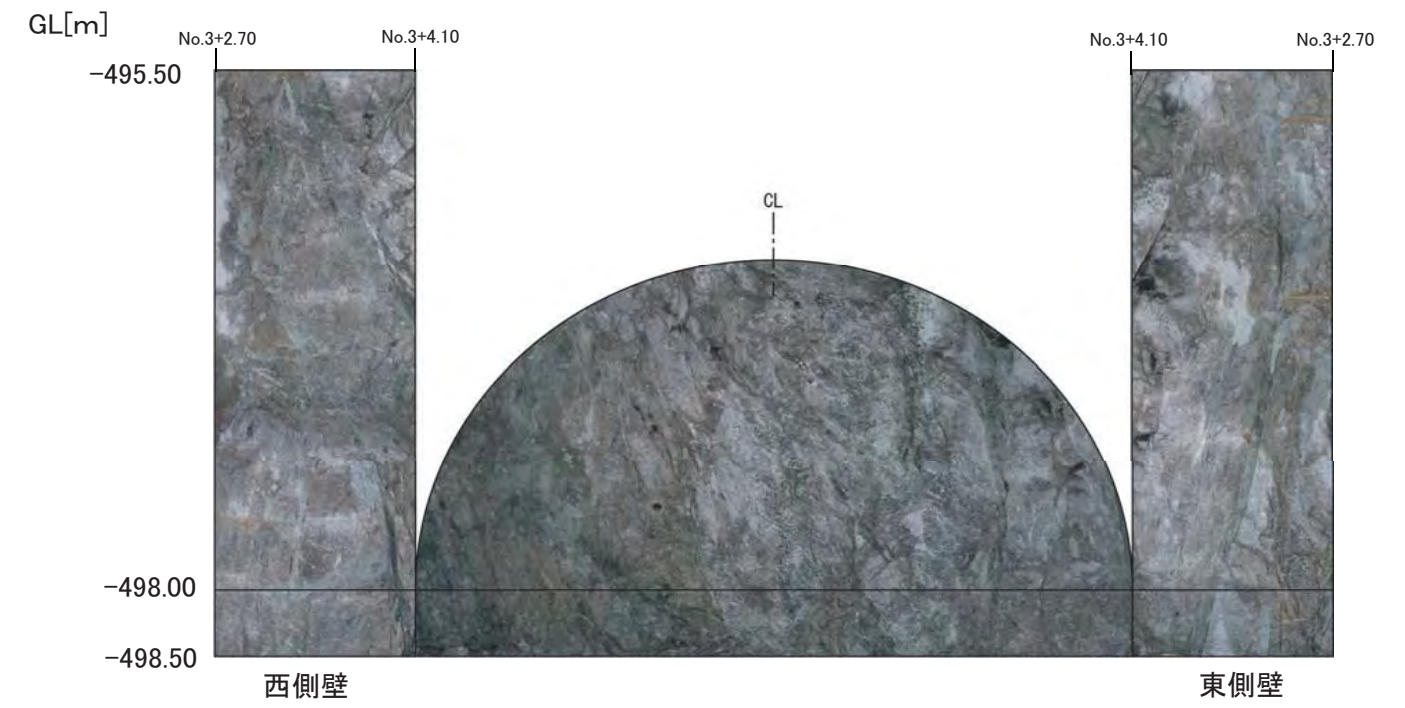


NNE走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。他に、WNW走向高角度南傾斜の割れ目2が認められる。割れ目はクロライト、カルサイトと淡緑色の粘土を介在している。花崗岩は弱~中程度の変質により、有色鉱物の一部~半数程度はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡褐色~橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度北傾斜の割れ目が10~15cm程度の間隔で認められる。他にNE走向高角度西傾斜の割れ目32が認められる。割れ目はクロライト、カルサイトを介在している。花崗岩は中程度の変質により、有色鉱物の半数程度はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡緑色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度北傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で認められる。また、ENE走向高角度南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NNE~NNW走向高角度東傾斜の割れ目が縦面中央付近で6~10cm程度の間隔で認められ、東側壁ではWNW~ENE走向高角度北傾斜の割れ目25、27が認められる。割れ目にはクロライトとカルサイト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)を介在している。花崗岩は弱~中程度の変質を受け、黒雲母などの有色鉱物の一部~半数程度がクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

スケッチ



可視画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡褐色、淡緑色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 48 G.L. -498m~-498.5m 54
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R21-1 (花崗岩), 500mアクセス北R21-2 (花崗岩)
変質	2~3	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN24°E方向である。横坑観察は切羽から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。割れ目7付近からSW側の花崗岩は弱~中程度の変質により、有色鉱物の一部~半数程度がクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡褐色~橙色を呈する。また、割れ目7付近から割れ目12付近の花崗岩は、中程度の変質により有色鉱物の半数程度がクロライトに置き換わり、花崗岩は淡緑色を呈する。割れ目12付近からNE側の花崗岩は、弱~中程度の変質により、黒雲母などの有色鉱物の一部~半数程度がクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に橙色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目7付近から西側にかけてNNE走向高角度東傾斜と西傾斜が主体で、割れ目7付近から東側は、NW走向高角度北傾斜の割れ目が主体である。他に、WNW~ENE走向高角度南傾斜と北傾斜の割れ目やNE走向高角度西傾斜の割れ目、NNE~NNW走向高角度東傾斜の割れ目が認められる。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)が認められた。割れ目29は割れ目介在物のクロライト上に線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。湧水は割れ目10と割れ目28から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目間隔が6~30cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・IV・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

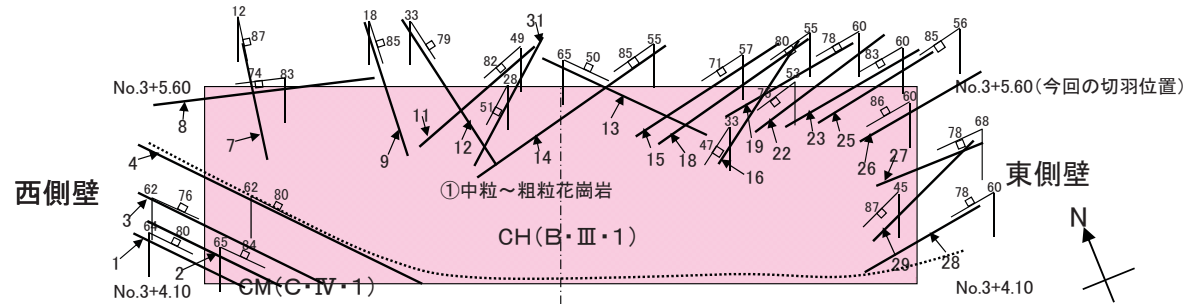
A5-請負-計測工(地質)-120922

シート番号	500mアクセス北坑道22	日時	2012/9/22 10:30~12:00	位置・深度	500mアクセス北坑道22 G.L. -495.5 m~G.L. -498.5 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

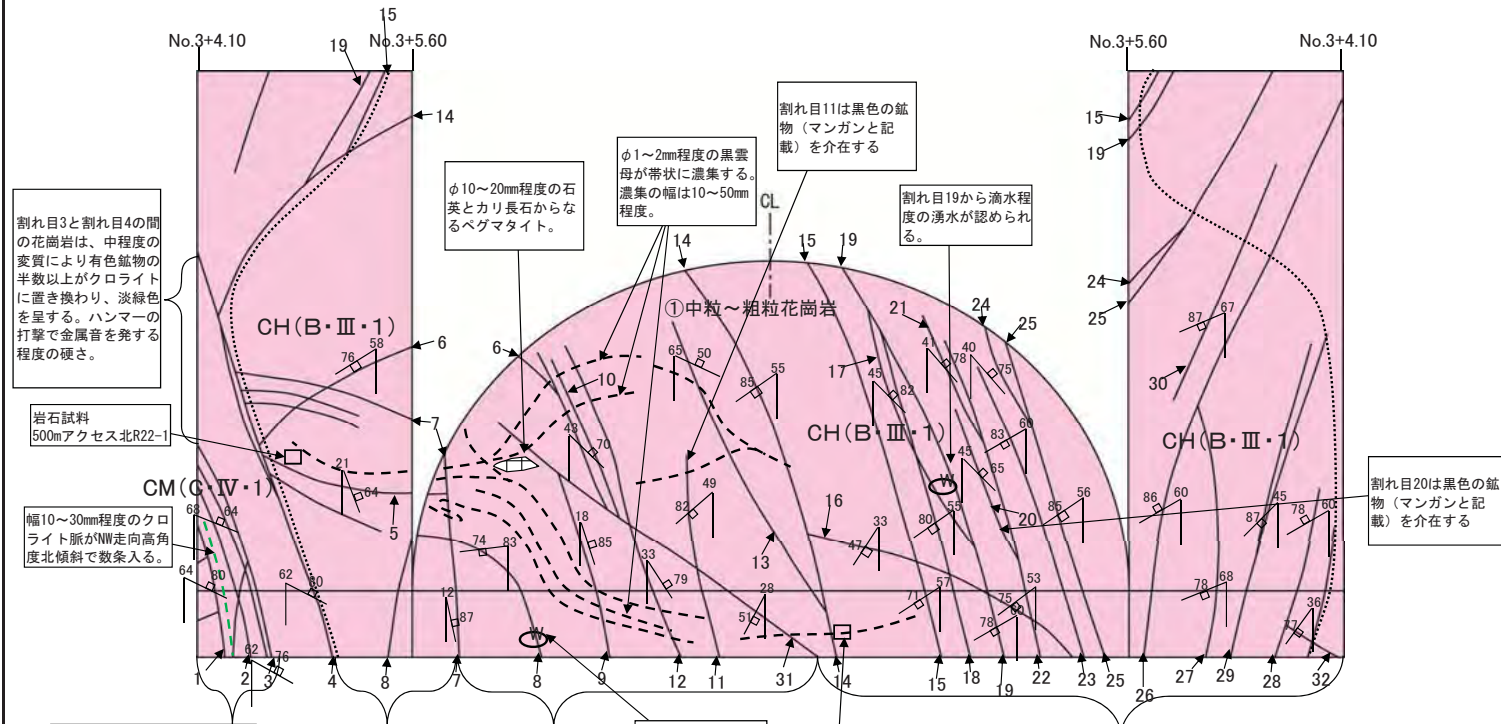
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

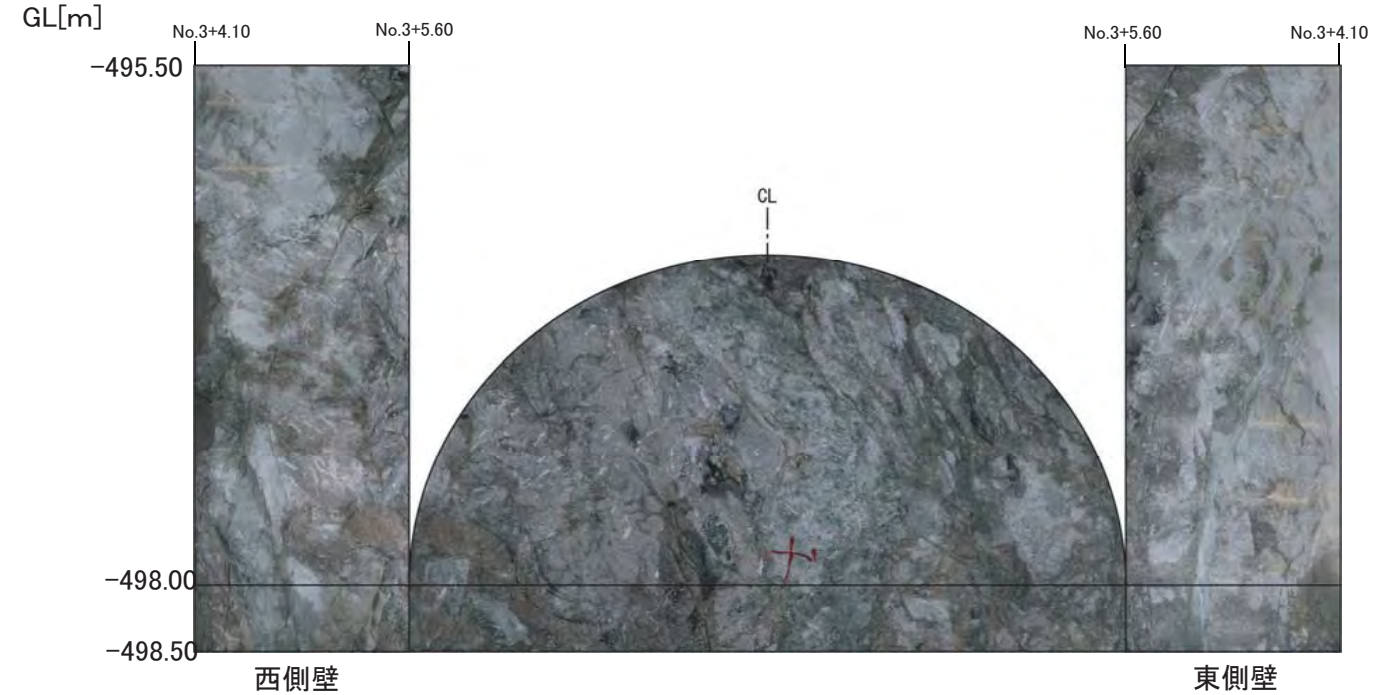
凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 クロライト脈 ベグマタイト



スライス断面図



スケッチ



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CM/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色、淡緑色)	RMR値	G.L. -498m~-498.5m CM/CH
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R22-1 (花崗岩), 500mアクセス北R22-2 (花崗岩)
変質	2~3	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN22°E方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。
 割れ目7付近から東側の花崗岩は、変質の程度が弱く有色鉱物はほとんど残存し、花崗岩は淡桃色~橙色を呈する。割れ目1付近から割れ目3の花崗岩と割れ目4から割れ目7付近の花崗岩は、弱~中程度の変質により、有色鉱物の一部~半数程度がクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に橙色を呈する。また、割れ目3と割れ目4の花崗岩は、中程度の変質により有色鉱物の半数以上がクロライトに置き換わり、花崗岩は淡緑色を呈する。
 割れ目の走向傾斜は、割れ目14付近から西側ではNW走向高角度東傾斜とNNE~NNW走向高角度東傾斜の割れ目が主体である。割れ目14付近から東側ではNE走向高角度南傾斜の割れ目とNW走向高角度東傾斜の割れ目が主体である。他にNW走向高角度南傾斜やNE走向中角度南傾斜の割れ目が認められる。
 割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、黒色の鉱物(マンガンと記載)が認められた。
 湧水は割れ目8と割れ目19から滴水程度で認められた。
 岩級区分は、割れ目4付近から東側では、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目4から西側では割れ目間隔が6~10cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

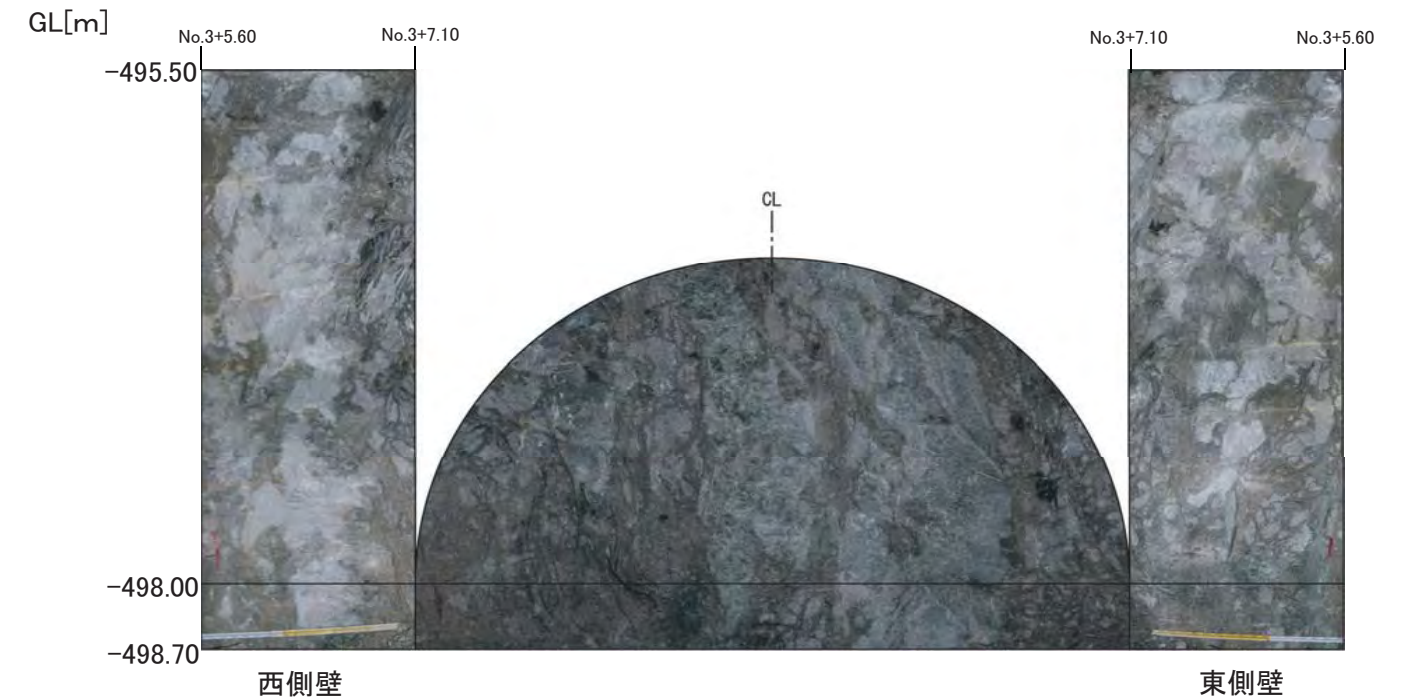
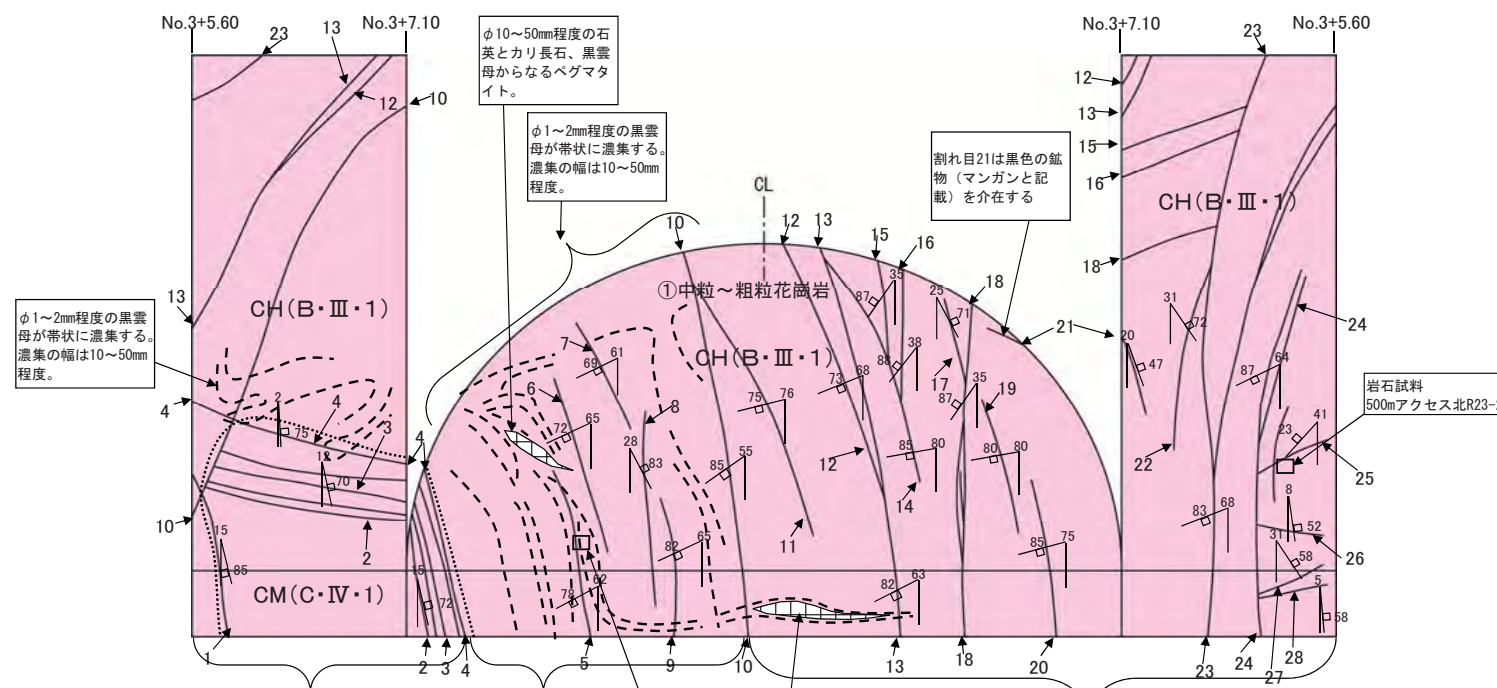
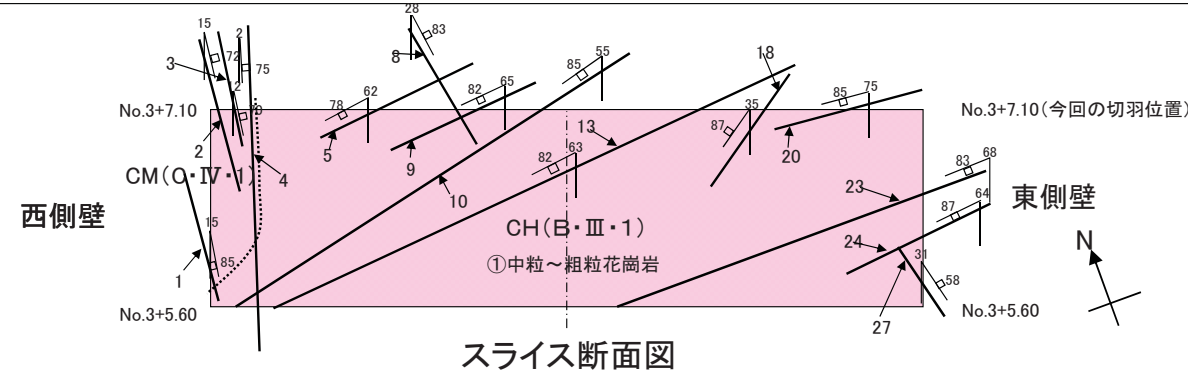
A5-請負-計測工(地質)-121002

シート番号	500mアクセス北坑道23	日時	2012/10/2 16:30~18:00	位置・深度	500mアクセス北坑道23 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 ペグマタイト



NE走向高角度東傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。他にNNE走向高角度西傾斜の割れ目1が認められる。割れ目はカルサイトと淡緑色の粘土を介在している。花崗岩は弱~中程度の変質により、有色鉱物の一部~半数程度はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

ENE走向高角度南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。この割れ目は断続的に認められる。他に、NNW走向高角度東傾斜の割れ目8が認められる。割れ目はクロライトとカルサイトを介在している。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩石試料 500mアクセス北R23-1
φ10~20mm程度の石英とカリ長石からなるペグマタイト。

ENE~WNW走向高角度南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で、NNW走向高~中角度東傾斜の割れ目が30~50cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度北傾斜の割れ目15や、南傾斜の割れ目18が認められる。割れ目にはクロライトとカルサイト、淡緑色の粘土、黒色の鉱物(マンガンと記載)を介在している。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	CM/CH CM/CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	57 57
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R23-1 (花崗岩), 500mアクセス北R23-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	無し			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN20°E方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ15mm程度の大きさのカリ長石が認められる。割れ目4付近から西側の花崗岩は、変質の程度は弱~中程度で、有色鉱物の一部~半数程度がクロライトに置き換わり、花崗岩は橙色を呈する。割れ目4付近から東側の花崗岩は、変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目4付近から西側ではNE走向高角度東傾斜が主体で、他にNNE走向高角度西傾斜が認められる。割れ目4付近から東側では、ENE~WNW走向高角度南傾斜が主体で、他にNNW走向高~中角度東傾斜やNE走向高角度北傾斜や南傾斜が認められる。

割れ目の介在物としては、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、黒色の鉱物(マンガンと記載)が認められる。湧水は認められなかった。岩級区分は、割れ目4から東側では割れ目間隔が20~50cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目4付近から西側では、割れ目間隔が6~10cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

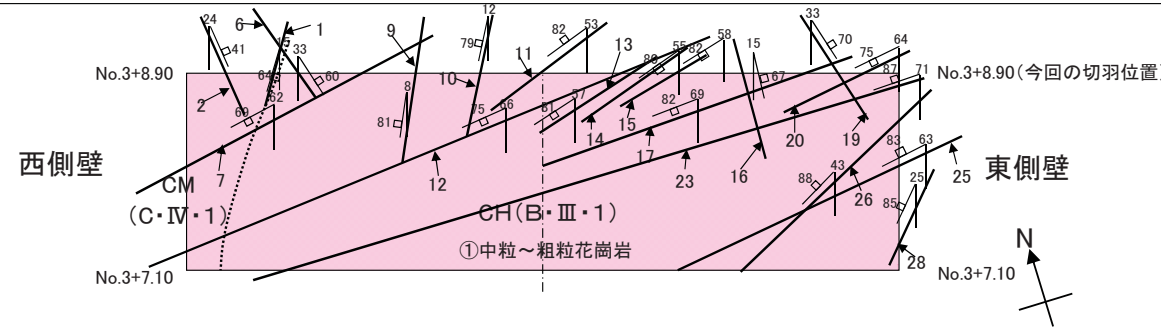
A5-請負-計測工(地質)-121004

シート番号	500mアクセス北坑道24	日時	2012/10/4 11:30~13:00	位置・深度	500mアクセス北坑道24 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

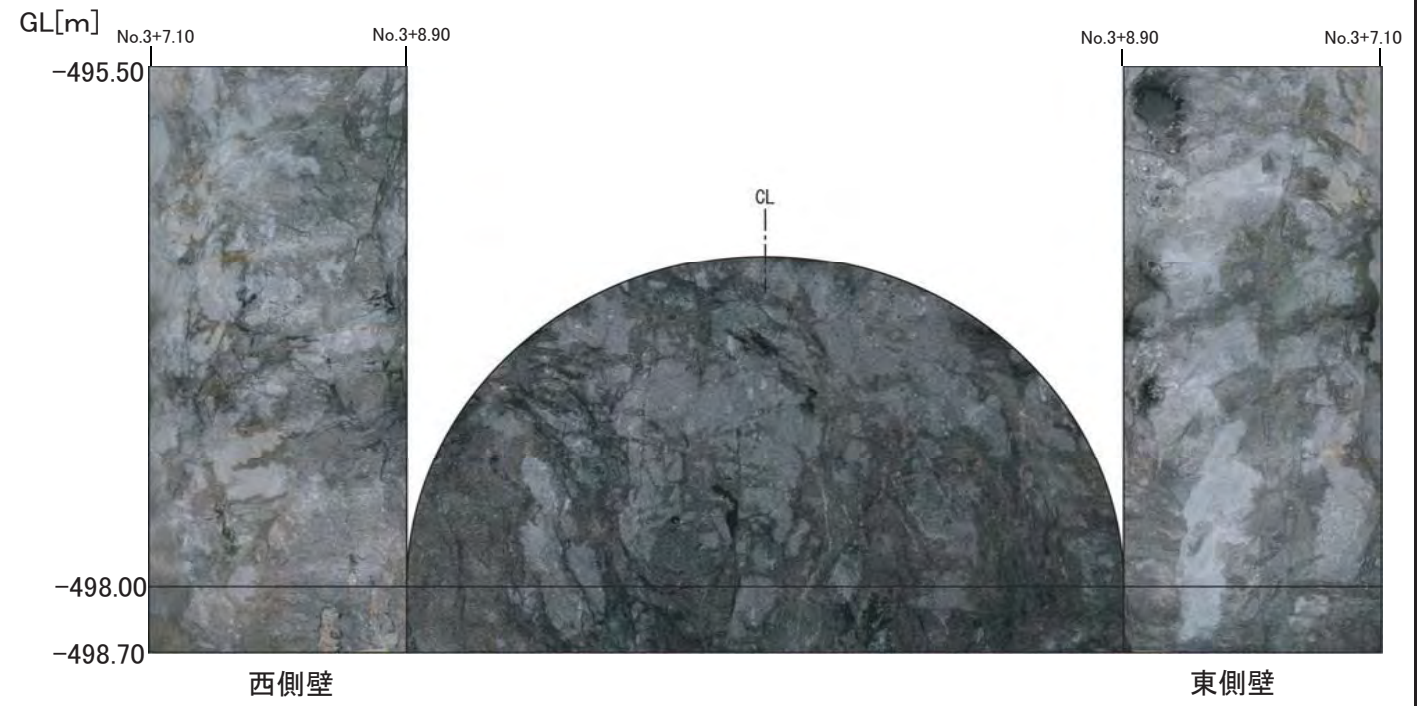
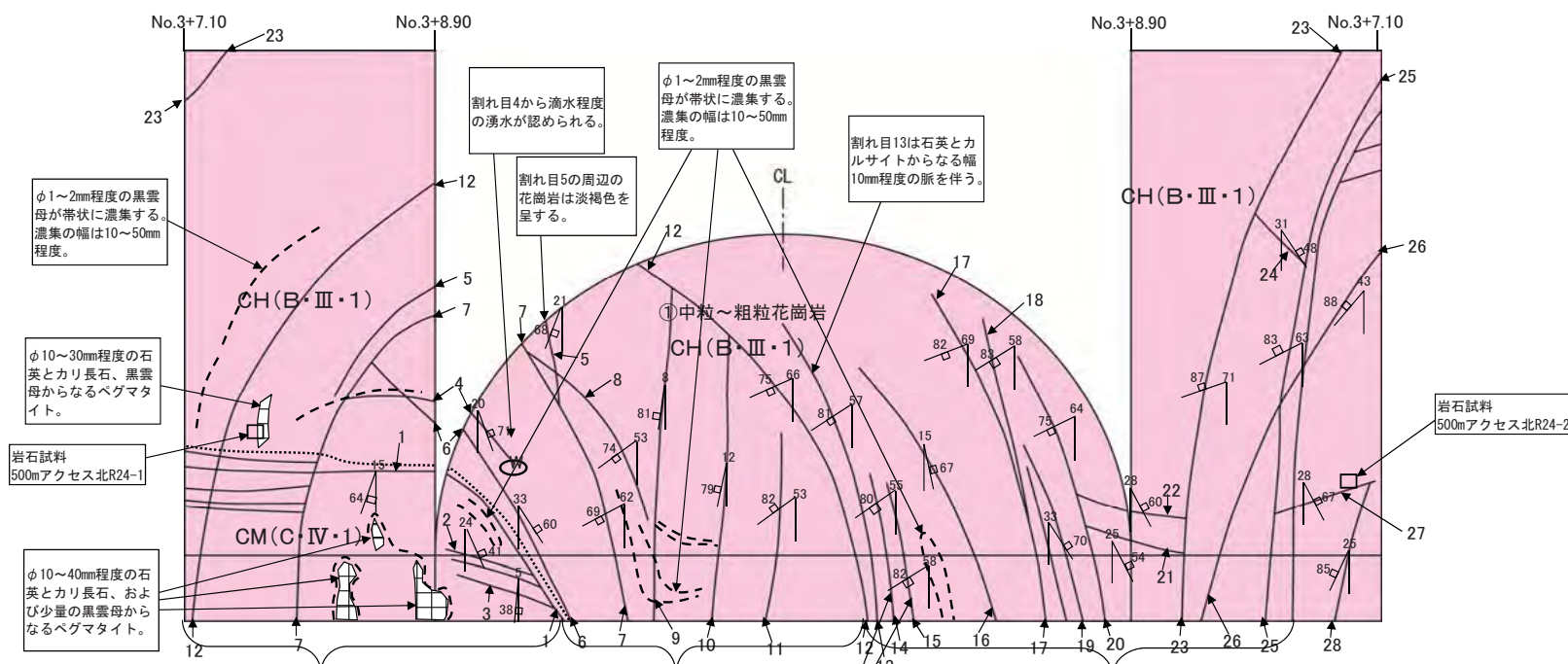
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	ペグマタイト
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------



スライス断面図



可視画像

スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CM/CH G.L. -498m~-498.7m CM/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 53 G.L. -498m~-498.7m 59
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R24-1 (花崗岩), 500mアクセス北R24-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN17°E方向である。横坑観察は切羽から1.8m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10~40mm程度の大きさのカリ長石、石英、黒雲母からなるペグマタイトが認められる。

割れ目1付近から西側の花崗岩は、変質の程度は弱~中程度で、有色鉱物の一部~半数程度がクロライトに置き換わり、花崗岩は橙色を呈する。割れ目1付近から東側の花崗岩は、変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。

割れ目の走向傾斜は、割れ目1付近から西側ではNE走向中~高角度東傾斜とNNW走向中~高角度東傾斜が主体で、他にENE走向高角度南傾斜が認められる。割れ目1付近から割れ目12付近の間では、ENE走向高角度南傾斜と、NE走向高角度西傾斜が主体で、他にNE走向高角度東傾斜が認められる。

割れ目12付近から東側では割れ目の走向傾斜は、ENE走向高角度南傾斜と、NNW走向中~高角度東傾斜が主体で、他にNNE走向高角度東傾斜やNE走向高角度北傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、黒色の鉱物(マンガンと記載)が認められる。

湧水は割れ目4から滴水程度で認められた。

岩級区分は、割れ目1付近から東側では割れ目間隔が20~50cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。割れ目1付近から西側では、割れ目間隔が6~30cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・IV・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-121005

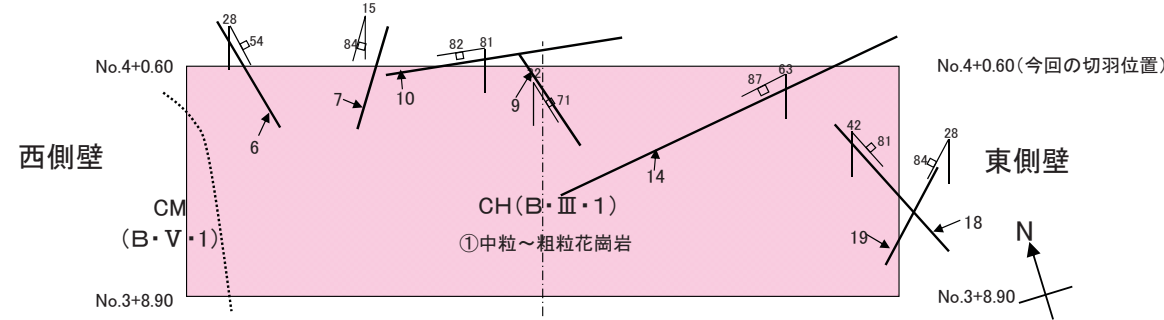
シート番号	500mアクセス北坑道25	日時	2012/10/5 9:30~11:00	位置・深度	500mアクセス北坑道25 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

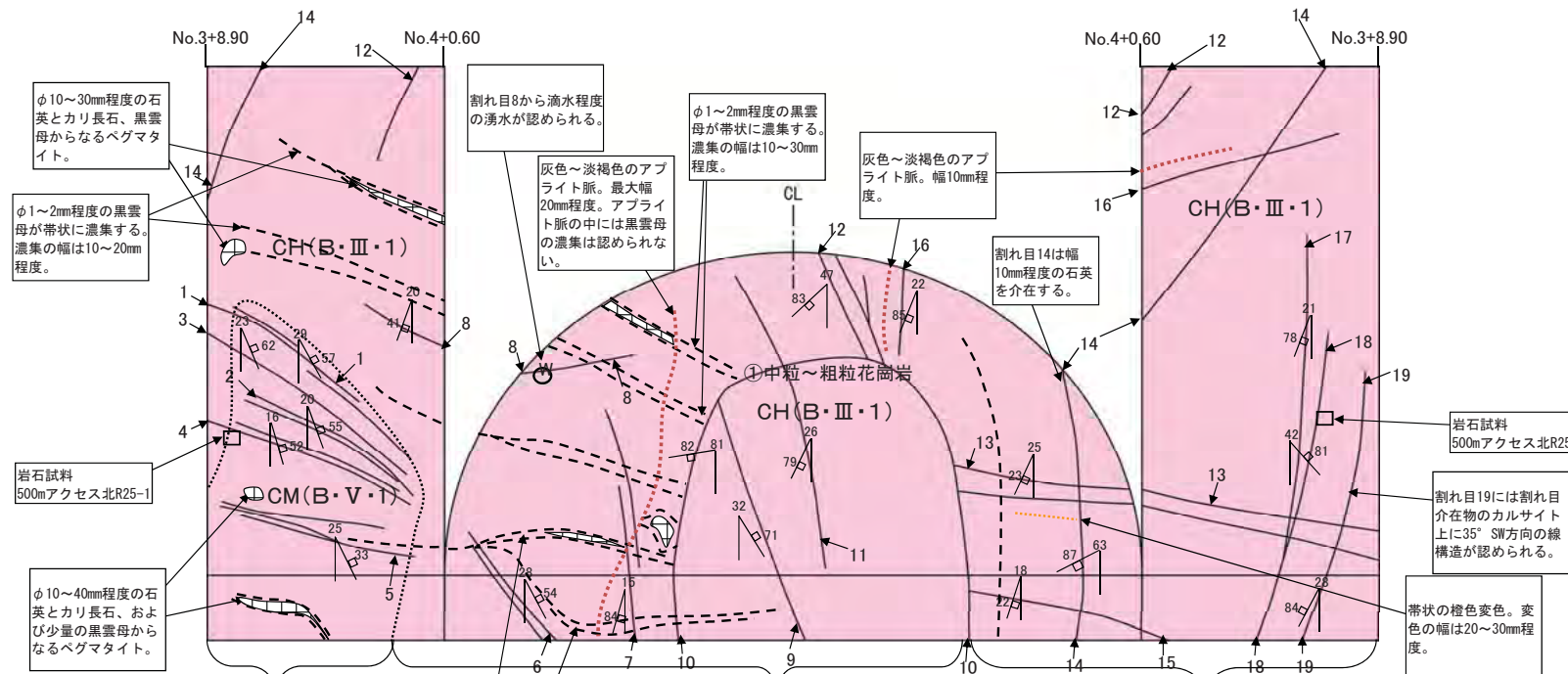
請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

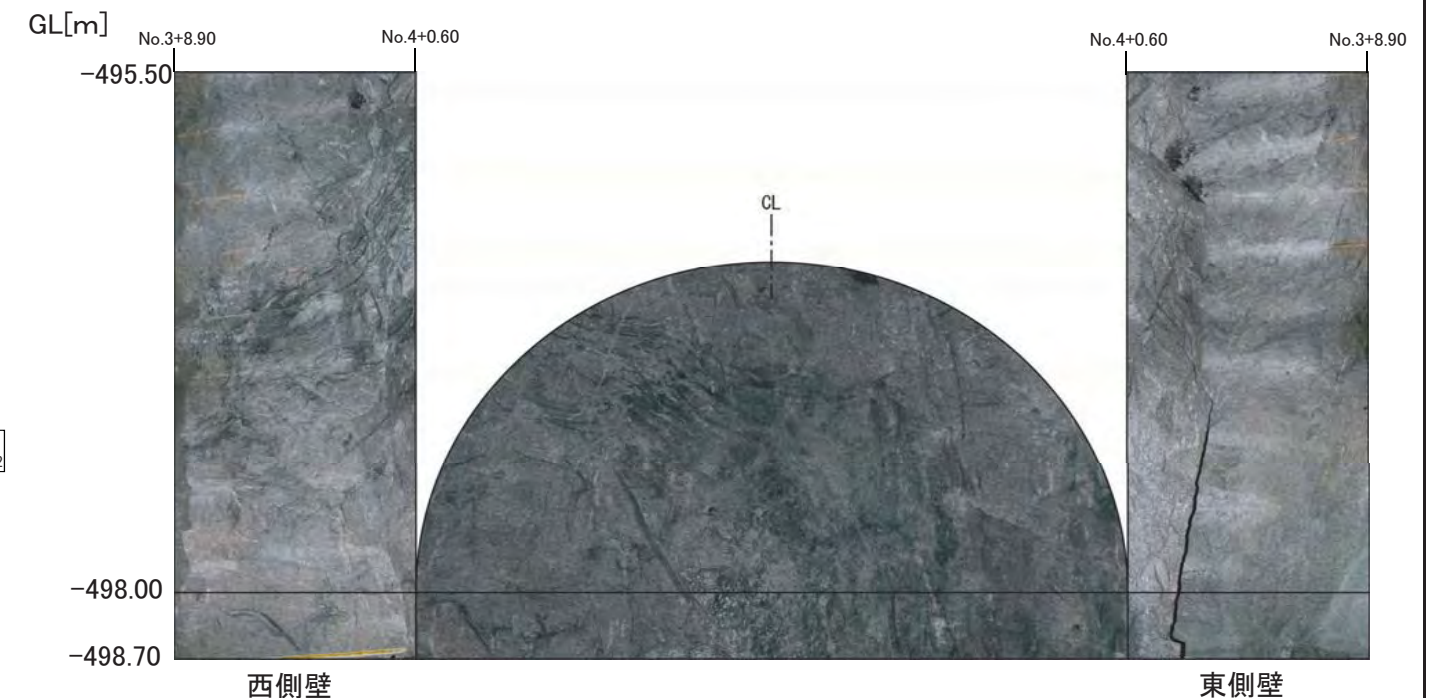
	花崗岩		割れ目		割れ目の走向傾斜		岩級区分境界		湧水		黒雲母の濃集		ペグマタイト		アプライト脈		橙色変色
--	-----	--	-----	--	----------	--	--------	--	----	--	--------	--	--------	--	--------	--	------



スライス断面図



スケッチ



可視画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	CM/CH CM/CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (橙色、淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	58 64
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R25-1 (花崗岩), 500mアクセス北R25-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN15° E方向である。横坑観察は切羽から1.7m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~6mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。所々にφ10~40mm程度の大きさのカリ長石、石英、黒雲母からなるペグマタイトが認められる。鏡中央付近と東側壁上部には極細粒のアプライト脈が認められる。
花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は橙色～淡桃色を呈する。
割れ目の走向傾斜は、西側壁ではNNW走向中～高角度東傾斜が主体である。割れ目5付近から割れ目10付近の間では、NNW走向高角度南傾斜とNE走向高角度東傾斜が主体で、他に、NNW走向中角度東傾斜やNE走向中角度東傾斜が認められる。割れ目10付近から東側はNE走向低角度東傾斜やENE走向高角度南傾斜が主体で、他にNE走向高角度東傾斜やNW走向高角度東傾斜、NE走向高角度北傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイト、石英、クロライト、淡緑色の粘土が認められる。
割れ目19は介在物のカルサイト上に線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。
湧水は割れ目8から滴水程度で認められた。
岩級区分は、割れ目5付近から東側では割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目5付近から西側では、割れ目間隔が3~20cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅴ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

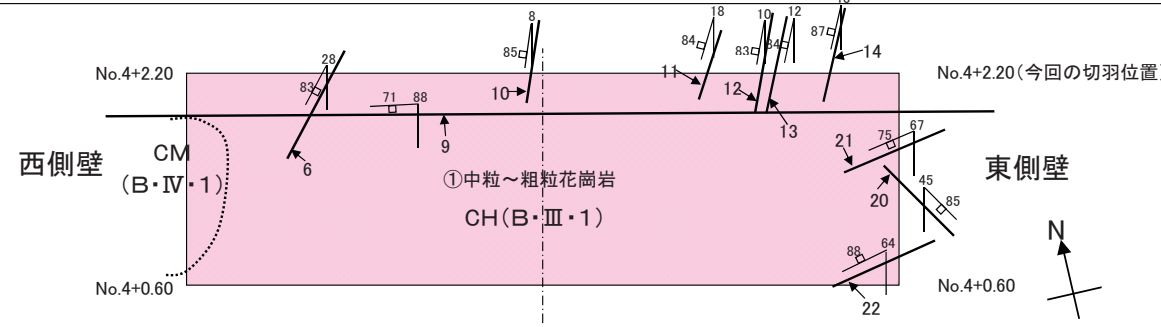
A5-請負-計測工(地質)-121010

シート番号	500mアクセス北坑道26	日時	2012/10/10 9:30~11:00	位置・深度	500mアクセス北坑道26 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

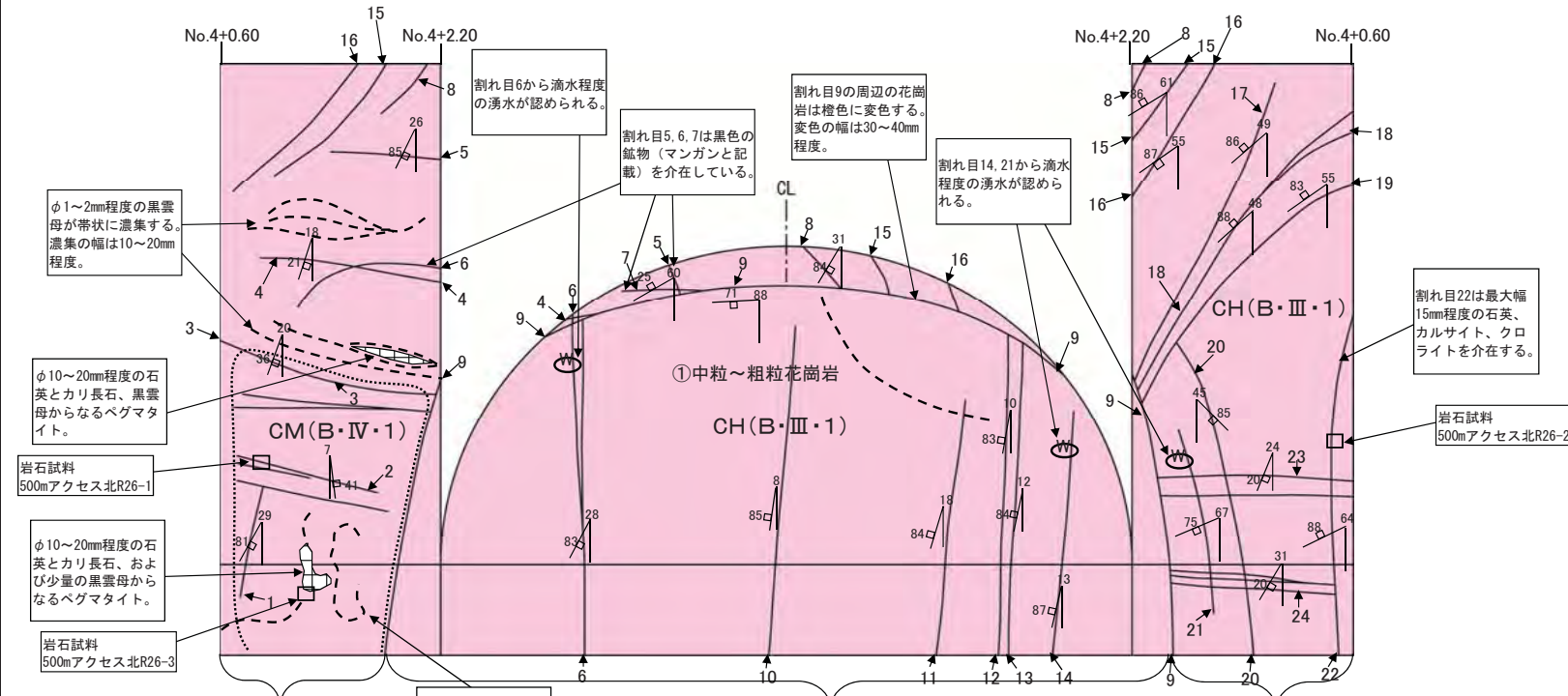
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

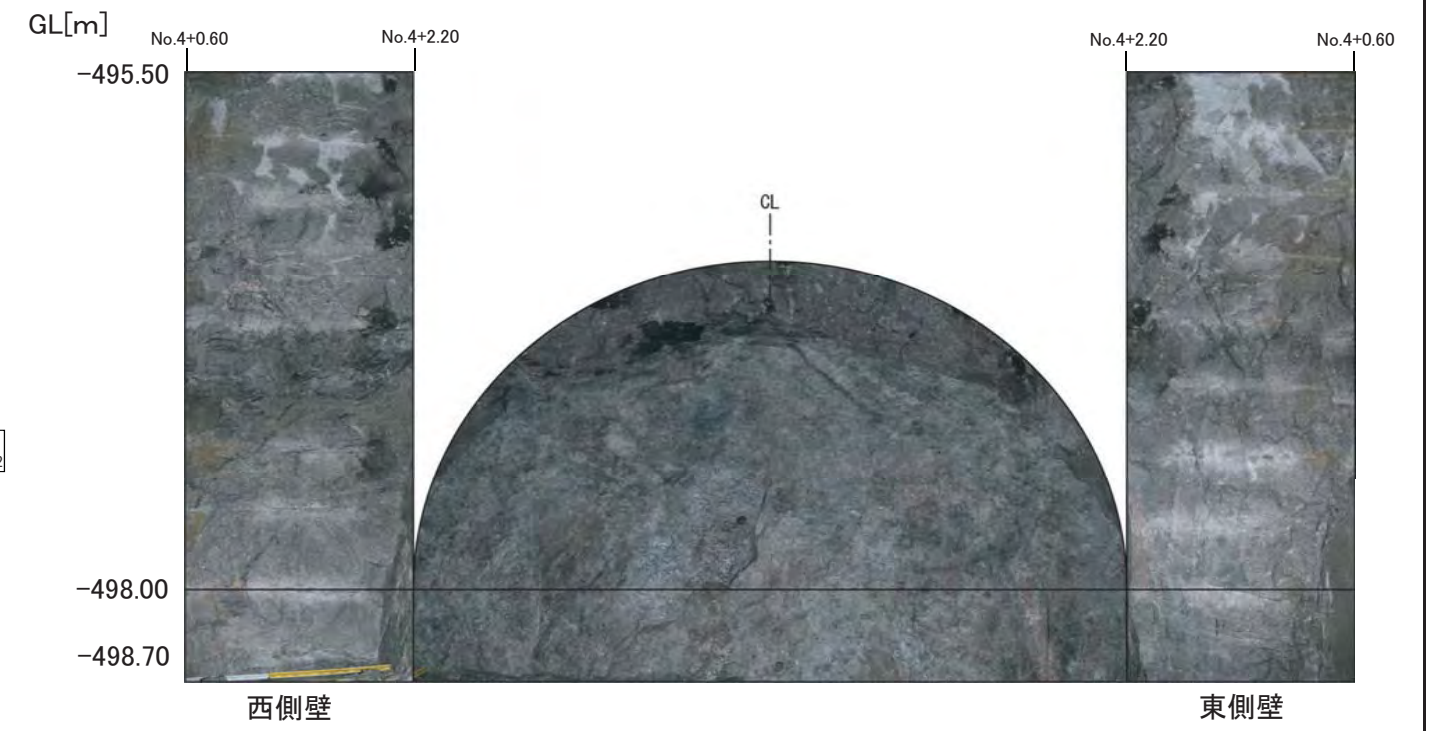
凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	ペグマタイト	アプライト脈	橙色変色
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------	--------	------



スライス断面図



スケッチ



可視画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CM/CH G.L. -498m~-498.7m CM/CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 58 G.L. -498m~-498.7m 64
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R26-1 (花崗岩), 500mアクセス北R26-2 (花崗岩), 500mアクセス北R26-3 (ペグマタイト)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN13° E方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。所々にφ10~20mm程度の大きさのカリ長石、石英、黒雲母からなるペグマタイトが認められる。
花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は淡桃色を呈する。
割れ目の走向傾斜は、西側壁ではNNE~NE走向低~中角度東傾斜が主体である。WNW走向高角度南傾斜の割れ目9の下盤は、NE走向高角度東傾斜や西傾斜が主体で、割れ目9の上盤にはNE走向の他に、ENE走向低角度北傾斜が認められる。東側壁では、NE走向低角度東傾斜とENE走向高角度南傾斜と北傾斜が主体で、他にENE走向高角度南傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイト、石英、クロライト、淡緑色の粘土、黒色の鉱物 (マンガンと記載) が認められる。
湧水は割れ目6, 14, 21から滴水程度で認められる。
岩級区分は、切羽の大部分では割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH (B・III・1) 級と評価した。西側壁の一部では、割れ目間隔が10~20cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM (B・IV・1) 級と評価した。

A工区地質記載シート

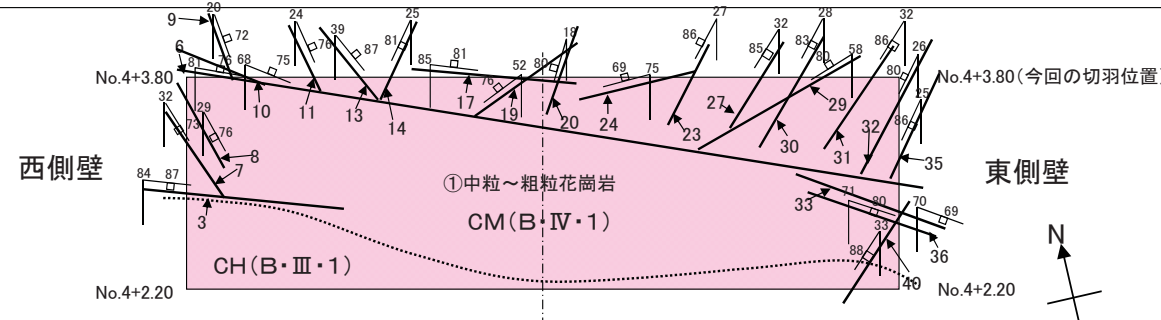
A5-請負-計測工(地質)-121011

シート番号	500mアクセス北坑道27	日時	2012/10/11 10:30~12:00	位置・深度	500mアクセス北坑道27 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

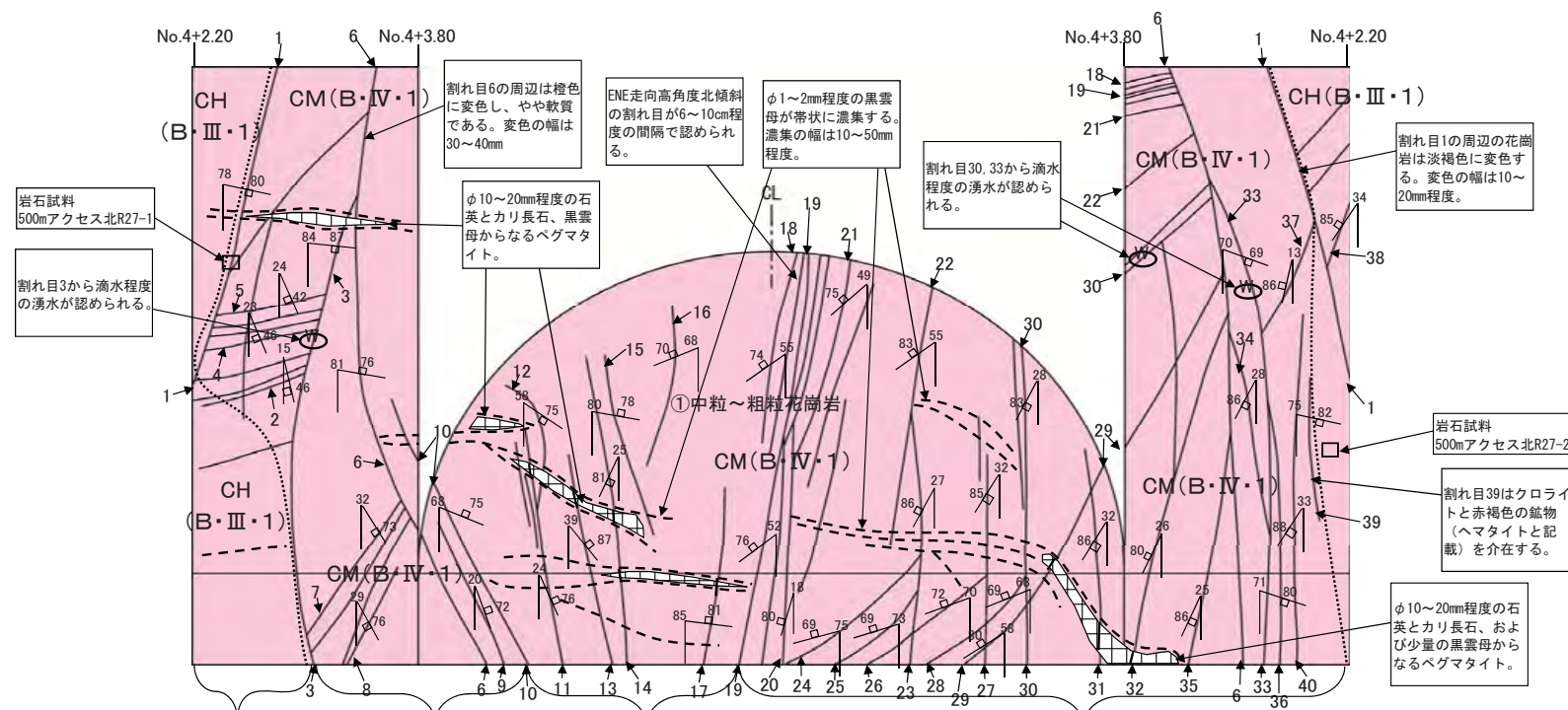
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

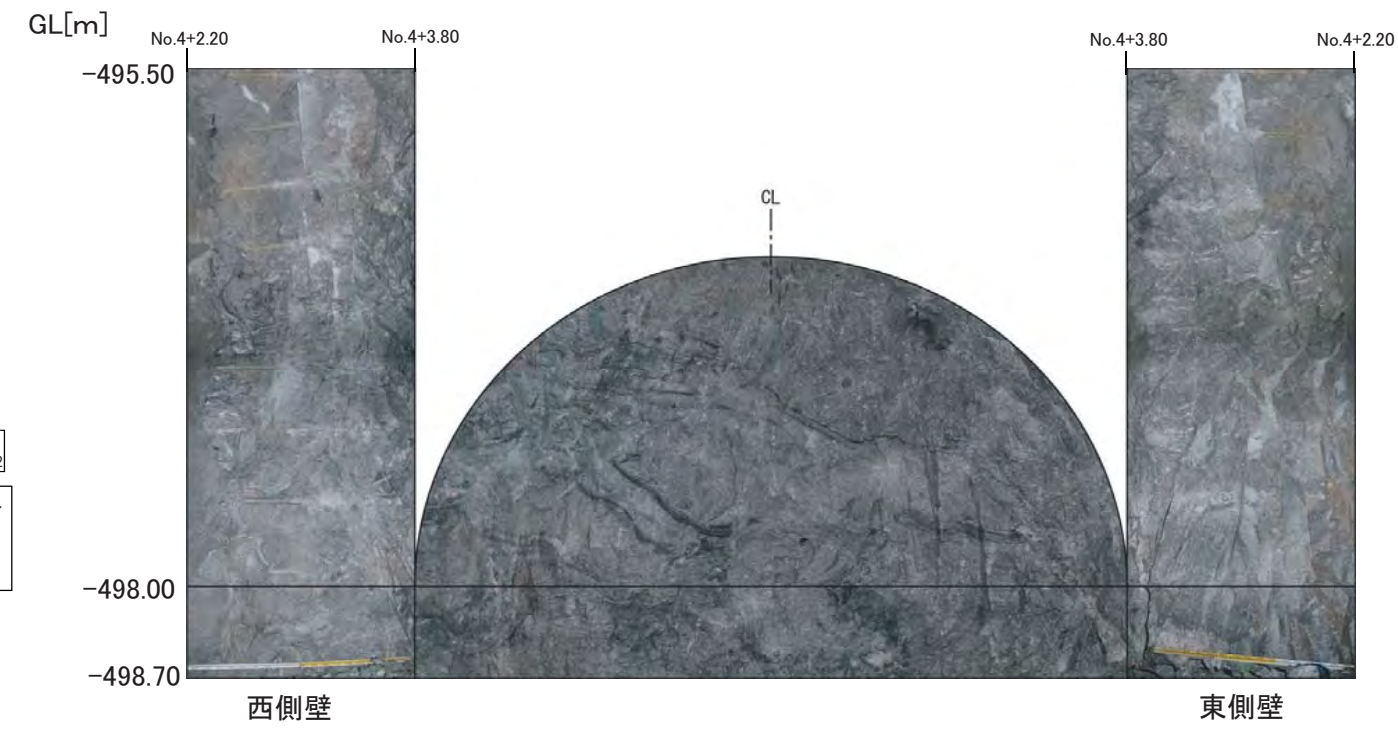
凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 ペグマタイト



スライス断面図



スケッチ



可視画像

割れ目はほとんど認められない。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

WNW走向高角度南傾斜と北傾斜の割れ目が30~50cm程度の間隔で認められ、この割れ目間で止まるNW走向中角度西傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。割れ目介在物はカルサイト、クロライト、淡緑色の粘土が認められる。WNW走向の割れ目はクロライトと淡緑色の粘土を、NE走向の割れ目はカルサイトを主に介在している。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度北傾斜の割れ目やNE走向高角度東傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で断続的に認められる。割れ目介在物はカルサイトとクロライト。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

ENE走向高角度北傾斜の割れ目が6~15cm程度の間隔で、NE走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が30~50cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向高角度北傾斜の割れ目36やNW走向高角度南傾斜の割れ目33, 39が認められる。割れ目にはクロライトとカルサイト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

割れ目6の周辺は橙色に変色し、やや軟質である。変色の幅は30~40mm

φ1~2mm程度の黒雲母が帯状に濃集する。濃集の幅は10~50mm程度。

φ10~20mm程度の石英とカリ長石、黒雲母からなるペグマタイト。

割れ目30, 33から滴水程度の湧水が認められる。

割れ目1の周辺の花崗岩は淡褐色に変色する。変色の幅は10~20mm程度。

岩石試料 500mアクセス北R27-1

割れ目3から滴水程度の湧水が認められる。

岩石試料 500mアクセス北R27-2

割れ目39はクロライトと赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)を介在する。

φ10~20mm程度の石英とカリ長石、および少量の黒雲母からなるペグマタイト。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CM/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 61 G.L. -498m~-498.7m 67
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R27-1(花崗岩), 500mアクセス北R27-2(花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN10°E方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10~20mm程度の大きさのカリ長石、石英、黒雲母からなるペグマタイトが認められる。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の周辺では橙色~淡褐色の変色が認められる。割れ目の走向傾斜は、割れ目3付近から割れ目10付近までは、WNW走向高角度南傾斜と北傾斜、およびNW走向中角度西傾斜が認められる。割れ目10付近から割れ目19付近までは、NW走向高角度北傾斜やNE走向高角度東傾斜が断続的に認められる。

割れ目19付近から東側の割れ目の走向傾斜は、ENE走向高角度北傾斜、およびNE走向高角度東傾斜と西傾斜が主体で、他にNW走向高角度北傾斜やNW走向高角度南傾斜が認められる。割れ目の介在物は、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)が認められる。湧水は割れ目3, 30, 33から滴水程度で認められた。岩級区分は、東側壁と西側壁の一部では割れ目が認められず、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。それ以外の切羽の大部分は、割れ目間隔が6~50cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

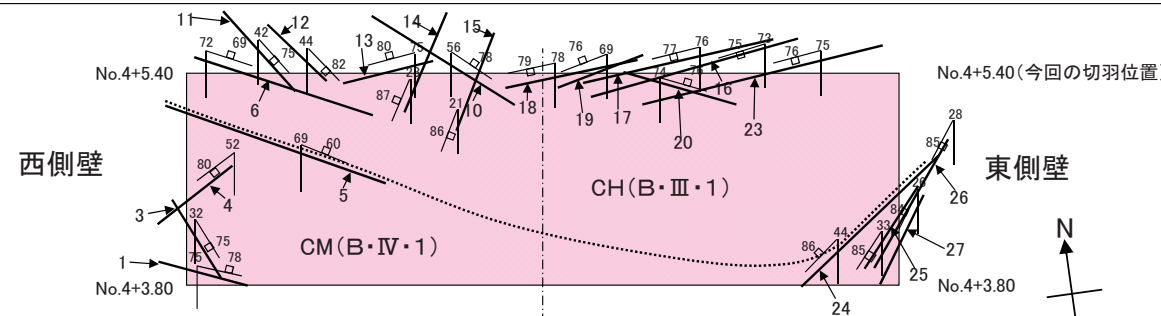
A5-請負-計測工(地質)-121012

シート番号	500mアクセス北坑道28	日時	2012/10/12 15:30~17:00	位置・深度	500mアクセス北坑道28 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

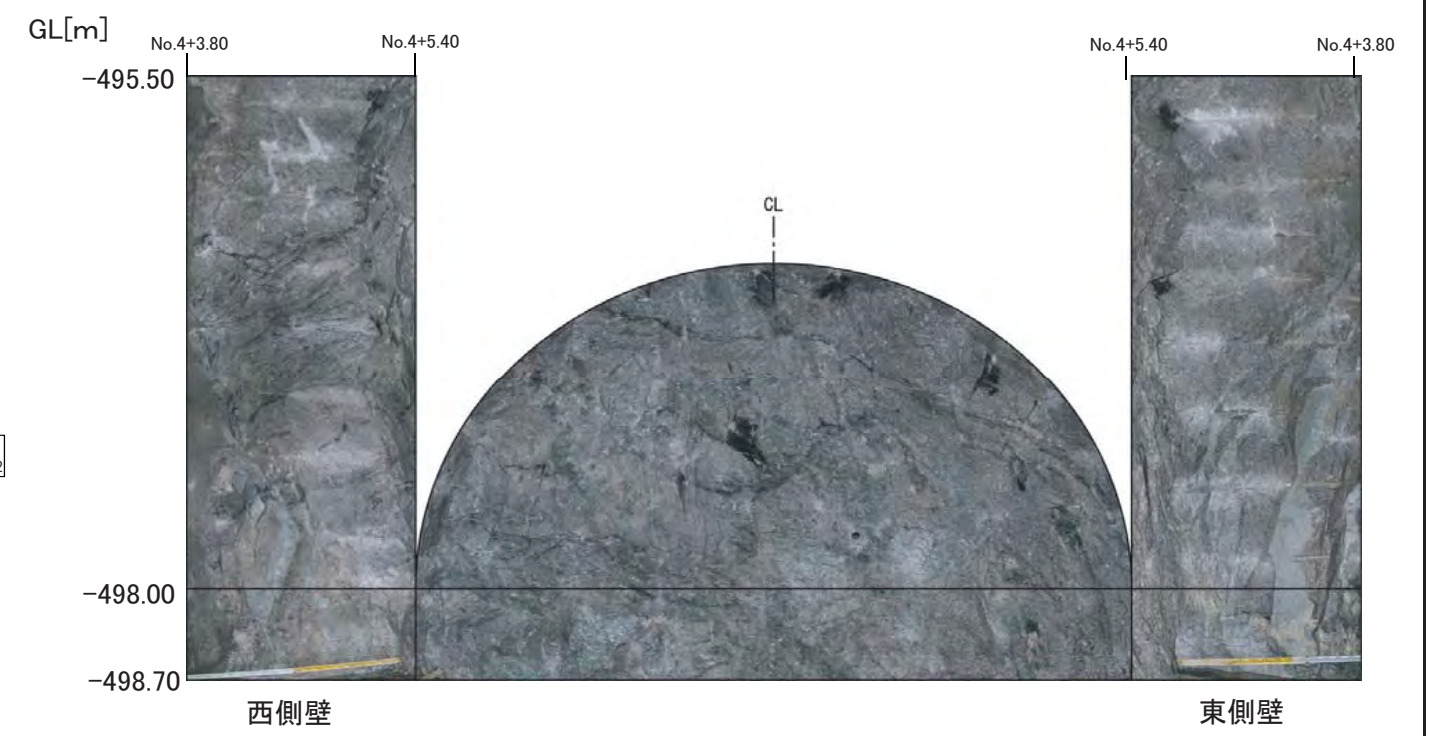
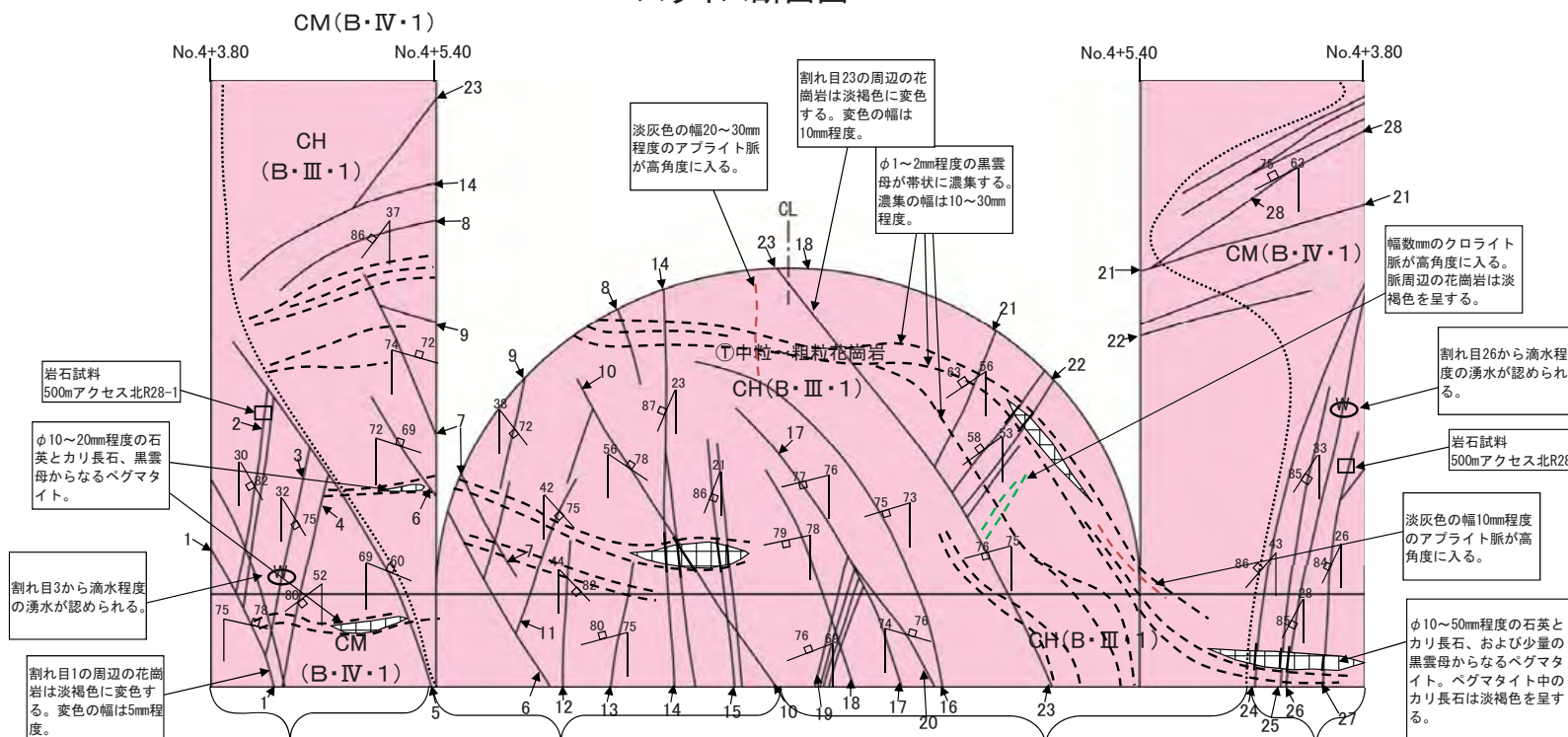
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

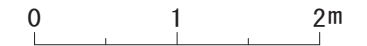
凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	ペグマタイト	アプライト脈	クロライト脈
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------	--------	--------



スライス断面図



可視画像



スケッチ

NW走向高角度北傾斜の割れ目が30~50cm程度の間隔で認められ、この割れ目間で止まるNW走向高角度西傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度南傾斜の割れ目4が認められる。割れ目介在物はカルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目1,5周辺の花崗岩は淡褐色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度北傾斜の割れ目が30~100cm程度の間隔で、NW走向高角度西傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で、NE走向高角度北傾斜の割れ目が20~25cm程度の間隔で認められる。割れ目介在物はカルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

ENE走向高角度南傾斜の割れ目が20~40cm程度の間隔で認められる。他に、ENE走向高角度北傾斜の割れ目19, 21, 22が認められる。割れ目にはクロライトとカルサイトを介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向高角度東傾斜の割れ目が6~20cm程度の間隔で、NE走向高角度西傾斜の割れ目が20~30cmの間隔で認められる。割れ目にはクロライトとカルサイト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CM/CH G.L. -498m~-498.7m CM/CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 63 G.L. -498m~-498.7m 69
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R28-1 (花崗岩), 500mアクセス北R28-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN8°E方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。所々にφ10~50mm程度の大きさのカリ長石、石英、黒雲母からなるペグマタイトが認められる。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の周辺では橙色～淡褐色の変色が認められる。割れ目の走向傾斜は、割れ目5付近から西側は、NW走向高角度北傾斜とNW走向高角度西傾斜が主体で、他にNE走向高角度南傾斜が認められる。割れ目5付近から割れ目10付近までは、NW走向高角度北傾斜とNW走向高角度西傾斜、NE走向高角度北傾斜が認められる。割れ目10付近から割れ目24付近までは、ENE走向高角度南傾斜が主体で、他にENE走向高角度北傾斜が認められる。

割れ目24付近から東側の割れ目の走向傾斜は、NE走向高角度東傾斜とNE走向高角度西傾斜が主体である。割れ目の介在物は、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は割れ目3, 26から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目5付近から割れ目24付近までは、割れ目間隔が20~100cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目5付近から西側と割れ目24付近から東側は、割れ目間隔が6~50cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

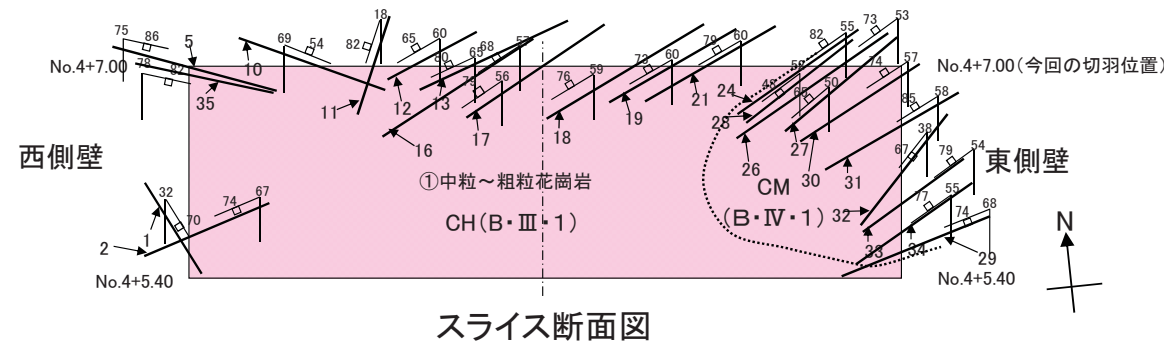
A5-請負-計測工(地質)-121013

シート番号	500mアクセス北坑道29	日時	2012/10/13 17:00~18:30	位置・深度	500mアクセス北坑道29 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

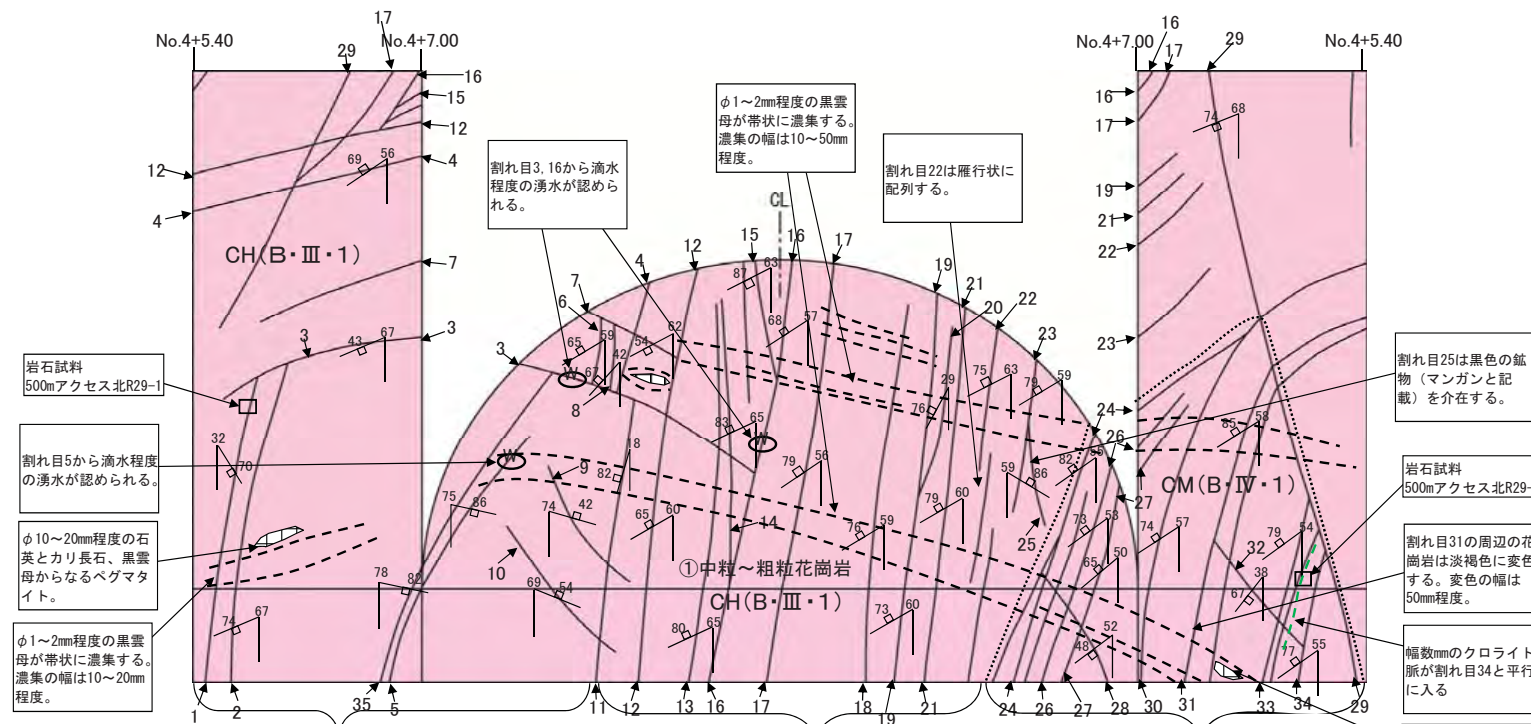
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

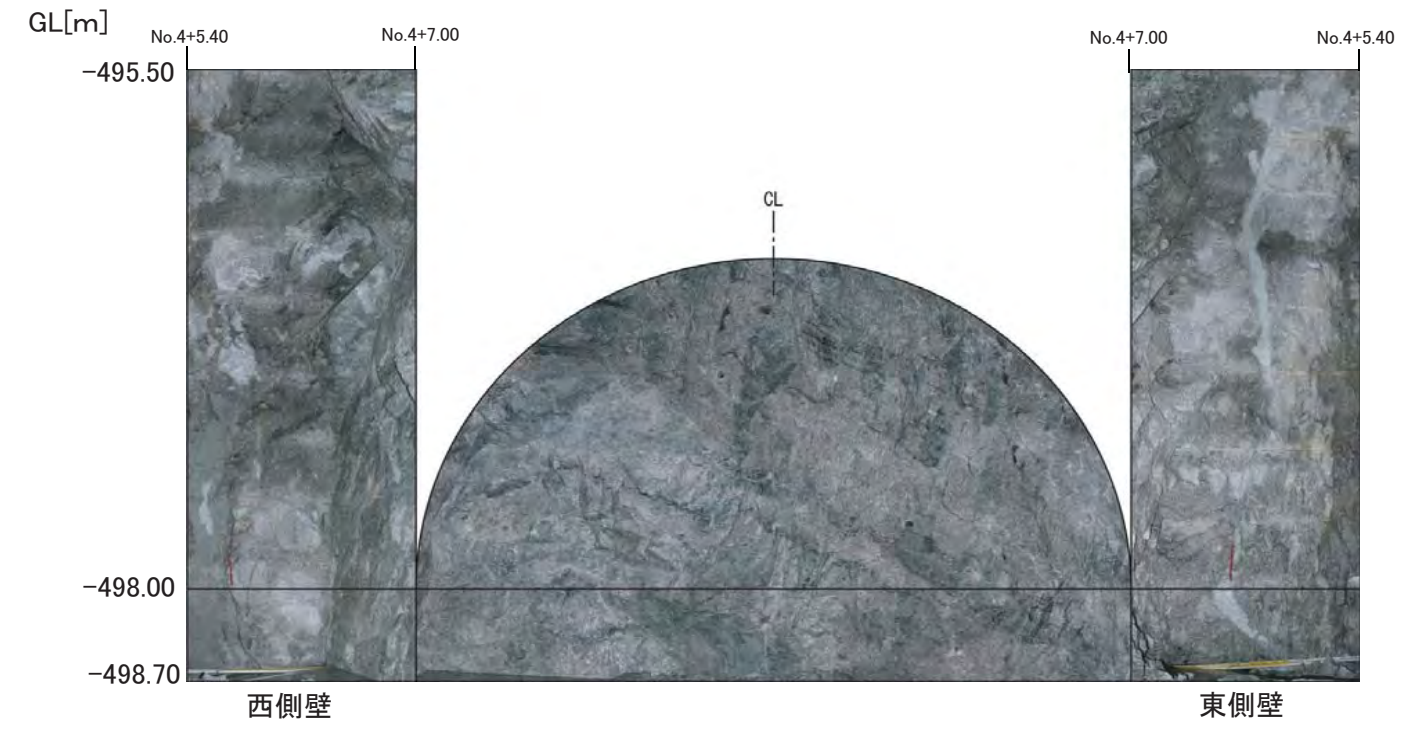
凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 ペグマタイト 黒雲母の濃集



スライス断面図



スケッチ



可視画像

NW走向高角度南傾斜の割れ目が20~50cm程度の間隔で、NE走向中角度南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向高角度西傾斜の割れ目1やNE走向高角度南傾斜の割れ目2、NE走向高角度北傾斜の割れ目4が認められる。割れ目介在物はカルサイト、クロライト、淡緑色の粘土が認められる。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

ENE走向高角度北傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、ENE走向高角度南傾斜の割れ目15、NE走向高角度西傾斜の割れ目20が認められる。割れ目は主にクロライトを介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE~ENE走向高角度北傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向中角度南傾斜の割れ目28、NE走向高角度東傾斜の割れ目32が認められる。割れ目にはクロライトとカルサイトを介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CM/CH G.L. -498m~-498.7m CM/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 63 G.L. -498m~-498.7m 64
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R29-1 (花崗岩), 500mアクセス北R29-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN6°E方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10~20mm程度の大きさのカリ長石、石英、黒雲母からなるペグマタイトが認められる。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目31の周辺では淡褐色の変色が認められる。割れ目の走向傾斜は、割れ目11付近から西側は、NW走向高角度南傾斜と、NE走向中角度南傾斜が主体で、他にNW走向高角度西傾斜やNE走向高角度南傾斜、NE走向高角度北傾斜が認められる。割れ目11付近から割れ目24付近までは、ENE走向高角度北傾斜が主体で、他にENE走向高角度南傾斜とNE走向高角度西傾斜が認められる。

割れ目24付近から東側の割れ目の走向傾斜は、NE~ENE走向高角度北傾斜が主体で、他にNE走向中角度南傾斜やNE走向高角度東傾斜が認められる。割れ目の介在物は、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、黒色の鉱物(マンガンと記載)が認められる。湧水は割れ目3, 5, 16から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目24付近から西側で割れ目29から南側の花崗岩は、割れ目間隔が20~50cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目24付近と割れ目29付近の花崗岩は、割れ目間隔が10~20cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

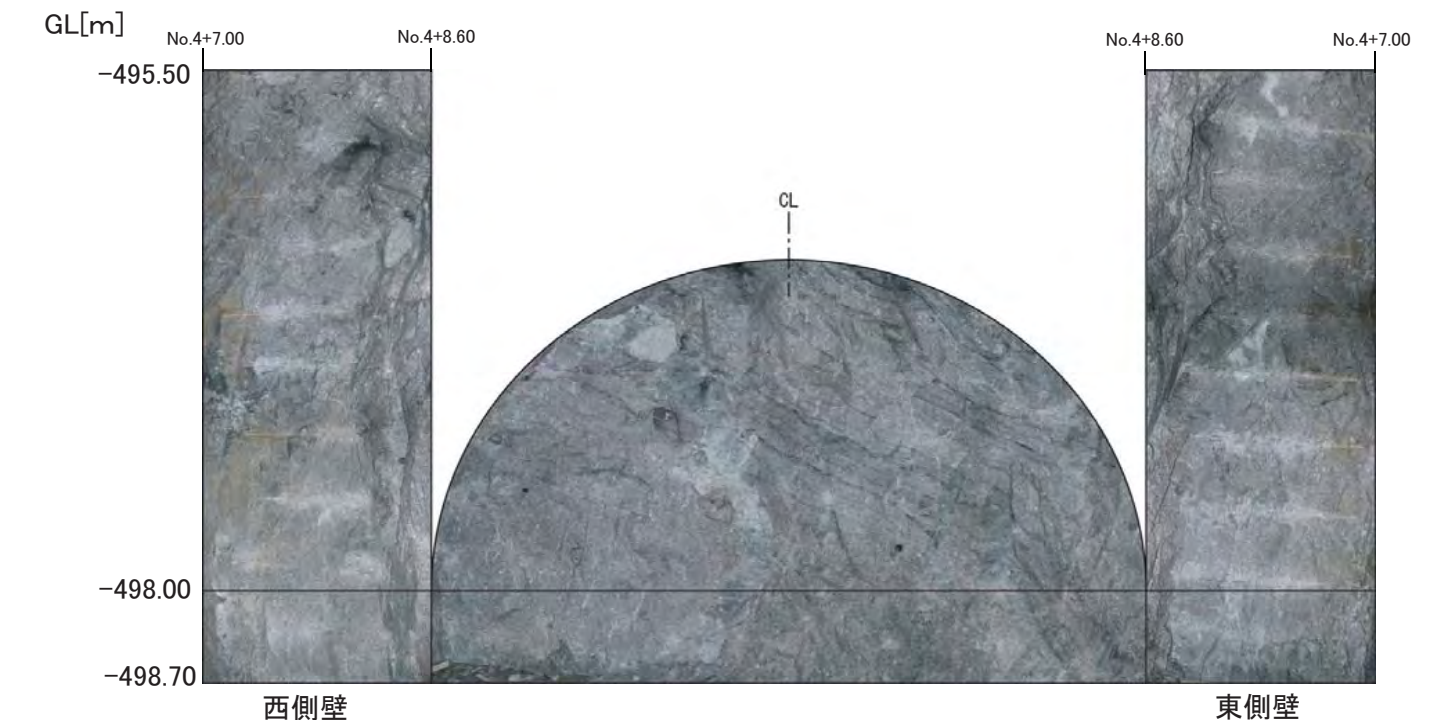
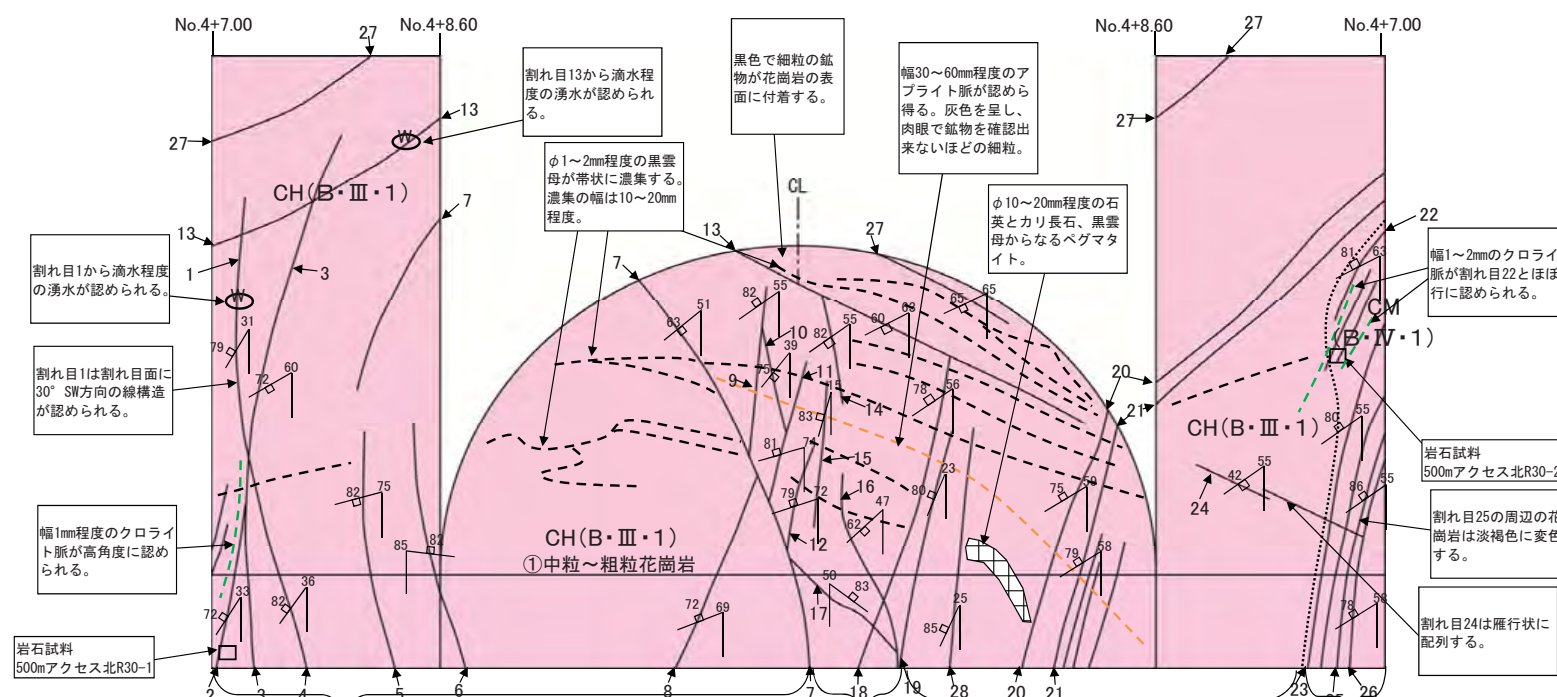
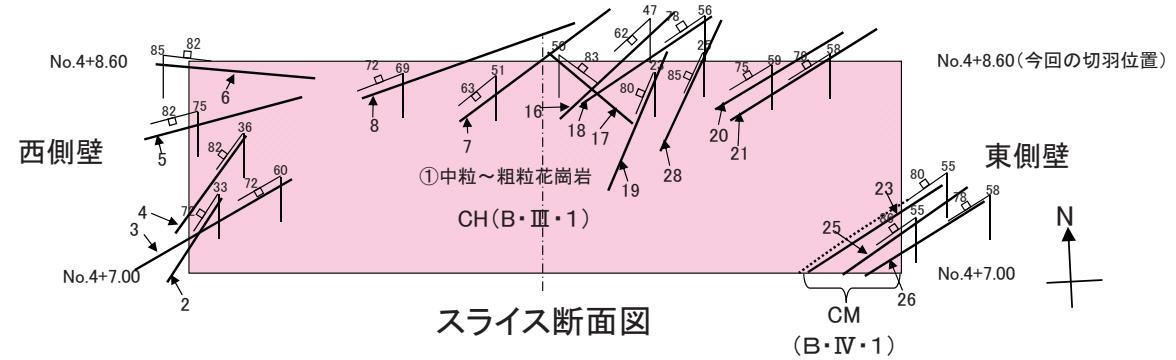
A5-請負-計測工(地質)-121016

シート番号	500mアクセス北坑道30	日時	2012/10/16 15:30~17:00	位置・深度	500mアクセス北坑道30 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	ペグマタイト	クロライト脈	アプライト脈
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------	--------	--------

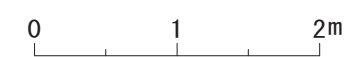


NE走向高角度西傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で、NE走向高角度南傾斜の割れ目が30~100cm程度の間隔で認められる。他に、WNW走向高角度北傾斜の割れ目6が認められる。割れ目介在物はカルサイト、クロライトが認められる。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向高角度北傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で、NE走向高角度南傾斜の割れ目が30~50cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向高角度北傾斜の割れ目17が認められる。割れ目は主にクロライトを介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向高角度北傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。割れ目にはクロライトを介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向高角度北傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向中角度南傾斜の割れ目24が認められる。割れ目にはクロライトとカルサイト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	CM/CH CM/CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	63 72
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R30-1 (花崗岩), 500mアクセス北R30-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN3° E方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。所々にφ10~20mm程度の大きさのカリ長石、石英、黒雲母からなるペグマタイトが認められる。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目31の周辺では淡褐色の変色が認められる。割れ目の走向傾斜は、NE走向高角度北傾斜が主体で、東側壁では6~10cm程度の間隔で、それ以外の切羽の大部分では20~30cm程度の間隔で認められる。他には、NE走向高角度南傾斜やWNW走向高角度北傾斜、NW走向高角度北傾斜の割れ目が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土が認められる。割れ目1は割れ目面に30° SW方向の線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。湧水は西側壁の割れ目1, 13から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目23付近から西側の花崗岩は、割れ目間隔が20~100cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。割れ目23付近から東側の花崗岩は、割れ目間隔が6~10cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・IV・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

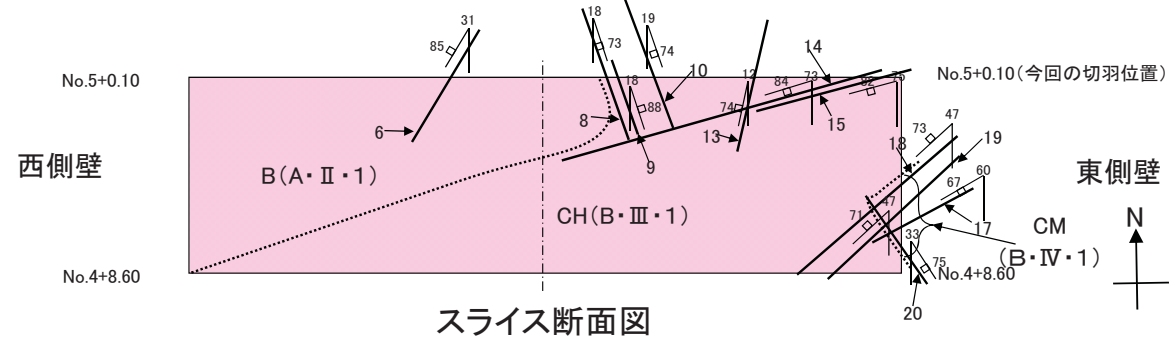
A5-請負-計測工(地質)-121018

シート番号	500mアクセス北坑道31	日時	2012/10/18 16:30~18:00	位置・深度	500mアクセス北坑道31 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

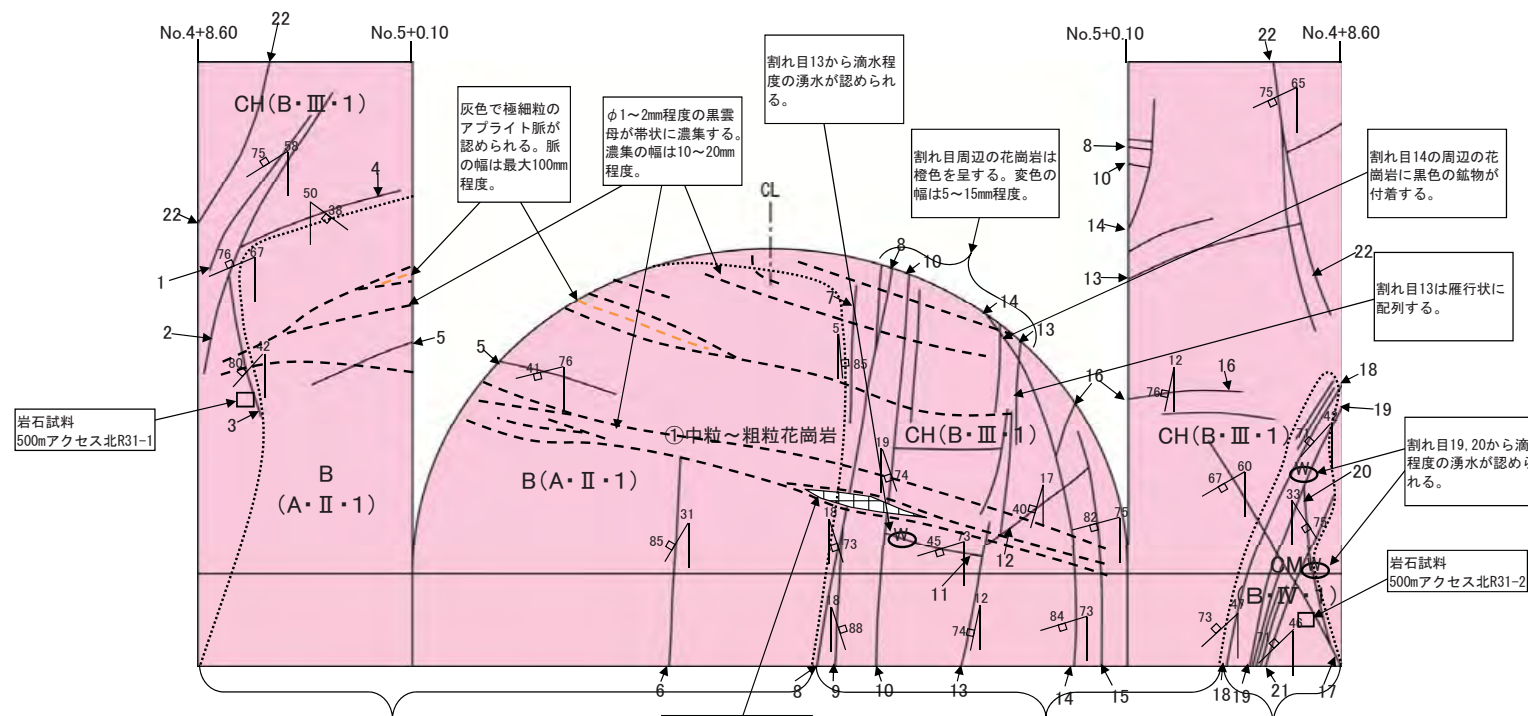
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

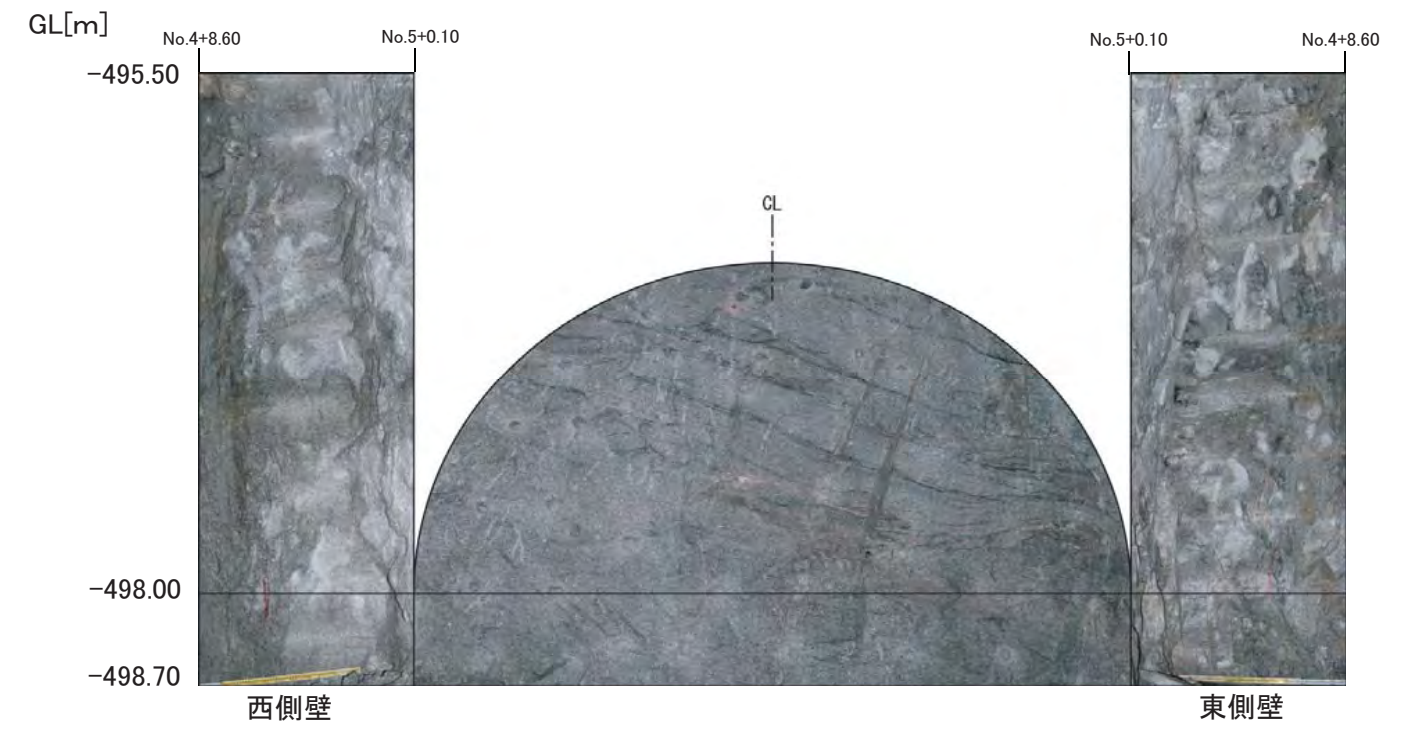
凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	ペグマタイト	アプライト脈
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------	--------



スライス断面図



スケッチ



可視画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	B/CM/CH B/CM/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	71 66
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R31-1 (花崗岩), 500mアクセス北R31-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN1°E方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10~20mm程度の大きさのカリ長石、石英、黒雲母からなるペグマタイトが認められる。
 花崗岩の変質の程度は弱く、割れ目18から西側は有色鉱物がほとんど残存し、割れ目18から東側では有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。
 割れ目の走向傾斜は、割れ目8から西側ではNE走向高角度西傾斜とNE走向中角度南傾斜、NW走向中角度南傾斜が認められる。割れ目8と割れ目18の間は、NE走向高角度南傾斜とNW走向高角度東傾斜と西傾斜が主体で、他にNE走向中角度南傾斜やNNE走向中角度西傾斜が認められる。割れ目18から東側ではNE走向高角度北傾斜が主体で、他にNW走向高角度西傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイト、クロライト、白色の粘土が認められる。湧水は鏡右側の割れ目11と、東側壁の割れ目19, 20から滴水程度で認められた。
 岩級区分は、割れ目8付近から西側の花崗岩は、割れ目間隔が60cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A-II-1)級と評価した。割れ目8付近から割れ目18付近までの花崗岩は、割れ目間隔が20~50cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B-III-1)級と評価した。割れ目18付近から東側の花崗岩は、割れ目間隔が10~15cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B-IV-1)級と評価した。

A工区地質記載シート

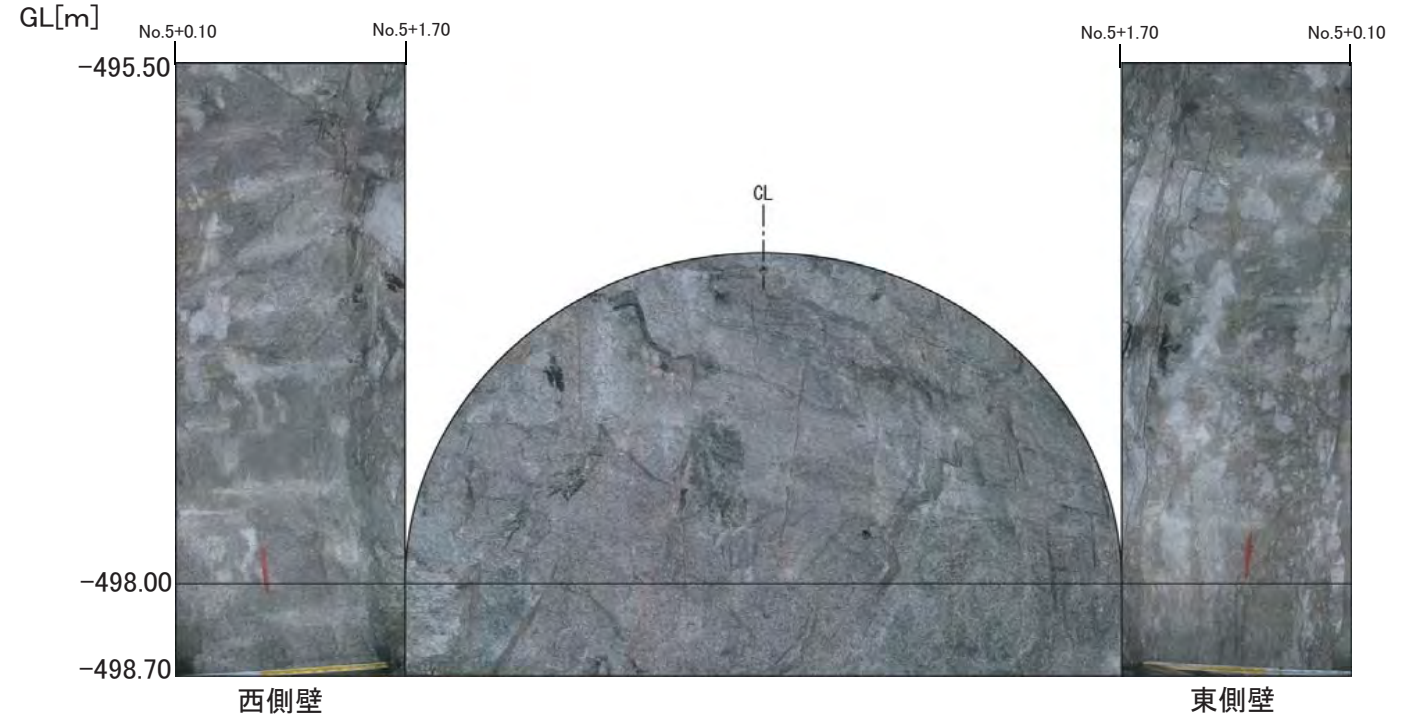
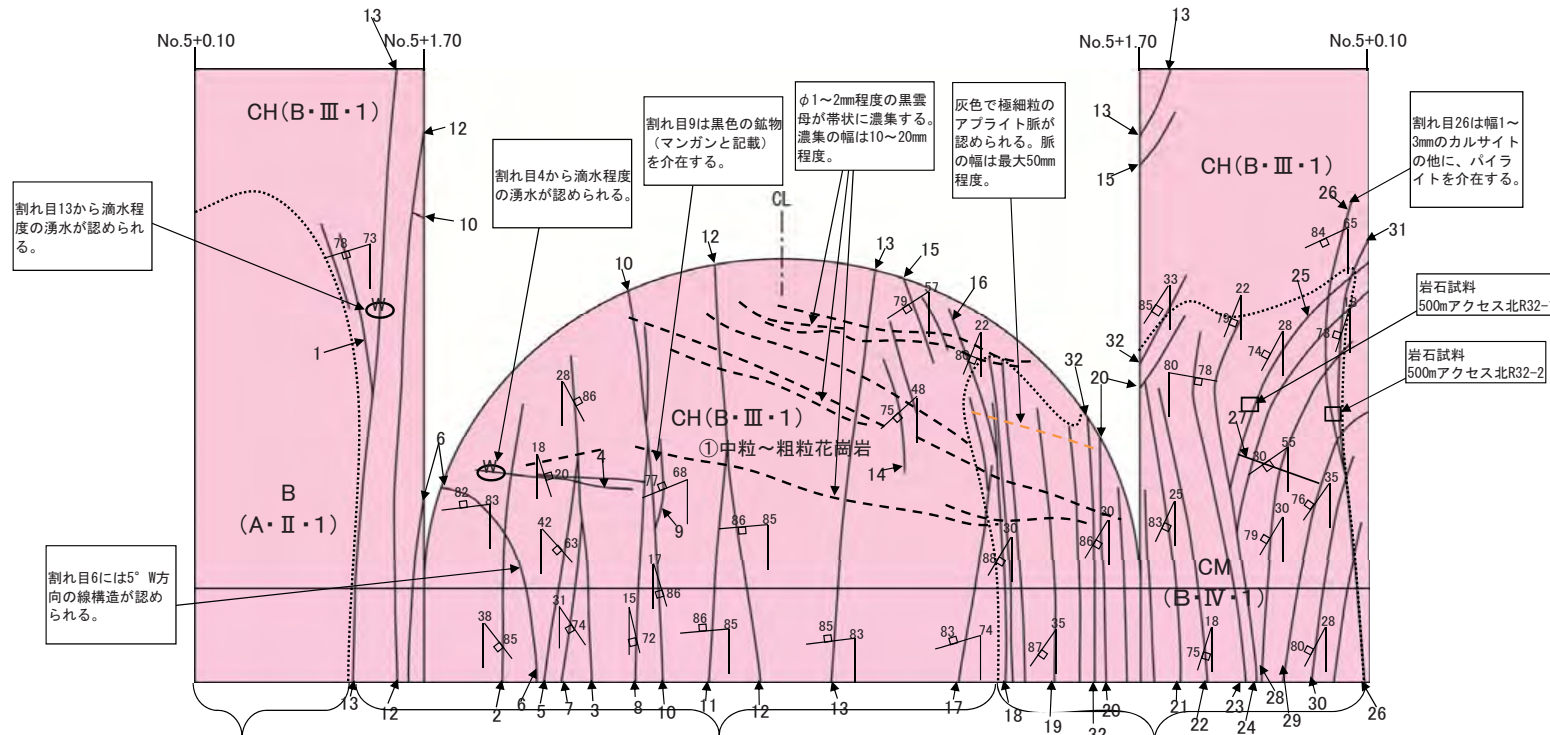
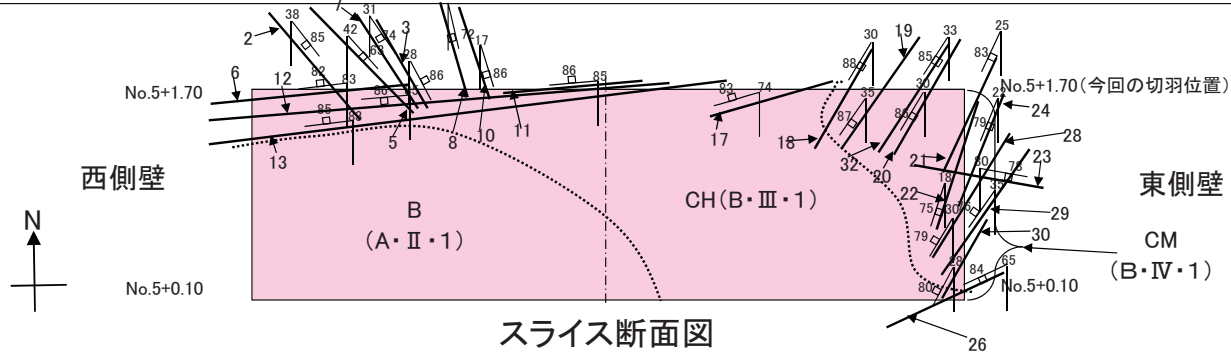
A5-請負-計測工(地質)-121020

シート番号	500mアクセス北坑道32	日時	2012/10/20 9:30~11:00	位置・深度	500mアクセス北坑道32 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 アブライト脈



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	B/CH/CM B/CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	68 69
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R32-1 (花崗岩), 500mアクセス北R32-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN1° W方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10~20mm程度の大きさのカリ長石が認められる。
 花崗岩の変質の程度は弱く、割れ目18から西側は有色鉱物がほとんど残存し、割れ目18から東側では有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈するが、割れ目の周辺では橙色に変色する箇所も認められる。
 割れ目の走向傾斜は、割れ目13から西側では割れ目はほとんど認められない。割れ目13と割れ目18の間は、NE走向高角度北傾斜と、NW走向高角度東傾斜と西傾斜が主体で、他にNW走向低角度東傾斜やENE走向高角度南傾斜、NE走向高角度南傾斜が認められる。

割れ目18から東側の割れ目の走向傾斜は、NE走向高角度東傾斜と西傾斜が主体で、他にWNW走向高角度南傾斜とNE走向低角度南傾斜が認められる。
 割れ目の介在物は、カルサイト、クロライト、白色の粘土が認められる。
 割れ目6は割れ目面に5° W方向の線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。
 湧水は西側壁の割れ目13と、鏡左側の割れ目4から滴水程度で認められた。
 岩級区分は、割れ目13付近から西側の花崗岩は、割れ目が認められず、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B (A・II・1) 級と評価した。割れ目13付近から東側の花崗岩は、割れ目間隔が20~40cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH (B・III・1) 級と評価した。割れ目18付近から東側の花崗岩は、割れ目間隔が6~10cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM (B・IV・1) 級と評価した。

A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-121022

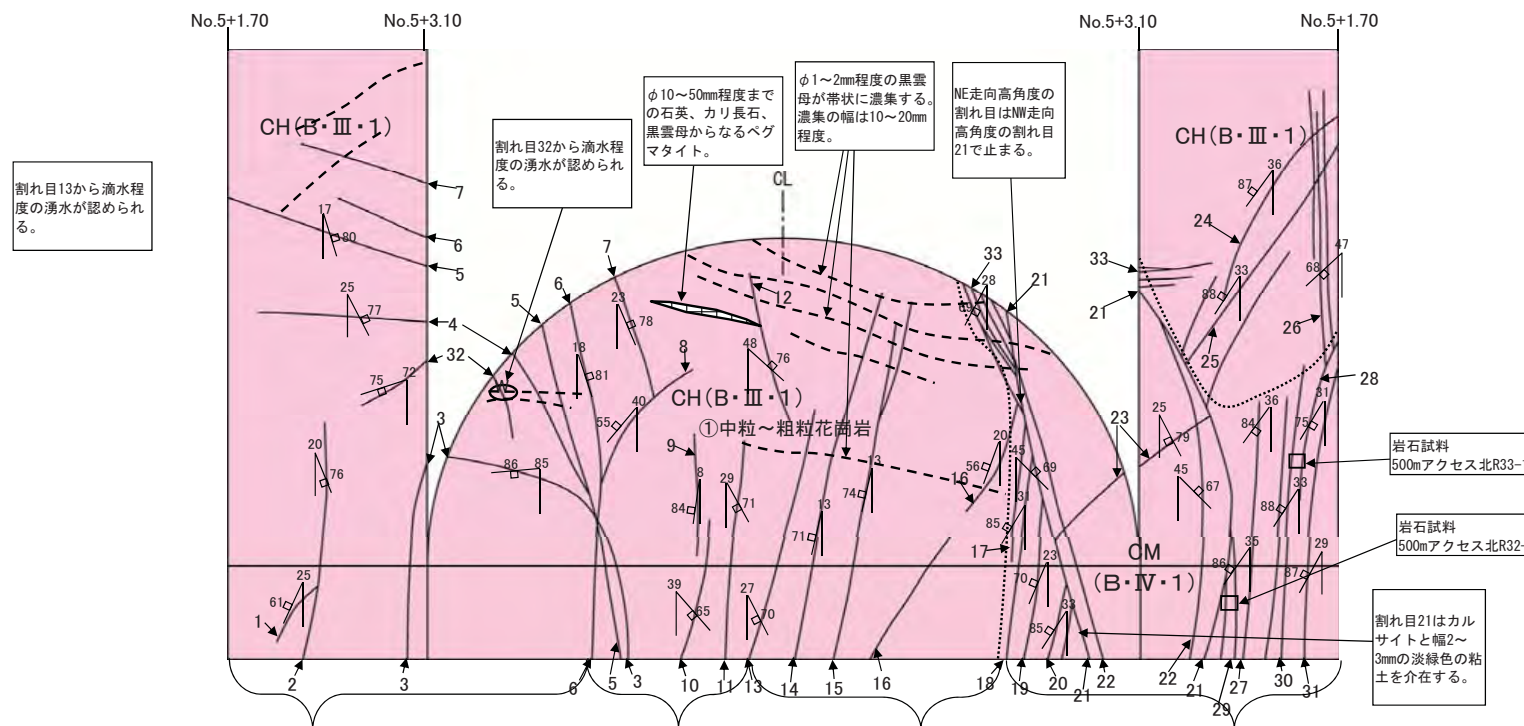
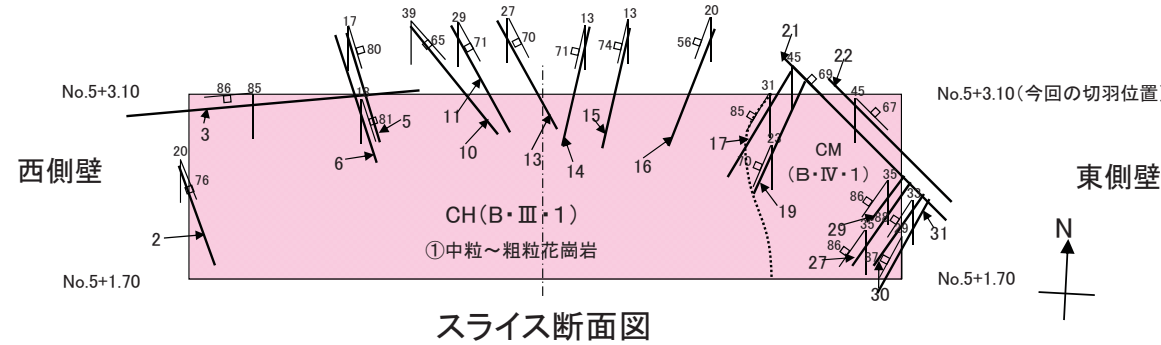
シート番号	500mアクセス北坑道33	日時	2012/10/22 16:00~17:30	位置・深度	500mアクセス北坑道33 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

	花崗岩		割れ目		割れ目の走向傾斜		岩級区分境界		湧水		黒雲母の濃集		ペグマタイト
--	-----	--	-----	--	----------	--	--------	--	----	--	--------	--	--------



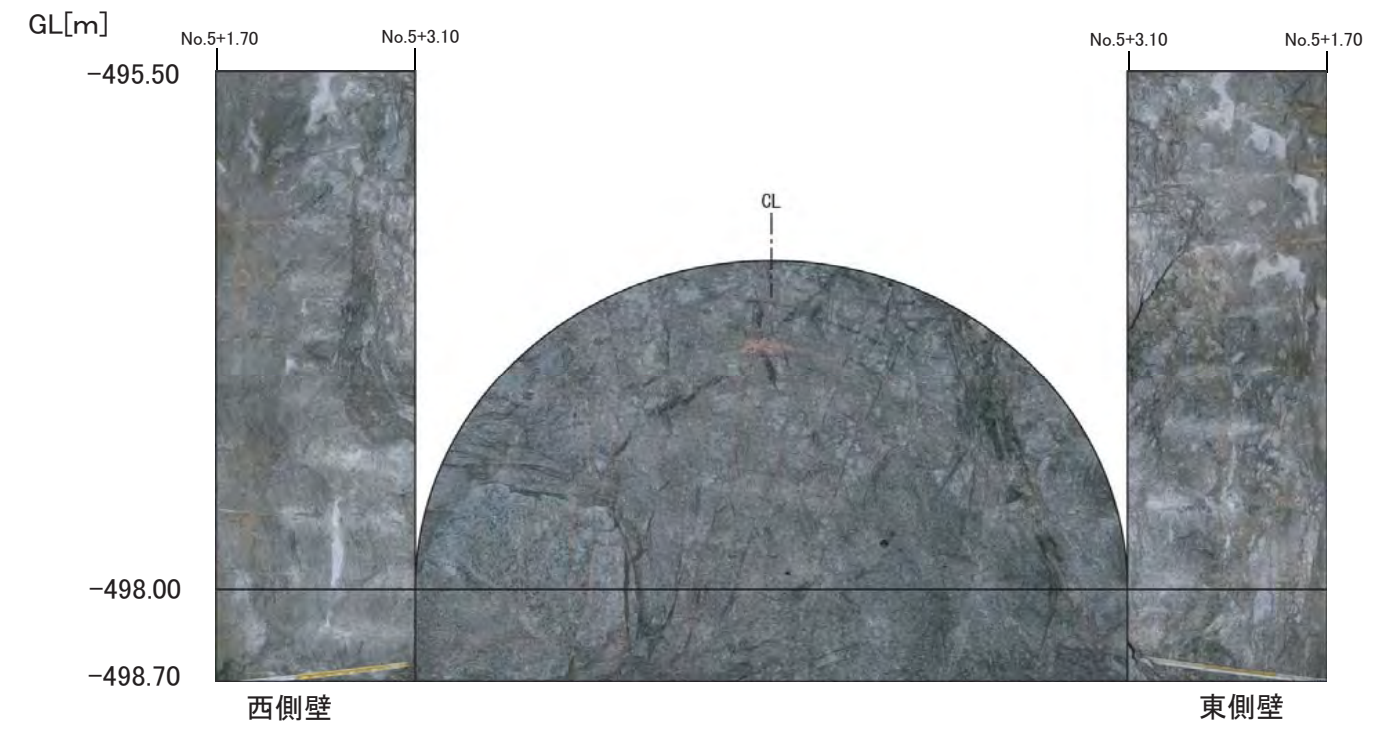
ENE走向高角度南傾斜とNE走向高角度西傾斜およびNW走向高角度西傾斜の割れ目が60cm以上の間隔で認められる。ENE走向の割れ目はクロライトを介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、ほとんどの有色鉱物が残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度東傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度西傾斜の割れ目8、NNE走向高角度西傾斜の割れ目9、NW走向高角度西傾斜の割れ目10、11、NE走向高角度南傾斜の割れ目32が認められる。割れ目はカルサイトとクロライトを介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、ほとんどの有色鉱物が残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈するが、割れ目の周辺の花崗岩には橙色を呈する箇所が認められる。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NNE走向高角度西傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向高角度西傾斜の割れ目13が認められる。割れ目にはカルサイトを介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、ほとんどの有色鉱物が残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈するが、割れ目の周辺の花崗岩は橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度北傾斜の割れ目が2条認められる。この割れ目で止まるNE走向高角度西傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度東傾斜の割れ目28、33が認められる。割れ目にはクロライトとカルサイトを介在する。白色や淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度である。花崗岩は全体に淡桃色を呈するが、割れ目の周辺の花崗岩には橙色を呈する箇所が認められる。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

スケッチ



可視画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m 63 G.L. -498m~-498.7m 69
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R33-1 (花崗岩), 500mアクセス北R33-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN1°W方向である。横坑観察は切羽から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。鏡中央付近にφ10~50mm程度の大きさの石英、カリ長石、黒雲母からなるペグマタイトが認められる。花崗岩の変質の程度は弱く、割れ目18付近から西側は有色鉱物がほとんど残存し、割れ目18付近から東側では有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の周辺では橙色に変色する箇所が認められる。割れ目の走向傾斜は、割れ目6付近から西側では、ENE走向高角度南傾斜とNE走向高角度西傾斜、およびNW走向高角度西傾斜が認められる。割れ目6付近から割れ目13付近の間は、NW走向高角度東傾斜を主体として、他にNE走向高角度西傾斜、NNE走向高角度西傾斜、NW走向高角度西傾斜、NE走向高角度南傾斜が認められる。

割れ目13付近から割れ目18付近まで割れ目の走向傾斜は、NNE走向高角度西傾斜が主体で、他にNW走向高角度西傾斜が認められる。割れ目18付近から東側は、NW走向高角度北傾斜とNE走向高角度西傾斜が主体で、他にNE走向高角度東傾斜が認められる。割れ目の介在物は、カルサイト、クロライト、淡緑色や白色の粘土が認められる。湧水は鏡左側の割れ目32から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目18付近から西側の花崗岩は、割れ目間隔が20~60cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目18付近から東側の花崗岩は、割れ目間隔が6~10cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

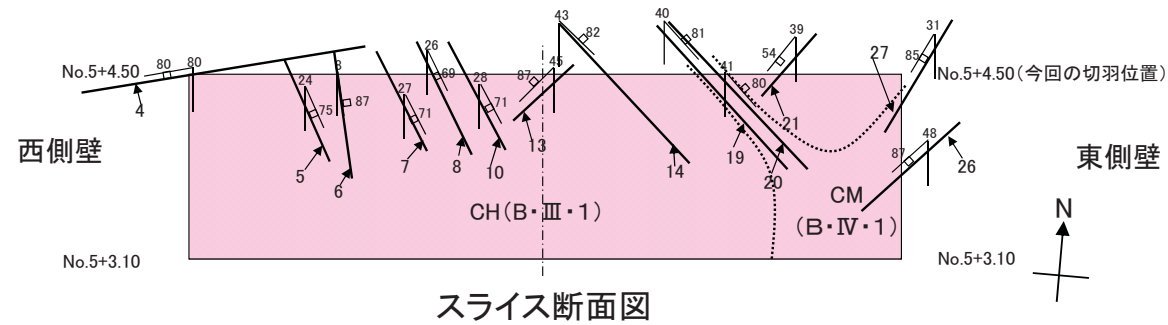
A5-請負-計測工(地質)-121024

シート番号	500mアクセス北坑道34	日時	2012/10/24 9:00~10:30	位置・深度	500mアクセス北坑道34 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

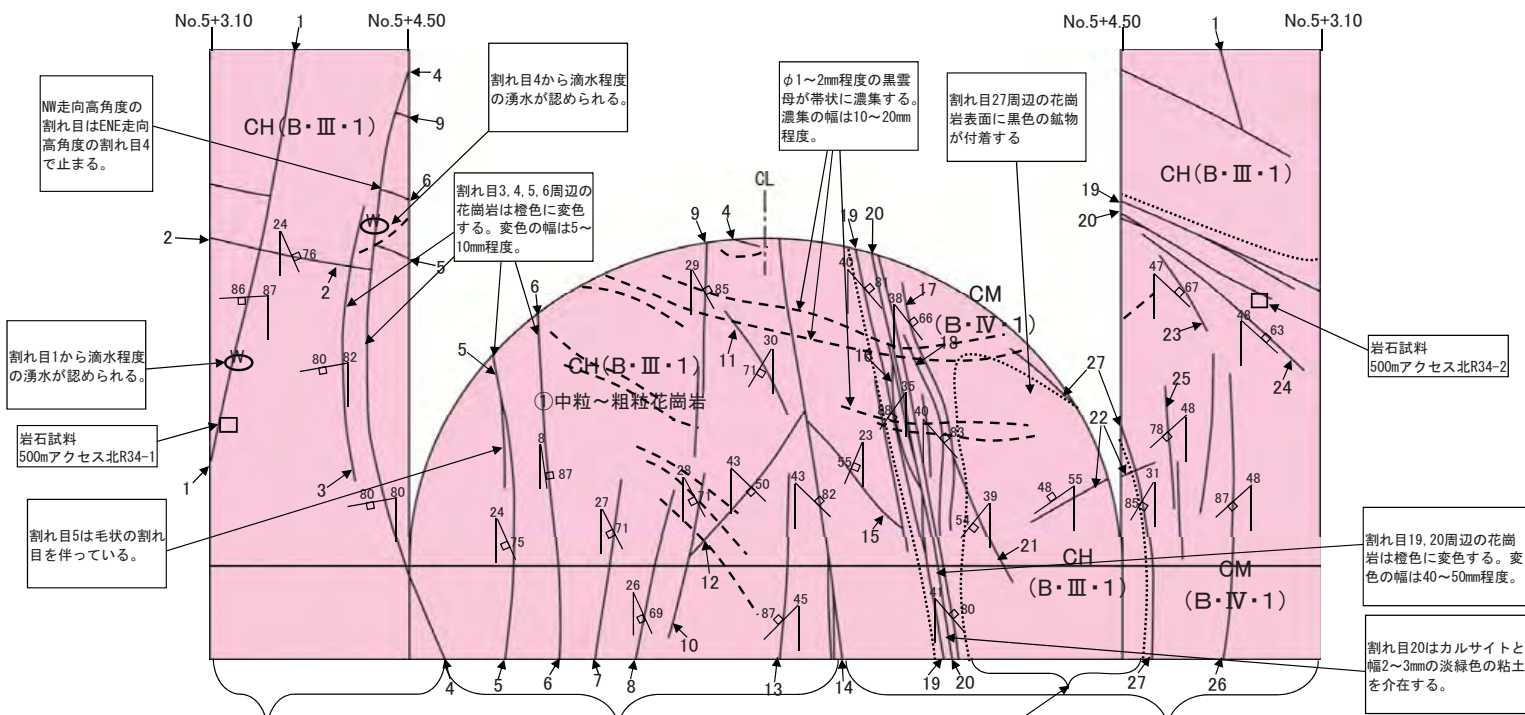
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

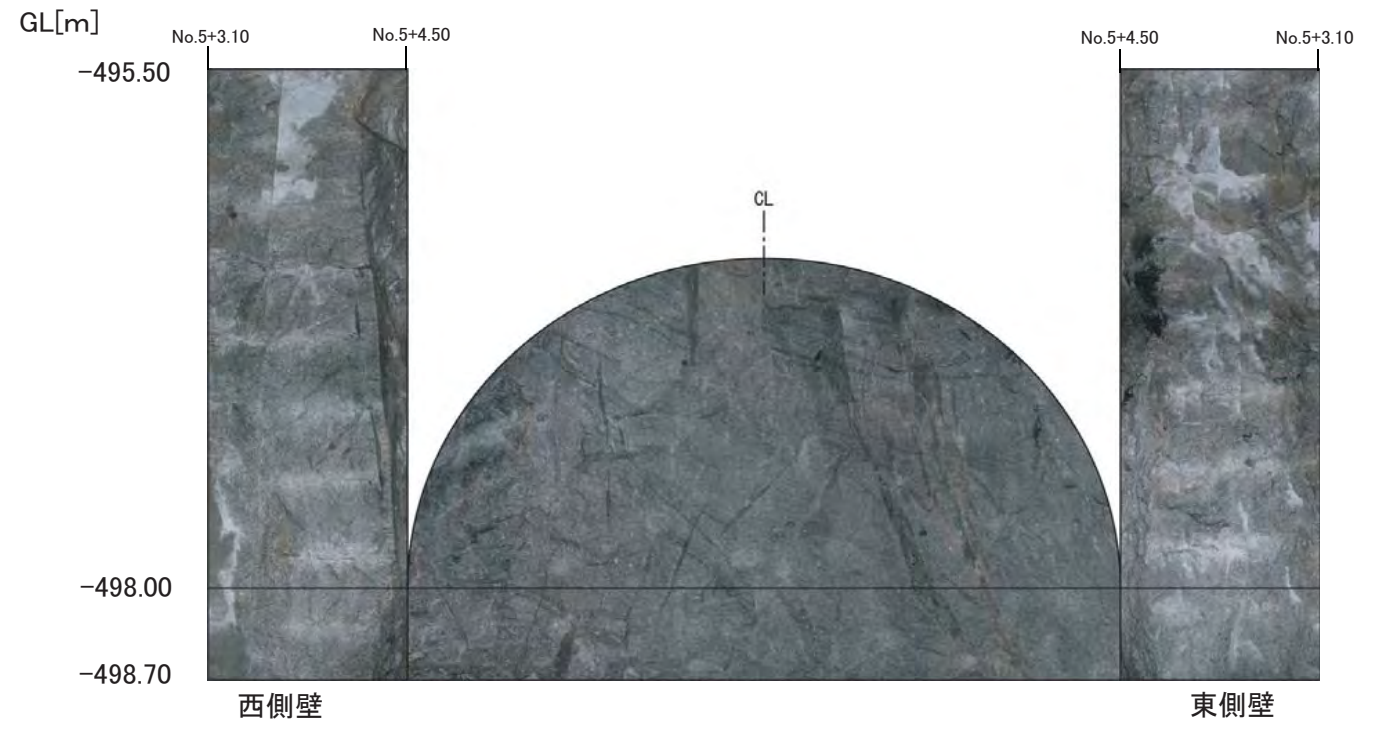
凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集
----	-----	-----	----------	--------	----	--------



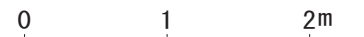
スライス断面図



スケッチ



可視画像



ENE走向高角度南傾斜とNW走向高角度西傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度東傾斜の割れ目11、NW走向高角度南傾斜の割れ目12、NE走向高角度西傾斜の割れ目13が認められる。割れ目にはカルサイトとクロライト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、ほとんどの有色鉱物が残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈するが、割れ目の周辺の花崗岩には橙色を呈する箇所が認められる。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度東傾斜の割れ目11、NW走向高角度南傾斜の割れ目12、NE走向高角度西傾斜の割れ目13が認められる。割れ目にはカルサイトとクロライト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、ほとんどの有色鉱物が残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈するが、割れ目の周辺の花崗岩には橙色を呈する箇所が認められる。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向中角度東傾斜の割れ目21、NE走向中角度北傾斜の割れ目22が認められる。割れ目にはクロライトと淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、ほとんどの有色鉱物が残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈するが、割れ目の周辺の花崗岩は橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度北傾斜の割れ目が6~30cm程度の間隔で、NE走向高角度東傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向中角度東傾斜の割れ目15が認められる。割れ目にはカルサイト、白色や淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度である。花崗岩は全体に淡桃色を呈するが、割れ目の周辺の花崗岩には橙色を呈する箇所が認められる。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	CH/CM CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	63 69
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R34-1 (花崗岩), 500mアクセス北R34-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN3°W方向である。横坑観察は切羽から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。φ10~15mm程度の大きさの長石が所々に認められる。花崗岩の変質の程度は弱く、割れ目14付近から西側と割れ目21付近から割れ目27付近の間は、有色鉱物がほとんど残存している。また、割れ目14付近から東側では、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の周辺では橙色に変色する箇所が認められる。割れ目の走向傾斜は、割れ目4付近から西側ではENE走向高角度南傾斜とNW走向高角度西傾斜が認められる。割れ目4付近から割れ目14付近までは、NW走向高角度東傾斜と西傾斜が主体で、他にNE走向高角度東傾斜、NW走向中角度南傾斜、NE走向高角度西傾斜が認められる。

割れ目14付近から割れ目21付近までと、割れ目27付近から東側の割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度北傾斜とNE走向高角度東傾斜が主体で、他にNE走向中角度東傾斜が認められる。割れ目21付近と割れ目27付近の間は、NE走向中角度東傾斜とNE走向中角度北傾斜が認められる。割れ目の介在物は、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は西側壁の割れ目1.4から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目19付近から西側と割れ目21付近と割れ目27付近の間の花崗岩は、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目19付近から割れ目21付近までの間と、割れ目27付近から東側の花崗岩は、割れ目間隔が6~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

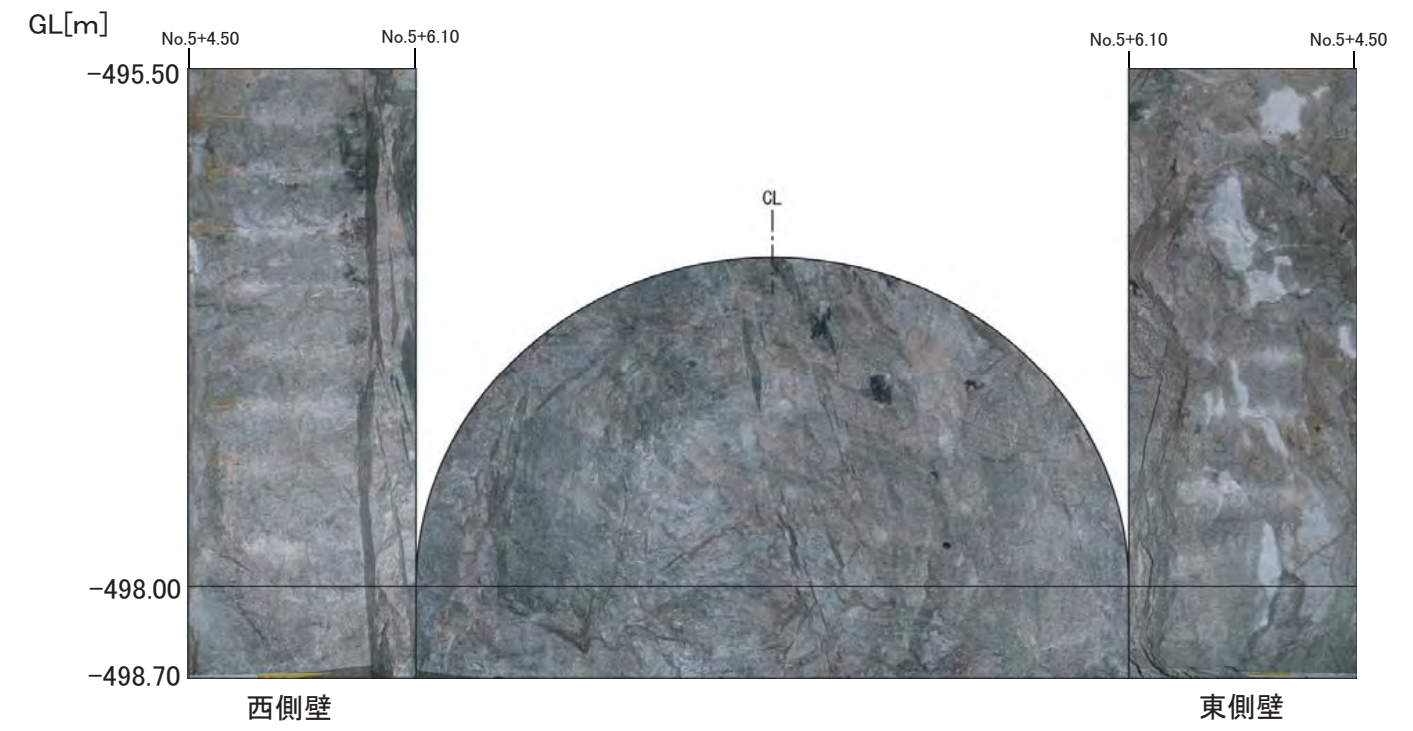
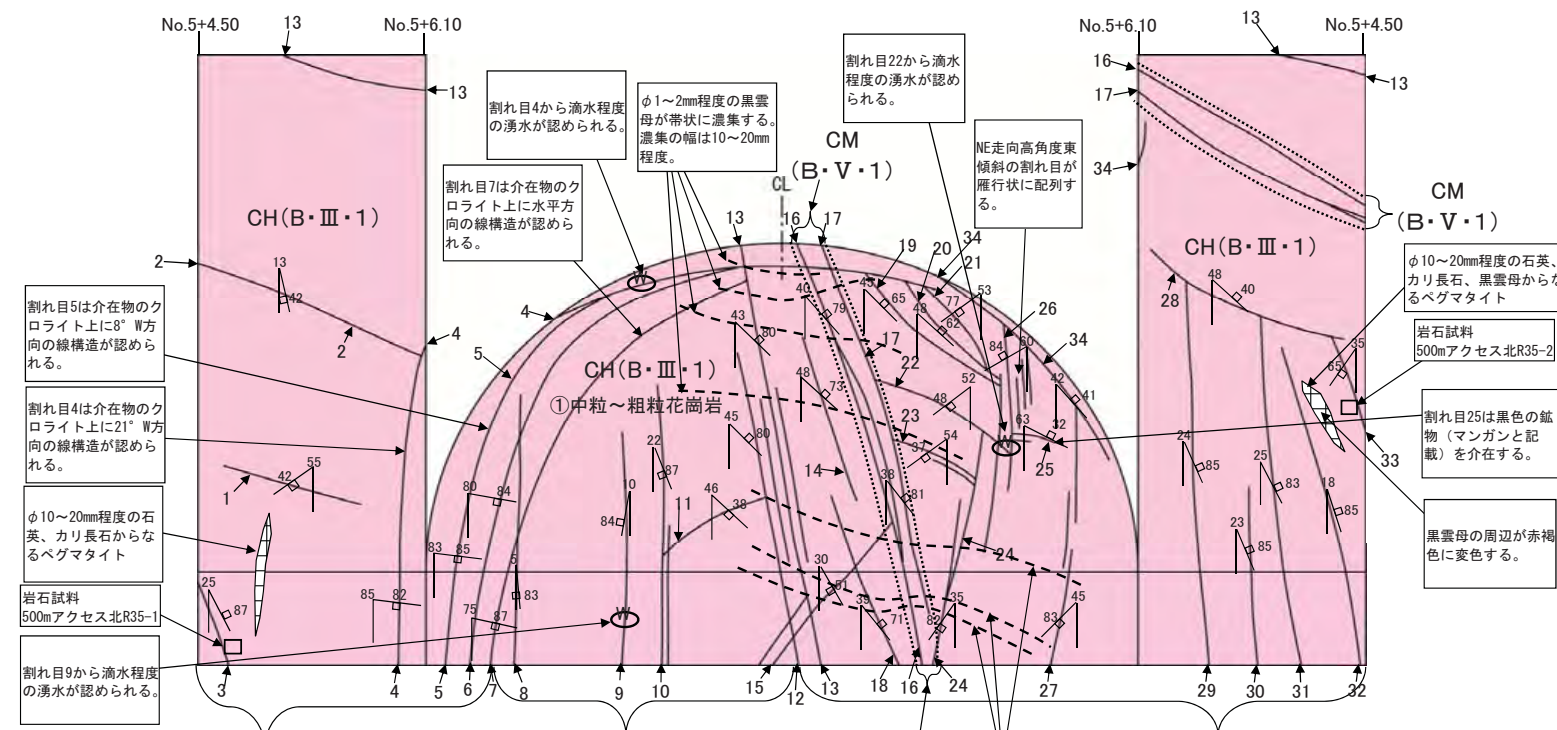
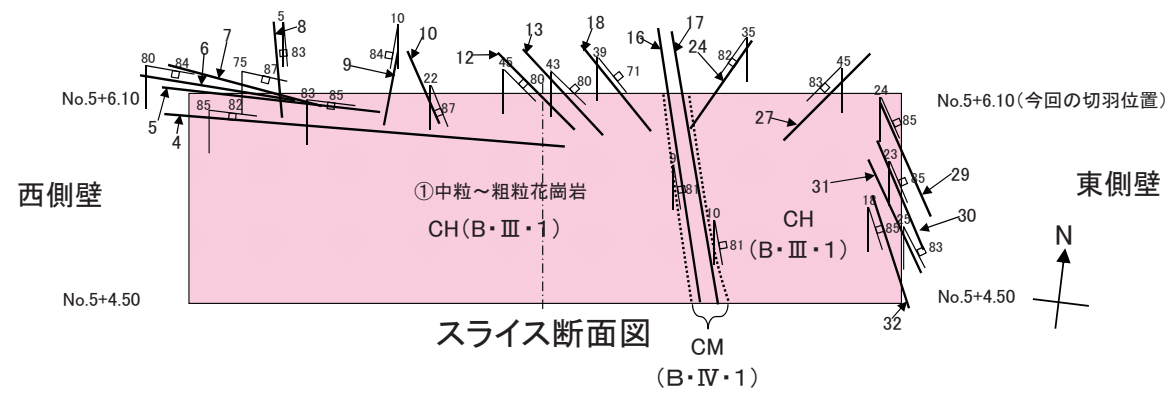
A5-請負-計測工(地質)-121025

シート番号	500mアクセス北坑道35	日時	2012/10/25 11:00~12:30	位置・深度	500mアクセス北坑道35 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	ベグマタイト
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------



ENE~WNW走向高角度南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度北傾斜の割れ目1やNW走向高角度西傾斜の割れ目2、NW走向高角度東傾斜の割れ目3が認められる。割れ目はカルサイト、クロライト、淡緑色の粘土を介在する。ENE~WNW走向の割れ目は主にクロライトを介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、ほとんどの有色鉱物が残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NNW~NNE走向高角度西傾斜の割れ目が20~50cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向中角度南傾斜の割れ目11が認められる。割れ目はカルサイトと淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、ほとんどの有色鉱物が残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

割れ目16と割れ目17の間は、割れ目間隔が3~5cm程度。花崗岩は橙色を呈する。

φ1~2mm程度の黒雲母が帯状に濃集する。濃集の幅は10~20mm程度。

NW走向高角度北傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で、NE走向高角度東傾斜の割れ目が30~50cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向中角度東傾斜の割れ目22、23やNW走向高角度北傾斜の割れ目15、28、NW走向高角度南傾斜の割れ目33が認められる。割れ目にはカルサイト、白色や淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度である。花崗岩は全体に淡桃色~橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	CH/CM CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	63 63
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R35-1 (花崗岩), 500mアクセス北R35-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN7°W方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10~20mm程度の大きさ石英、カリ長石、黒雲母からなるベグマタイトが認められる。花崗岩の変質の程度は弱く、割れ目12付近から西側は有色鉱物がほとんど残存している。また、割れ目12付近から東側では、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色~橙色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目7付近から南西側ではENE~WNW走向高角度南傾斜が主体で、他にNE走向高角度北傾斜やNW走向高角度西傾斜、NW走向高角度東傾斜が認められる。割れ目7付近から割れ目12付近の間は、NNW~NNE走向高角度西傾斜が主体で、他にNW走向中角度南傾斜が認められる。

割れ目12付近から東側の割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度北傾斜とNE走向高角度東傾斜が主体で、他にNE走向中角度東傾斜やNW走向高角度北傾斜、NW走向高角度南傾斜が認められる。割れ目4、5、7は割れ目介在物のクロライト上に線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。割れ目の介在物は、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、黒色の鉱物(マンガンと記載)が認められる。湧水は鏡中央付近の割れ目4、9から滴水程度で認められた。岩級区分は、切羽の割れ目16と割れ目17の間を除き、割れ目間隔が20~50cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。割れ目16と割れ目17の間は、割れ目間隔が3~5cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・V・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

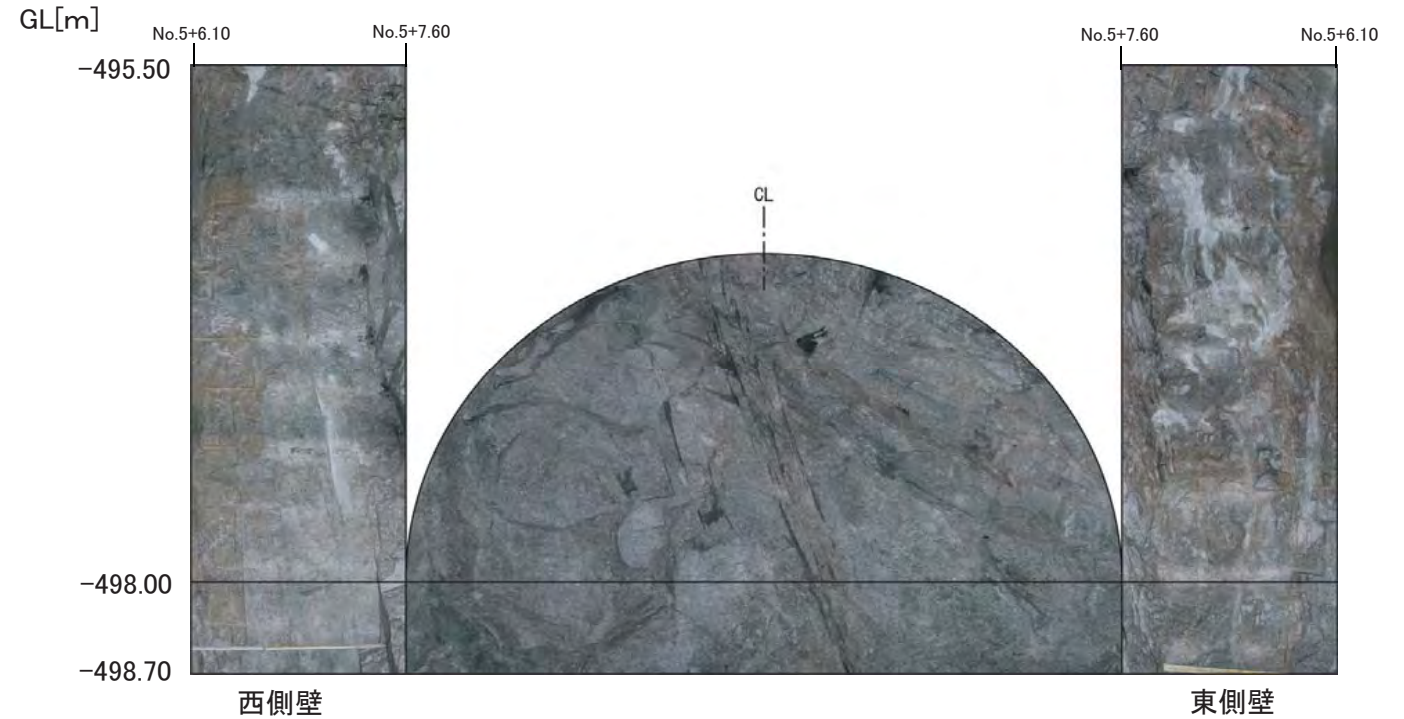
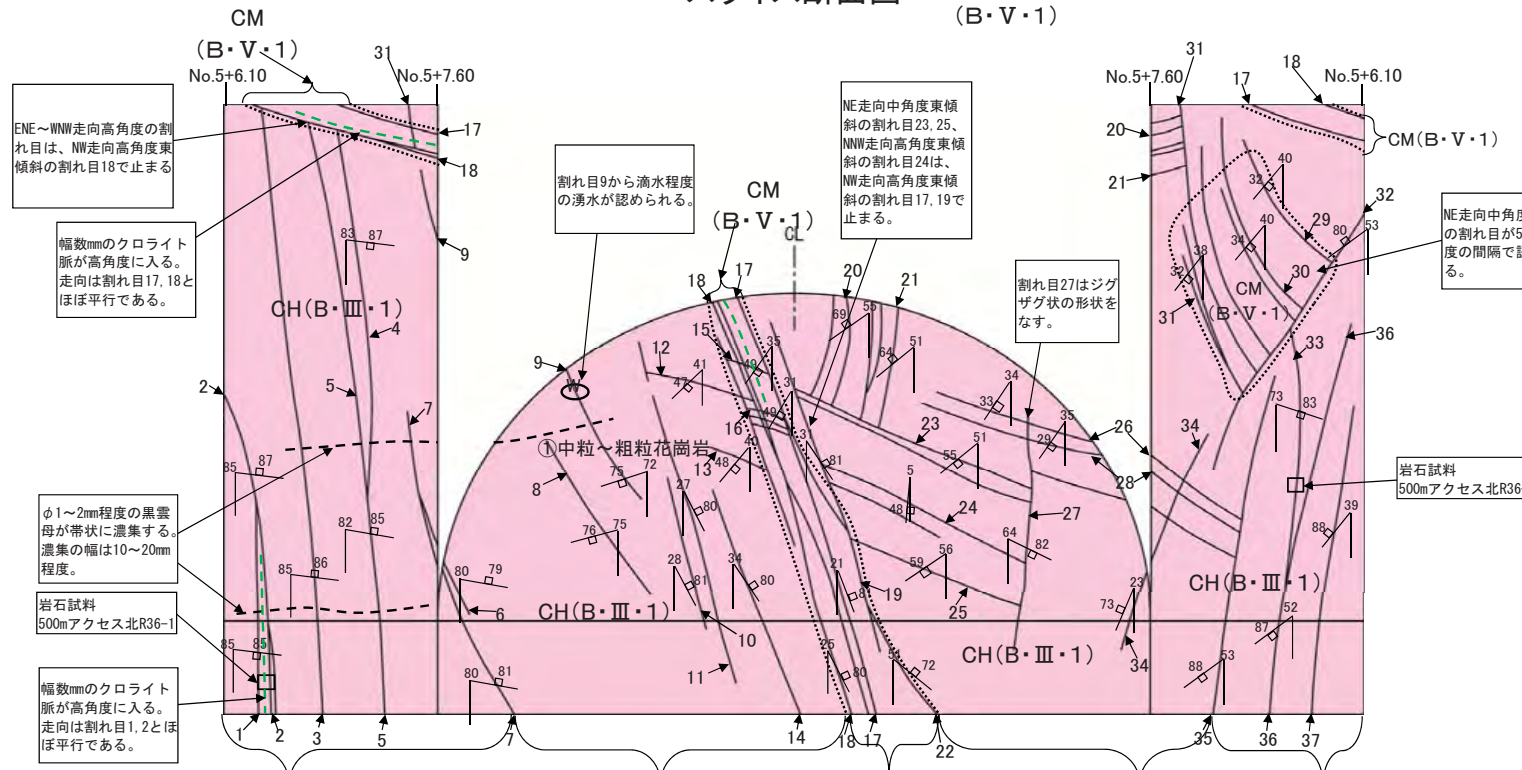
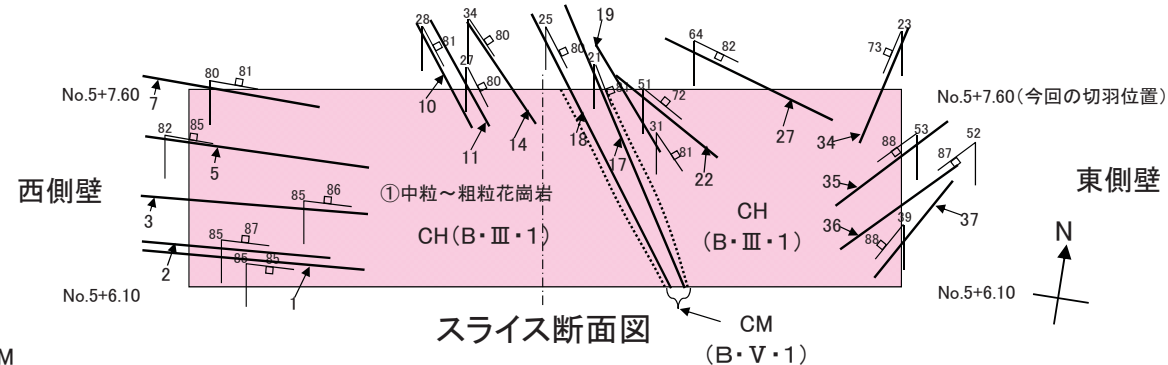
A5-請負-計測工(地質)-121029

シート番号	500mアクセス北坑道36	日時	2012/10/29 17:00~18:30	位置・深度	500mアクセス北坑道36 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 クロライト脈



ENE~WNW走向高角度南傾斜と北傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。割れ目はカルサイト、クロライト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、ほとんどの有色鉱物が残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈するが、割れ目周辺の花崗岩は橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向高角度南傾斜の割れ目が20~40cm程度の間隔で認められる。割れ目はカルサイトとクロライトと淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、ほとんどの有色鉱物が残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度東傾斜の割れ目が3~5cm程度の間隔で認められる。花崗岩は橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向中角度東傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NNW走向高角度東傾斜の割れ目24やNW走向高角度南傾斜の割れ目27が認められる。割れ目にはカルサイト、クロライトを介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度である。花崗岩は全体に淡桃色~橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向高角度東傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NNW走向高角度南傾斜の割れ目33が認められる。割れ目にはカルサイトと淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度である。花崗岩は全体に淡桃色~橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	CH/CM CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	63 69
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R36-1 (花崗岩), 500mアクセス北R36-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度の大きさのカリ長石が認められる。花崗岩の変質の程度は弱く、割れ目18付近から西側は有色鉱物がほとんど残存している。また、割れ目18付近から東側では、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色~橙色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目7付近から南西側では、ENE~WNW走向高角度南傾斜と北傾斜の割れ目が認められる。割れ目7付近から割れ目18付近の間は、NE走向高角度南傾斜のとNW走向高角度東傾斜が認められる。割れ目18付近から割れ目22付近の間は、NW走向高角度東傾斜が認められる。割れ目22付近と割れ目35付近の間は、NE走向中角度東傾斜が主体で、他にNNW走向高角度東傾斜やNW走向高角度南傾斜が認められる。

割れ目35付近から東側の割れ目の走向傾斜は、NE走向高角度東傾斜が主体で、他にNNW走向高角度南傾斜が認められる。割れ目の介在物は、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は鏡左肩付近の割れ目9から滴水程度で認められた。岩級区分は、切羽の割れ目18と割れ目19、22の間と東側壁上部を除き、割れ目間隔が20~40cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目18と割れ目19、22の間と東側壁上部は、割れ目間隔が3~15cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CM(B・V・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

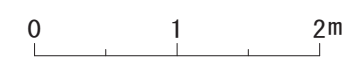
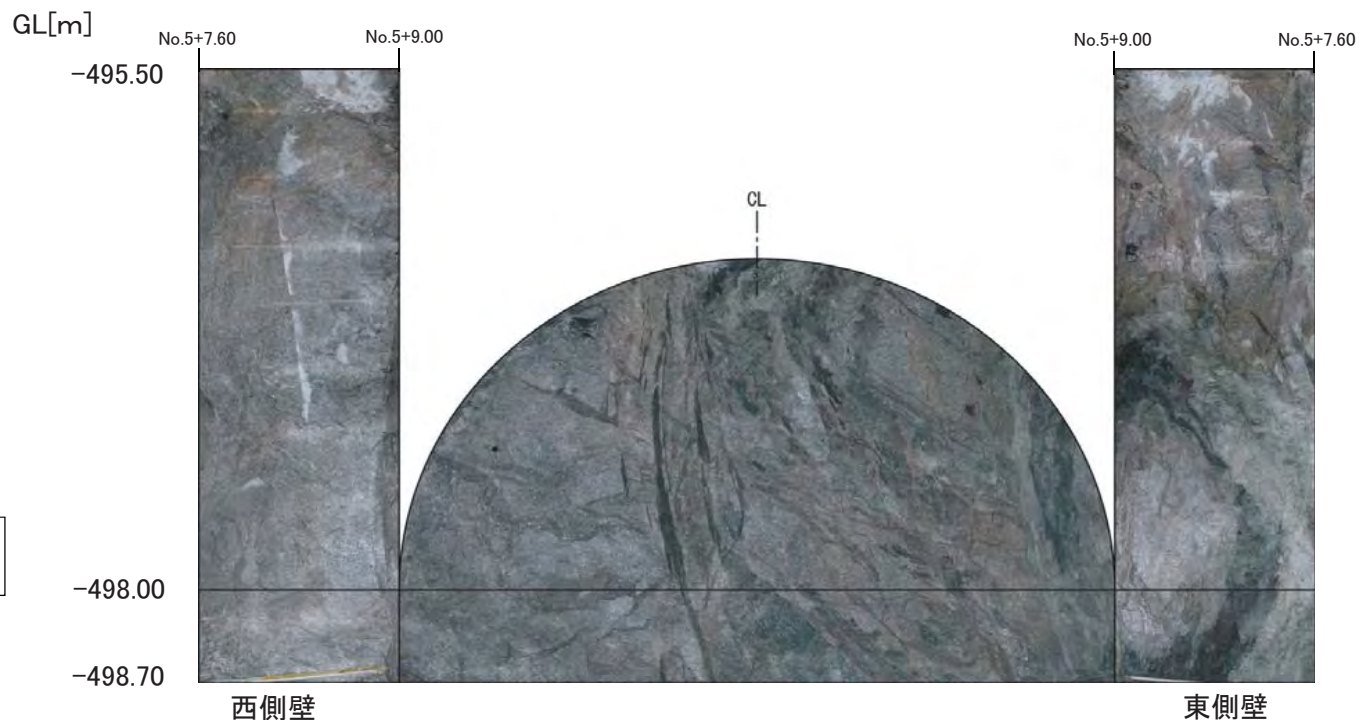
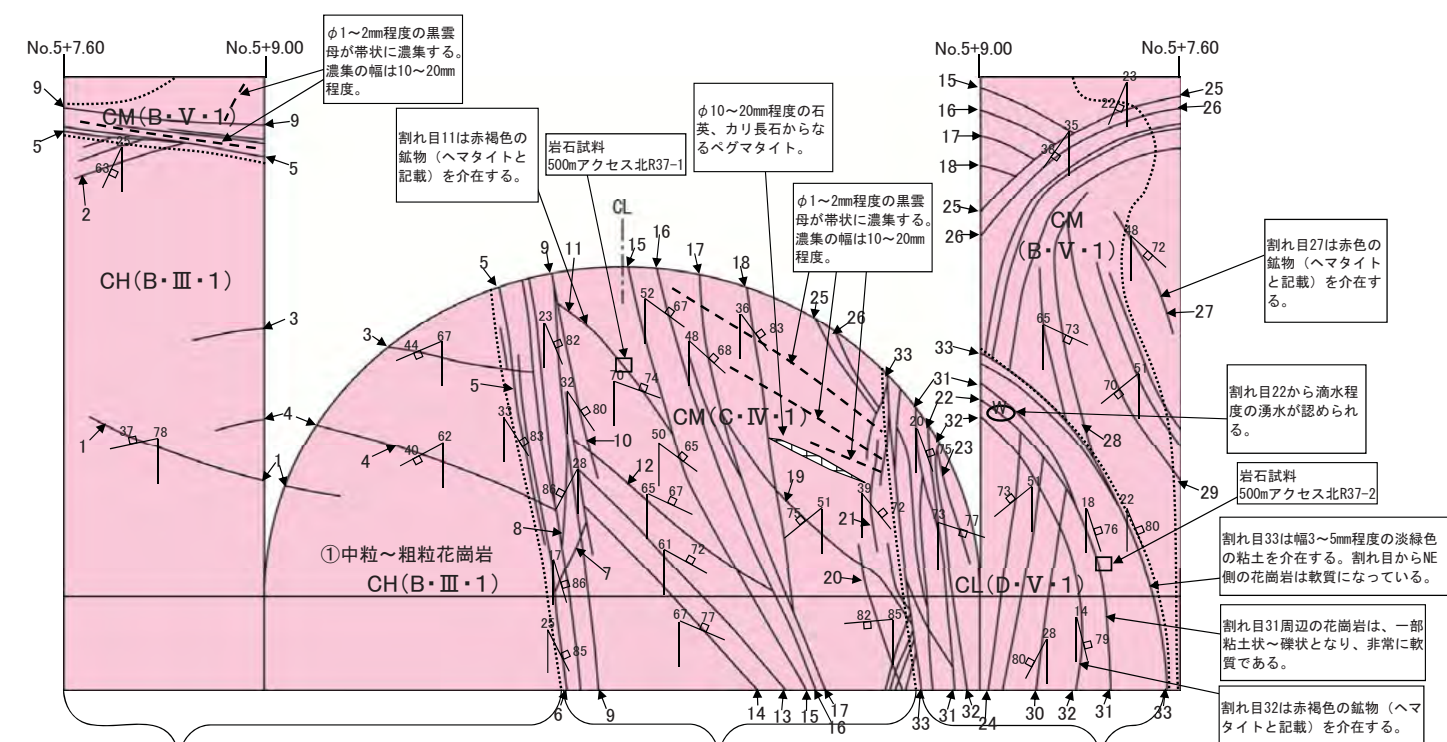
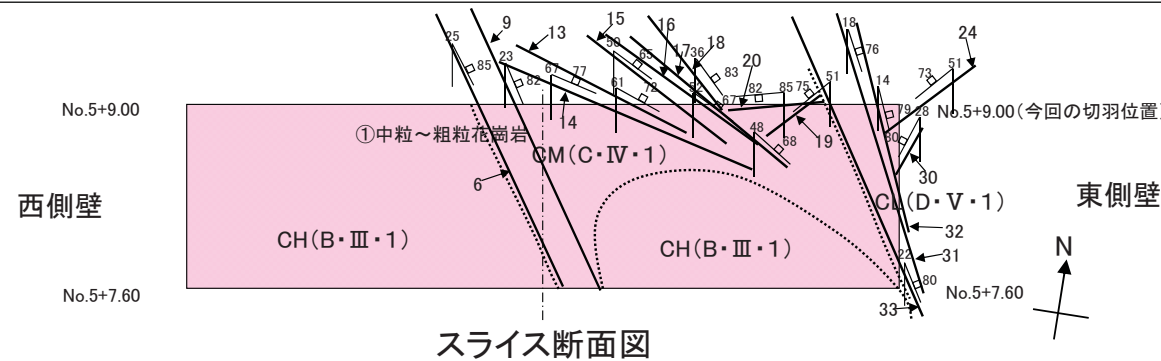
A5-請負-計測工(地質)-121031

シート番号	500mアクセス北坑道37	日時	2012/10/31 17:00~18:30	位置・深度	500mアクセス北坑道37 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	クロライト脈	ヘマタイト
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------	-------



NE走向中角度南傾斜と北傾斜の割れ目が30~50cm程度の間隔で認められる。割れ目はカルサイトと淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、ほとんどの有色鉱物が残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

WNW走向高角度北傾斜の割れ目が10~15cm程度の間隔で、NW走向高角度東傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度西傾斜の割れ目8が認められる。割れ目にはカルサイト、クロライト、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)を介在する。花崗岩は弱~中程度の変質を受け、黒雲母などの有色鉱物の一部から半数程度がクロライトに置き換わる。花崗岩は全体に橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度東傾斜の割れ目が3~10cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度西傾斜の割れ目24, 30が認められる。割れ目にはカルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)を介在する。花崗岩の変質の程度は強く、黒雲母などの有色鉱物のほとんどがクロライトに置き換わる。花崗岩は全体に淡緑色~暗緑色を呈する。ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	CH/CM/CL CH/CM/CL
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(淡桃色、橙色、淡緑色、暗緑色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	37 43
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R37-1(花崗岩), 500mアクセス北R37-2(花崗岩)	
変質	1~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質の程度は、割れ目6付近から西側では変質がほとんど無く、有色鉱物は概ね残存している。割れ目6付近から割れ目33付近の間は弱~中程度の変質により、有色鉱物の一部~半数程度がクロライトに置き換わっている。また、割れ目33付近から東側では変質の程度が強く、有色鉱物のほとんどがクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡緑色~暗緑色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目6付近から西側ではNE走向中角度南傾斜と北傾斜が認められる。割れ目6付近から割れ目33付近までは、WNW走向高角度北傾斜とNW走向高角度東傾斜が主体で、他にNE走向高角度西傾斜が認められる。割れ目33付近から東側の割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度東傾斜が主体で、他にNE走向高角度西傾斜が認められる。割れ目の介在物は、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)が認められる。湧水は東側壁の割れ目22から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目6付近から西側では、割れ目間隔が30~50cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目6付近から割れ目33付近の間は、割れ目間隔が6~15cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級と評価した。割れ目33付近から東側は、割れ目間隔が3~10cm程度で、ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さであることから、CL(D・Ⅴ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

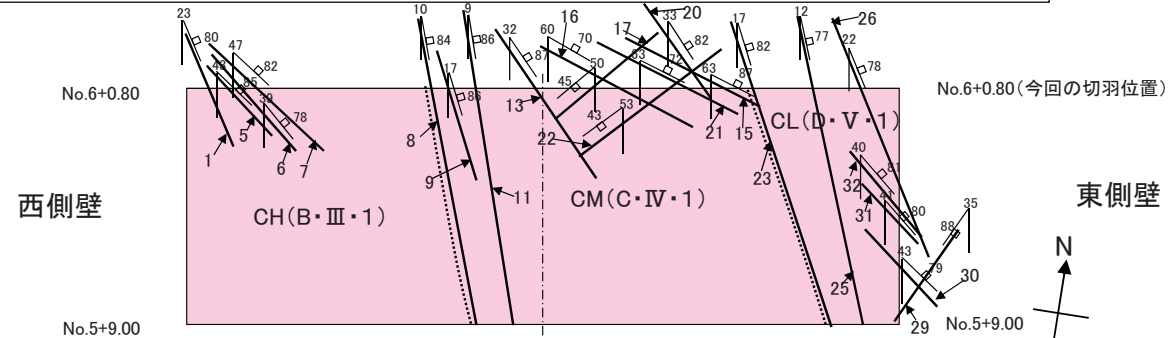
A5-請負-計測工(地質)-121101

シート番号	500mアクセス北坑道38	日時	2012/11/1 15:30~17:00	位置・深度	500mアクセス北坑道38 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

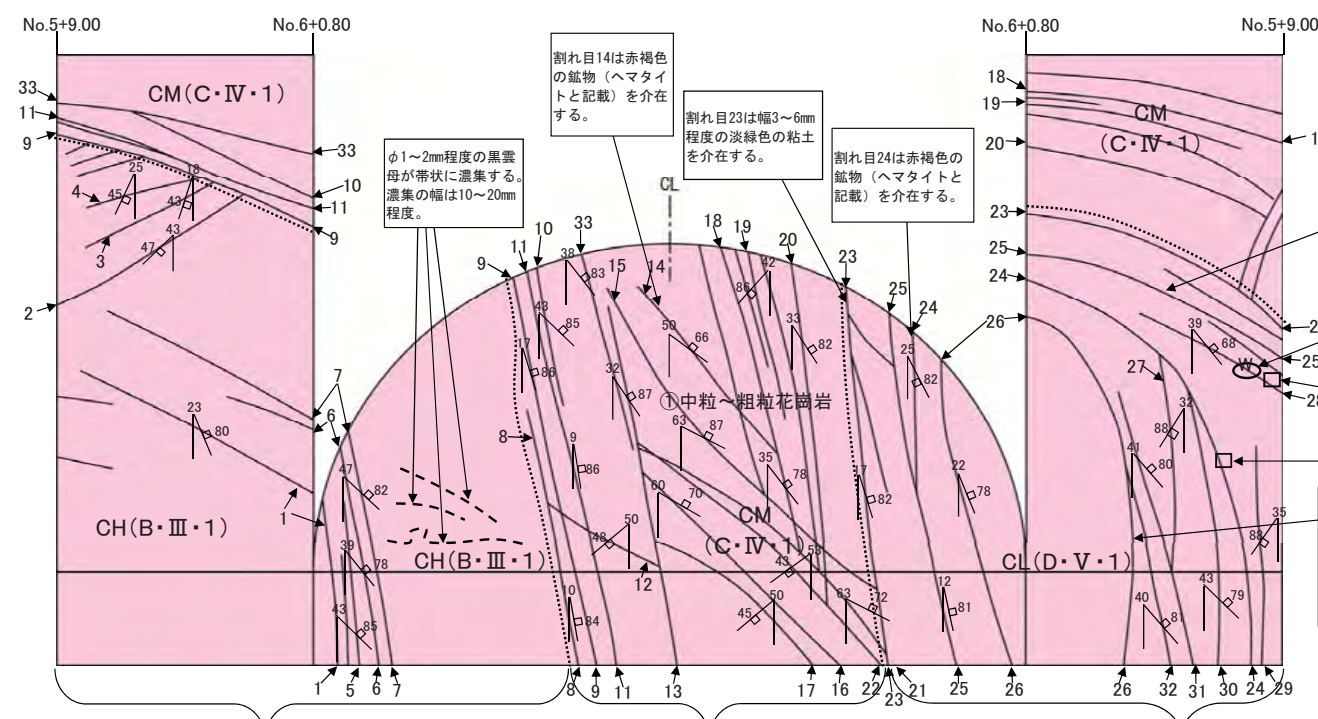
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

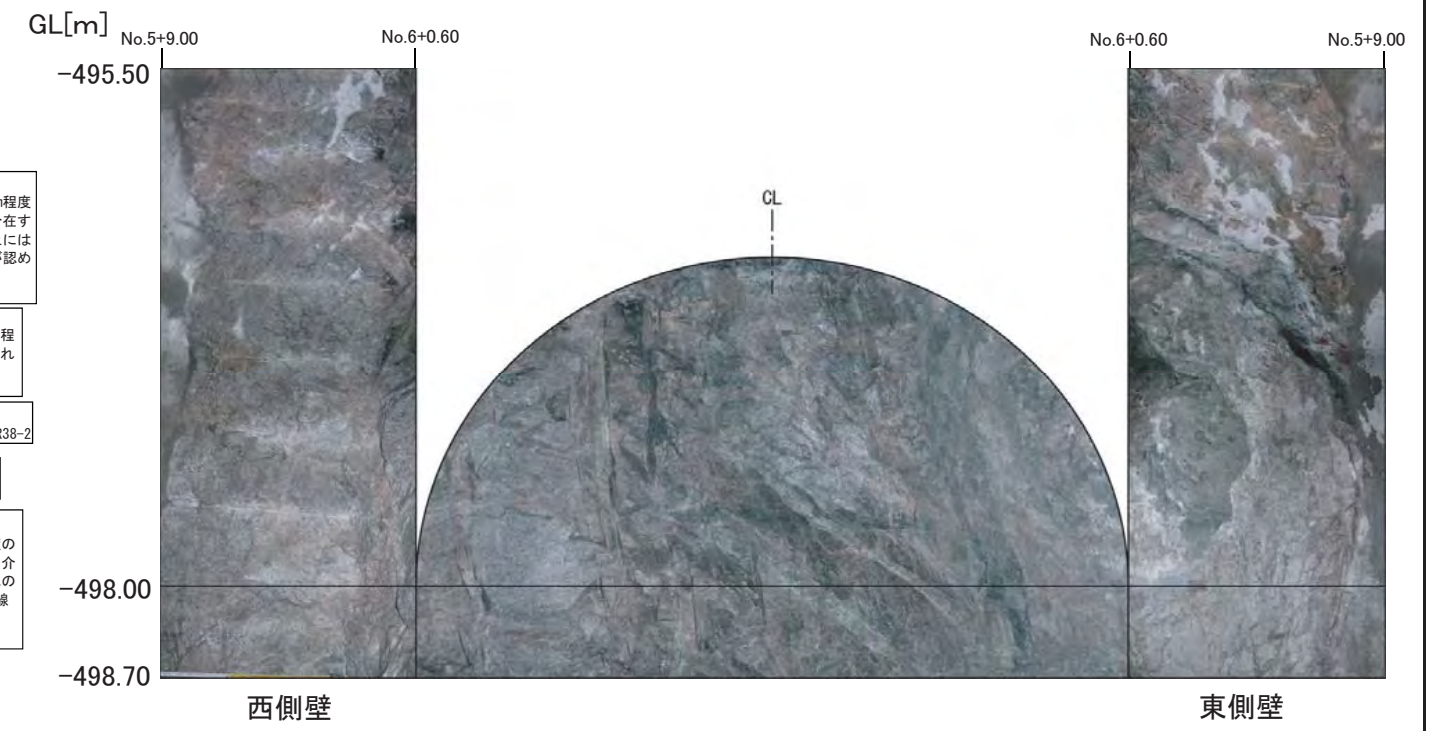
凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集
----	-----	-----	----------	--------	----	--------



スライス断面図



スケッチ



可視画像

NW走向高角度北傾斜の割れ目が20cm程度の間隔で認められる。他にNE走向中角度東傾斜の割れ目が認められる。割れ目にはクロライトとカルサイトを介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、ほとんどの有色鉱物が残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈し、割れ目の周辺の花崗岩は橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度東傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められ、この割れ目で止まるWNW走向高角度北傾斜の割れ目が10~20cm程度の間隔で、NE走向中角度東傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度東傾斜の割れ目19が認められる。割れ目にはカルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)を介在する。花崗岩は弱~中程度の変質を受け、黒雲母などの有色鉱物の一部から半数程度がクロライトに置き換わる。花崗岩は全体に橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

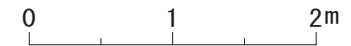
NW走向高角度東傾斜の割れ目が3~10cm程度の間隔で認められ、所々でNW走向高角度西傾斜の割れ目が派生している。他に、NE走向高角度東傾斜の割れ目27, 29が認められる。割れ目にはクロライト、淡緑色の粘土、暗灰色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)を介在する。花崗岩の変質の程度は強く、黒雲母などの有色鉱物のほとんどがクロライトに置き換わる。花崗岩は全体に淡緑色~暗緑色を呈する。ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	CH/CM/CL CH/CM/CL
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(淡桃色、橙色、淡緑色、暗緑色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	34 40
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R38-1(花崗岩), 500mアクセス北R38-2(花崗岩)	
変質	1~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.8m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質の程度は、割れ目8付近から割れ目23付近の間は弱~中程度の変質により、有色鉱物の一部~半数程度がクロライトに置き換わっている。また、割れ目23付近から東側では変質の程度が強く、有色鉱物のほとんどがクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡緑色~暗緑色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目8付近から西側ではNW走向高角度北傾斜が主体で、他にNE走向中角度東傾斜が認められる。割れ目8付近から割れ目23付近までは、NW走向高角度東傾斜とWNW走向高角度北傾斜、NE走向中角度東傾斜が主体で、他にNE走向高角度東傾斜が認められる。

割れ目23付近から東側の割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度東傾斜とNW走向高角度西傾斜が主体で、他にNE走向高角度東傾斜が認められる。割れ目25と26は介在物に線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。割れ目の介在物は、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、暗灰色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)が認められる。湧水は東側壁の割れ目28から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目8付近から西側では、割れ目間隔が20cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。割れ目8付近から割れ目23付近の間は、割れ目間隔が6~30cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級と評価した。割れ目23付近から東側は、割れ目間隔が3~10cm程度で、ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さであることから、CL(D・Ⅴ・1)級と評価した。



A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-130410

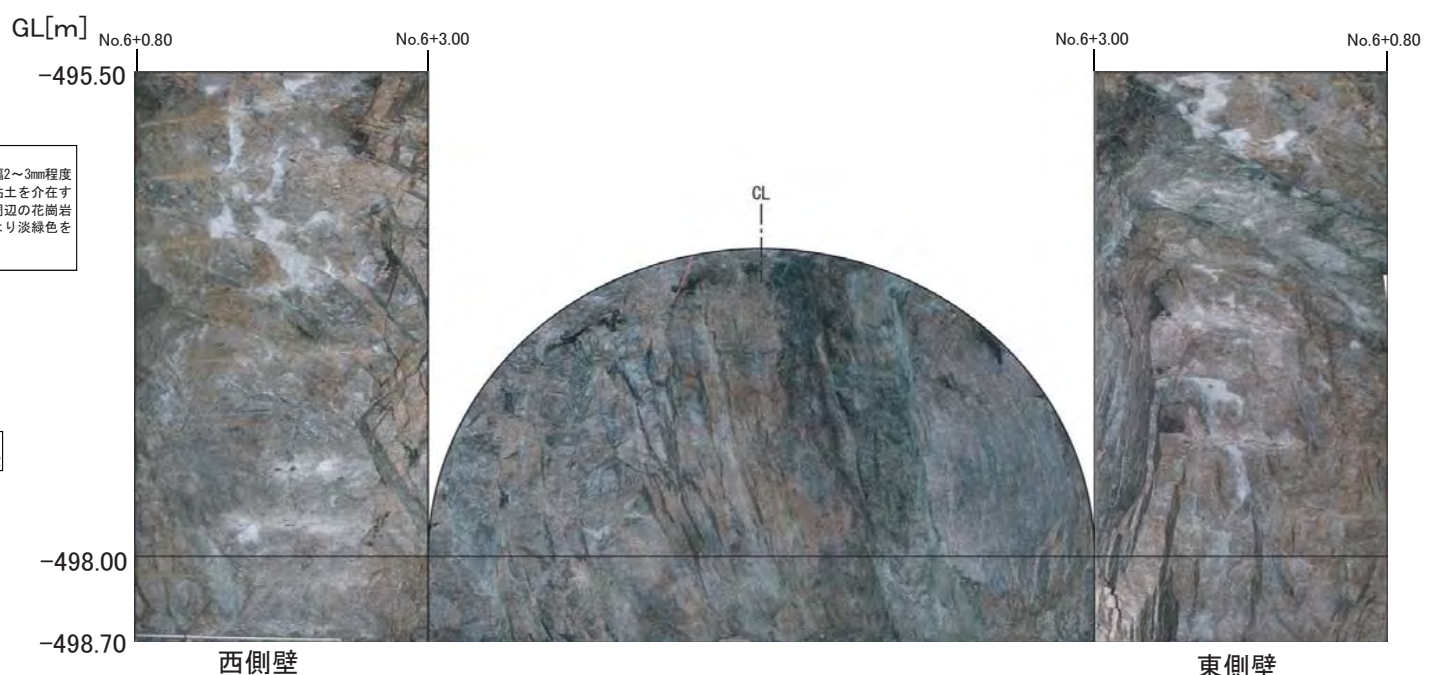
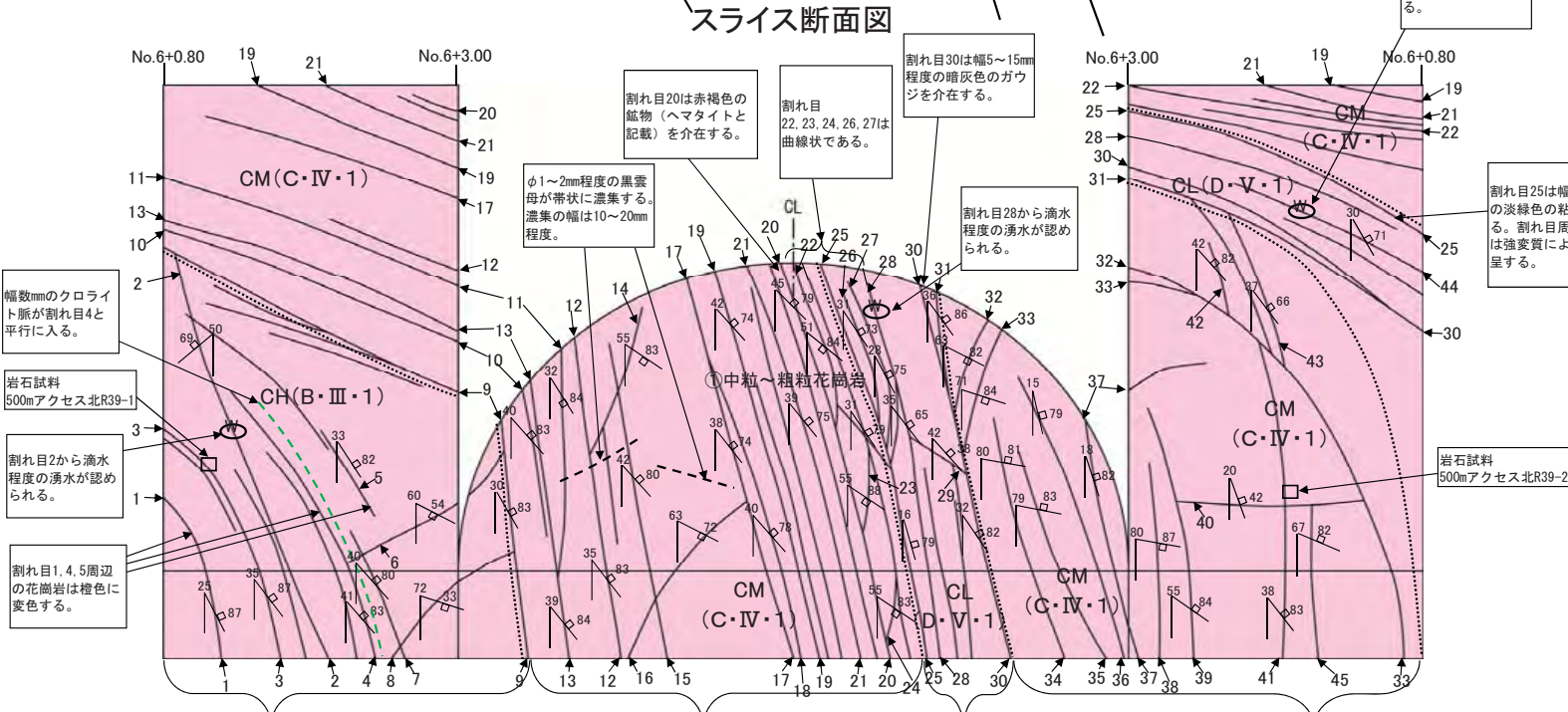
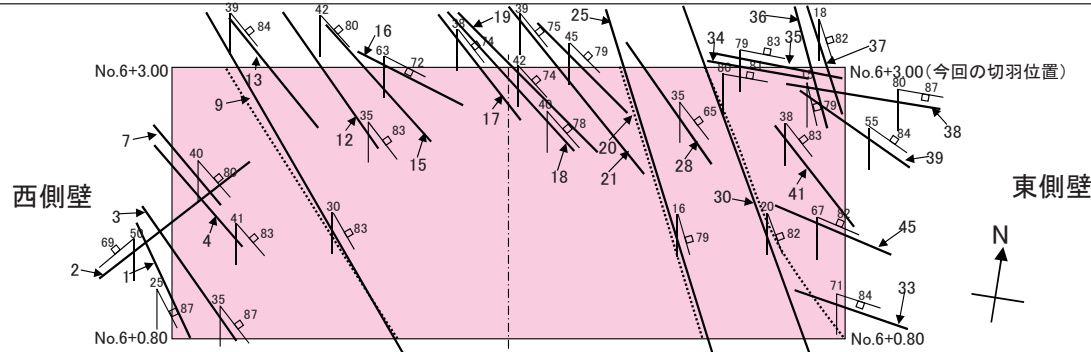
シート番号	500mアクセス北坑道39	日時	2013/4/10 16:30~18:00	位置・深度	500mアクセス北坑道39 G.L. -495.5 m~G.L. -498.7 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 クロライト脈



スケッチ

NW走向高角度東～北傾斜の割れ目が20cm程度の間隔で認められ、このNW走向の割れ目で止まるWNW走向中角度南傾斜の割れ目が30cm程度の間隔で認められる。他にNE走向高角度西傾斜の割れ目2が認められる。割れ目はクロライトとカルサイト、淡緑色の粘土、白色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、ほとんどの有色鉱物が残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈し、割れ目の周辺の花崗岩は橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度北～東傾斜の割れ目が6～20cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向高角度南傾斜の割れ目11, 14, 22, 23, 24およびNE走向高角度南傾斜の割れ目16が認められる。割れ目にはカルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)を介在する。花崗岩は中程度の変質を受け、黒雲母などの有色鉱物の半数程度がクロライトに置き換わる。花崗岩は全体に橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度北～東傾斜の割れ目とNW走向高角度西傾斜の割れ目が3～10cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向中角度北傾斜の割れ目29が認められる。割れ目にはカルサイト、クロライト、淡緑色の粘土を介在する。割れ目30, 31は暗灰色のガウジを介在する。花崗岩の変質は強く、黒雲母などの有色鉱物はほとんどクロライトに置き換わる。花崗岩は全体に暗緑色を呈する。ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さ。

WNW走向高角度南傾斜とWNW走向高角度北傾斜の割れ目が6～15cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向高角度北～東傾斜の割れ目36, 37, 41, 42, 43, 44、NW走向中角度東傾斜の割れ目40が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質は中程度で、黒雲母などの有色鉱物の半数程度がクロライトに置き換わる。花崗岩は全体に橙色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	CH/CM/CL CH/CM/CL
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡緑色、暗緑色)	RMR値	G.L. -495.5m~-498m G.L. -498m~-498.7m	24 30
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R39-1 (花崗岩), 500mアクセス北R39-2 (花崗岩)	
変質	1~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から2.2m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。花崗岩の変質の程度は、割れ目25付近から割れ目30~31付近の間は、強変質により有色鉱物はほとんどクロライトに置き換わっている。この間の花崗岩は全体に暗緑色を呈する。割れ目9付近から割れ目25付近の間と割れ目30~31付近から東側は、中程度の変質により、有色鉱物の半数程度がクロライトに置き換わり、カリ長石は橙色を呈する。また、割れ目9付近から西側では変質の程度が弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目30~31より西側では、NW走向高角度東～北傾斜と西～南傾斜が主体で、他にWNW走向中角度南傾斜や、NW走向中角度北傾斜、NE走向高角度西傾斜、NE走向高角度南傾斜が認められる。また、割れ目30~31より東側では、WNW走向高角度南傾斜とWNW走向高角度北傾斜が主体で、他にNW走向高角度北～東傾斜とNW走向中角度東傾斜が認められる。

割れ目30と31は幅1~15mm程度のカウジを介在することから、せん断割れ目と判断した。割れ目の介在物は、カルサイト、クロライト、淡緑色の粘土、白色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)が認められる。湧水は東側壁の割れ目2と鏡中央付近の割れ目28、天端中央付近の割れ目44から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目9付近から西側では、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・III・1)級と評価した。割れ目9付近から割れ目25付近の間と割れ目30~31付近から東側は、割れ目間隔が6~20cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・IV・1)級と評価した。割れ目25付近から割れ目30~31付近までの間は、割れ目間隔が3~10cm程度で、ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さであることから、CL(D・V・1)級と評価した。